

基準 8 施設・設備

(1) 観点ごとの分析

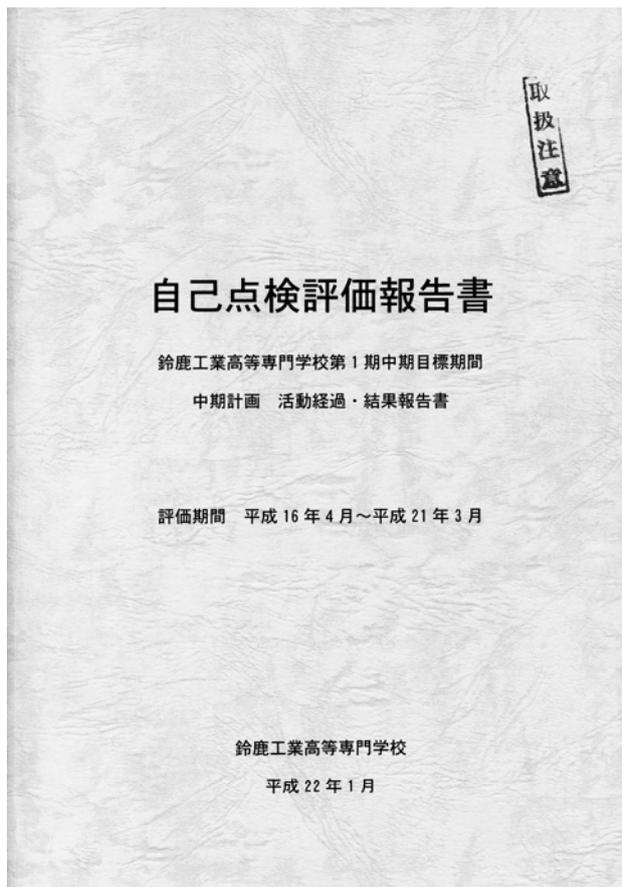
観点 8-1-①： 学校において編成された教育研究組織の運営及び教育課程の実現にふさわしい施設・設備が整備され、適切な安全管理の下に有効に活用されているか。また、施設・設備のバリアフリー化や環境面への配慮がなされているか。

(観点に係る状況)

本校の教育課程を実現するための施設・設備の現状、問題点及び改善方策については、中期計画自己点検評価報告書で公表（資料 8-1-①-1）しており、概算要求や営繕事業要求等によりその整備計画の実現を図っている（資料 8-1-①-2, 3）。その結果、校舎（電気電子工学科棟の改修、機械、電子情報、材料工学科棟の一部整備）及び共同利用施設（クリエーション工房（現 実習センター）【平成23年度補正】、青峰会館、第1, 2 体育館、屋外運動場）等を、教育環境等を考慮した施設・設備に整備・改善している（資料 8-1-①-4～7）。

資料 8-1-①-1

中期計画自己点検評価報告書



目次	
I 鈴鹿工業高等専門学校の現況及び特徴	5
II 目的	8
III 中期目標・中期計画	13
IV 自己点検評価	23
1 教育に関する状況	24
1-1 入学者の確保に関する取組状況	24
1-2 教育課程の編成等の状況	28
1-3 優れた教員の確保の状況	41
1-4 教育の質の向上及び改善の状況	47
1-5 学生支援・生活支援等の状況	59
1-6 教育環境の整備・活用状況	71
2 研究に関する状況	80
3 社会との連携、国際交流に関する状況	88
4 管理運営に関する状況	97
5 業務運営の効率化の状況	106
6 財務内容の改善に関する状況	108
資料	113

(出典 総務課資料)

資料 8-1-①-2

施設整備要求事項

年度	事 項 名	構造・階	面積[m <sup>2</sup> ]	採択
19 年度	課外活動施設改修 旧第 3 青峰寮	R3	1,350	×
	基幹・環境整備（共同溝，配管等）		一式	×
	宿舎改修 職員宿舎	R4 R2	1,510 390	×
20 年度	クリエーション工房改修（旧実習センター）	S1	2,130	×
	基幹・環境整備（共同溝，配管等）		一式	×
21 年度	電気電子工学科棟改修	R3	1,730	○ 20 年度補正
	基幹・環境整備（共同溝，配管等）		一式	×
22 年度	クリエーション工房改修（現 実習センター）	S1	2,130	×
23 年度	クリエーション工房改修（現 実習センター）	S1	2,130	○ 23 年度補正 （第 3 号）

（出典 総務課資料）

資料 8-1-①-3

施設設備に関する営繕事業要求事項

年度	事 項 名	構造	改修面積[m <sup>2</sup> ]	採択
19 年度	屋外運動場改修	—	—	○
	基幹・環境整備	—	—	×
	さく井整備	—	—	×
	職員宿舎耐震診断・耐震補強	W	305	×
	第 2 体育館等耐震改修	S	—	○
	青峰会館耐震改修	R	—	○
20 年度	構内埋設給水管改修	—	—	○
	実習センター電気設備改修	S	2,001	○
	テニスコート照明設備設置	—	—	×
	管理棟便所改修	R	90	○
	電気電子工学科棟屋上防水改修	R	—	×
	第 1 体育館耐震改修	R	1,485	○
	材料工学科棟南側自転車置場改修	—	—	○
21 年度	電気設備中央監視設備	R・S	280	○
	構内揚水ポンプ改修	R・B	63	×
	機械工学科棟便所改修	R	67	×
	専攻科棟空調機改修	R	702	×

施設設備に関する営繕事業要求事項

年度	事 項 名	構造	改修面積[m <sup>2</sup> ]	採択
22 年度	構内埋設消火管改修	—	—	○
	材料工学科棟外部建具改修	R	1,139	×
	専攻科棟空調改修	R	1,205	×
	青峰寮 A 屋上防水改修	R	544	×
	構内揚水ポンプ改修	R・B	63	×
23 年度	機械工学科棟便所改修	R	76	○
	専攻科棟空調機改修	R	722	○
	青峰寮 A 屋上防水改修	R	544	×
	材料工学科棟外部建具改修	R	362	○
	青峰会館屋上防水改修	R	393	×

(出典 総務課資料)

構内建物配置図

配置図 Campus Map



(出典 総務課資料)

施設一覧

用途	施設名称	建築年	構造	階数	建物面積 (㎡)	大規模改修歴			
						外部改修年	内部改修年	耐震改修年	
校舎等	機械工学科棟	S40 S42	R	2	2,117	H6			
	電気電子工学科棟	S39 H22	R	3	1,783	H22	H22	H22	
	電子情報工学科棟	H3 H11	R	4	3,339				
	生物応用化学科教室棟	S38 S39 S40 S42 S58	R	3	5,264	H6	H11	H11	
	材料工学科棟	S42	R	3	1,139	H6			
	専攻科棟	H6	R	4	1,205				
	実習センター	第1実習工場	S39	S	1	715			
		第2実習工場	S42	S	1	539			
		第3実習工場	S43	S	1	695			
	共同研究推進センター	S47	R	1	323				
	共同研究推進センター(材料分析室)	S61	S	1	204				
	機械工学科・生物応用化学科薬品庫	S47	B	1	30				
	材料工学科薬品庫	S42	B	1	42				
管理施設	管理棟	S38	R	3	1,754	H6			
	守衛室棟	S38	W	1	61				
	物品倉庫(2棟)	S38 S42	W B	1	93				
	環境整備室	S39	S	1	97				
	車庫	S57	S	1	177				
	廃水処理施設(3棟)	S54	R S	1	95				
	女子便所	H1	S	1	37				
図書館等	マルチメディア棟	S45 H13	R	2	2,447	H13	H13		
運動場施設	第1体育館	S40	R	1	1,485	H6		H20	
	第2体育館	S55	S	1	880	H22		H19	
	剣道場(修道館)	S40	W	2	543	S61			
	柔道場(弘道館)	S44	S	1	291	H23		H19	
	弓道場(志誠館)	S40	W	1	131				
	プール付属室(4棟)	S47	B	1	58				
	プール女子更衣室	H13	B	1	25				
	体育器具庫(2棟)	S39 S40 S41	B	1	153				
	体育更衣室	S53	R	1	50				
学生部室	S55	S	1	136					
福利施設	青峰会館	S56	R	2	743			H20	
	課外活動施設	S39 S40 S48	W	1	128				
寄宿舎	第1青峰寮	S39 S40 S41	R	3	1,731	H8	H8	H8	
	第2青峰寮	S38 S46	R	3	1,342	H15	H15	H15	
	第3青峰寮	S42 S48	R	3	1,350				
	第4青峰寮	S43 S44	R	4	3,053	H6	H6	H6	
	青峰寮A	H5	R	5	2,209				
	寮食堂	S43	S	1	580	H11	H11	H11	
	浴室(鈴の湯, 鹿の湯)	S38 S41 S43	R	1	236	H6	H6		
	寮管理棟	S38 S39 S41	R	1	226	H6	H6		
設備室	ボイラー室	S42	S	1	183				
	ポンプ室	S52	B	1	25				
	ヘッダー室	S42 S52	B	1	21				
職員宿舎	職員宿舎(24戸)	S39 S40 S44	W	1	1,309				
	計				39,044				

(出典 総務課資料)

資料 8-1-①-6

校地内訳

土地区分	敷地面積 (㎡)	内 訳 (㎡)		
本校	120,551	校舎敷地		54,296
		屋外運動場	陸上競技場	20,175
			テニスコート	4,412
			野球場	11,371
			プール	1,133
		寄宿舍敷地		18,124
		職員宿舍敷地		9,008
		その他		2,032

(出典 総務課資料)

資料 8-1-①-7

屋外運動場整備状況

施設名称	数量	摘要	夜間照明の有無
陸上競技場	1	400mトラック (緑色スクリーニングス) 6 コース	部分照明
テニスコート	1	緑色スクリーニングス 6 面	
野球場	1	両翼約 90m	
プール	1	25m 7 コース スチール製防水塗装	無

(出典 総務課資料)

全教室への「教室内・画像掲示装置」，液晶プロジェクター及びスクリーン，大実験室や 50 名近い教室への放送設備等を配備したことにより，講義の多様化や受講する学生の教育環境は向上している（資料 8-1-①-8）。安全対策として，耐震診断値の低い電気電子工学科棟の改修が平成 20 年度第 2 号補正により認められ，教育環境の向上に役立っているが，改修が遅れている老朽化した校舎（機械工学科棟，材料工学科棟）の整備は，今後の課題である（資料 8-1-①-9）。

共同利用施設のうち，図書館，情報処理センター，視聴覚室，語学演習室 (LL)，学生支援室及び保健室をマルチメディア棟内に設置している（資料 8-1-①-10~17）。図書館の所蔵図書は約 11 万冊であり，閲覧室のほかに電子閲覧・検索ができる進学就職コーナーを設け，平日 22 時，土曜日は 17 時まで利用できる。情報処理センターは，それぞれ 50 台以上の教育用コンピュータが使用できる 2 つの演習室とビデオ編集，ポスター作成などを行う演習室を有し，授業外でも利用できるように平日 20 時まで開放している。

資料 8-1-①-8

教室整備状況 (平成 23 年度)

部屋名称		面積 (㎡)	部屋数 (室)	収容者数 (人)	一人当たりの 面積 (㎡)	冷暖房 の有無	設備
クラス ルーム	学科	72 ~ 87	25	40	1.8 ~ 2.1	有	プロジェクター スクリーン 全室設置 ビデオデッキ 8 台 放送設備 15 台
	専攻科	51	2	12	4.2		
		37	2	8	4.6		
第 1 講義室		59	1	54	1.1		
第 2 講義室		81	1	50	1.6		
大講義室		102	1	80	1.3		
第 1 合併教室		89	1	88	1.0		
第 2 合併教室		119	1	120	1.0		
第 3 合併教室		208	1	210	1.0		

(出典 総務課資料)

資料 8-1-①-9

実験・実習室整備状況 (平成 22 年度)

学科名称	部屋数 (室)	総面積 (㎡)	冷暖房設備の設置割合 (%)		使用上の問題の割合 (%)	
			冷房	暖房	老朽化関連	狭隘化関連
機械工学科	20	1,223	55	85	79	37
電気電子工学科	18	841	100	100	0	0
電子情報工学科	16	887	81	100	0	13
生物応用化学科	30	1,431	90	100	7	7
材料工学科	24	1,188	50	79	75	46
専攻科	7	382	100	100	13	13
教養教育科	5	347	80	100	0	40
共用室	6	629	83	100	17	0
計	126	6,928				

(出典 総務課資料)

資料 8-1-①-10

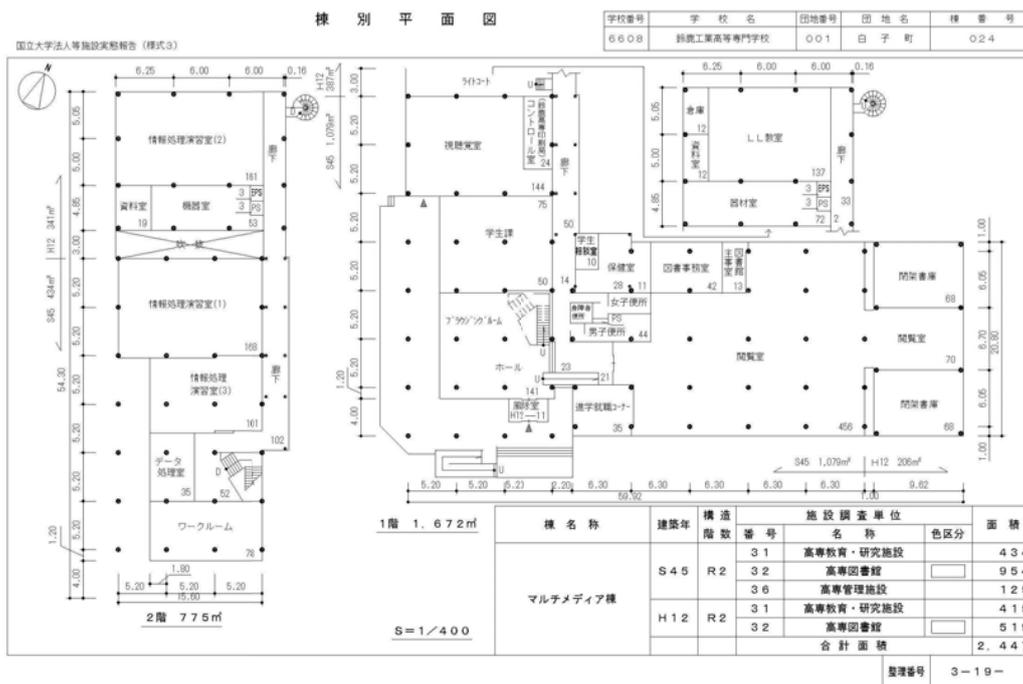
共同利用施設一覧 (平成 23 年度)

名 称		面積 (㎡)	開館時間, 収容者数, 設備等
図書館	閲覧室 (閉架含む)	662	平日 9 時～22 時 (土曜日 9 時～17 時), 100 席
	進学就職コーナー	35	平日 8 時 30 分～22 時 (土曜日 9 時～17 時), 7 席, パソコン 4 台
情報処理センター	第一演習室	168	平日 8 時 45 分～17 時, パソコン 51 台, プロジェク ター・スクリーン
	第二演習室	161	平日 8 時 45 分～20 時, パソコン 53 台, プロジェク ター・スクリーン
	第三演習室	101	平日 8 時 30 分～17 時, パソコン 1 台
視聴覚室		144	98 席, 放送設備, プロジェクター・スクリーン
語学演習室 (LL)		137	平日 8 時 40 分～23 時, 50 席, パソコン 17 台
学生相談室・保健室		49	学外カウンセラーによる相談を週 1 回実施
共同研究推進センター		289	平日 8 時 45 分～23 時, プロジェクター, 会議室
共同研究推進センター (材料分析室)		202	平日 8 時 45 分～23 時, レーザー加工機・電子顕微鏡
実習センター		1,616	平日 8 時 45 分～18 時, ロボドリル・NC 旋盤等

(出典 総務課資料)

資料 8-1-①-11

マルチメディア棟平面図



(出典 総務課資料)

資料 8 - 1 - ① - 12

平成17年1月17日

規則第73号

最終改正平成23年4月1日

○ 図書館規則

(趣旨)

第1条 この規則は、鈴鹿工業高等専門学校学則（平成16年学則第1号。以下「学則」という。）第5条の規定に基づく図書館の運営に関し、必要な事項を定めるものとする。

(目的)

第2条 図書館は、教育及び研究に必要な図書館資料を収集し、保存し、主として本校の学生及び教職員の利用に供するとともに、必要な学術情報及び生涯学習情報を提供することを目的とする。

(図書館資料)

第3条 図書館は、次の図書館資料を管理する。

- (1) 図書
- (2) 新聞、雑誌等逐次刊行物
- (3) 視聴覚資料
- (4) 記録
- (5) その他図書館資料として、必要と認めるもの

(図書館の利用等)

第4条 図書館の利用及びその手続は、校長が別に定める。

(図書館長)

第5条 図書館に図書館長（以下「館長」という。）を置き、図書館主事をもって充てる。

2 館長は、校長の命を受けて図書館の業務を掌理する。

(個人情報の漏えい防止)

第6条 図書館において管理する歴史的若しくは文化的な資料又は学術研究用の資料に記録されている個人情報（公文書等の管理に関する法律施行令第4条第5号で規定する個人情報をいう。）については、独立行政法人国立高等専門学校機構個人情報管理規則（機構規則第65号第40条）の規定に基づき、その漏えい防止のための措置を講ずるものとする。

(庶務)

第7条 図書館に関する庶務は、学生課において処理する。

(雑則)

第8条 この規則に定めるもののほか、図書館の運営その他必要な事項は、図書・文化委員会等の議を経て、校長が別に定める。

附則

この規則は、平成17年1月17日から施行し、平成16年4月1日から適用する。

附則

この規則は、平成17年4月1日から施行する。

附則

この規則は、平成23年4月1日から施行する。

(出典 本校ウェブサイト学内専用ページ 図書館規則)

図書館利用規則（抜粋）

平成 17 年 1 月 17 日  
規則 第 7 4 号

（開館日）

第 3 条 図書館は、下記の休館日及び図書館長が定める臨時休館日を除き、開館するものとする。

- (1) 国民の祝日に関する法律に規定する休日
- (2) 日曜日
- (3) 年末年始（12月28日から1月4日まで）

（開館時間）

第 4 条 開館時間は、次のとおりとする。

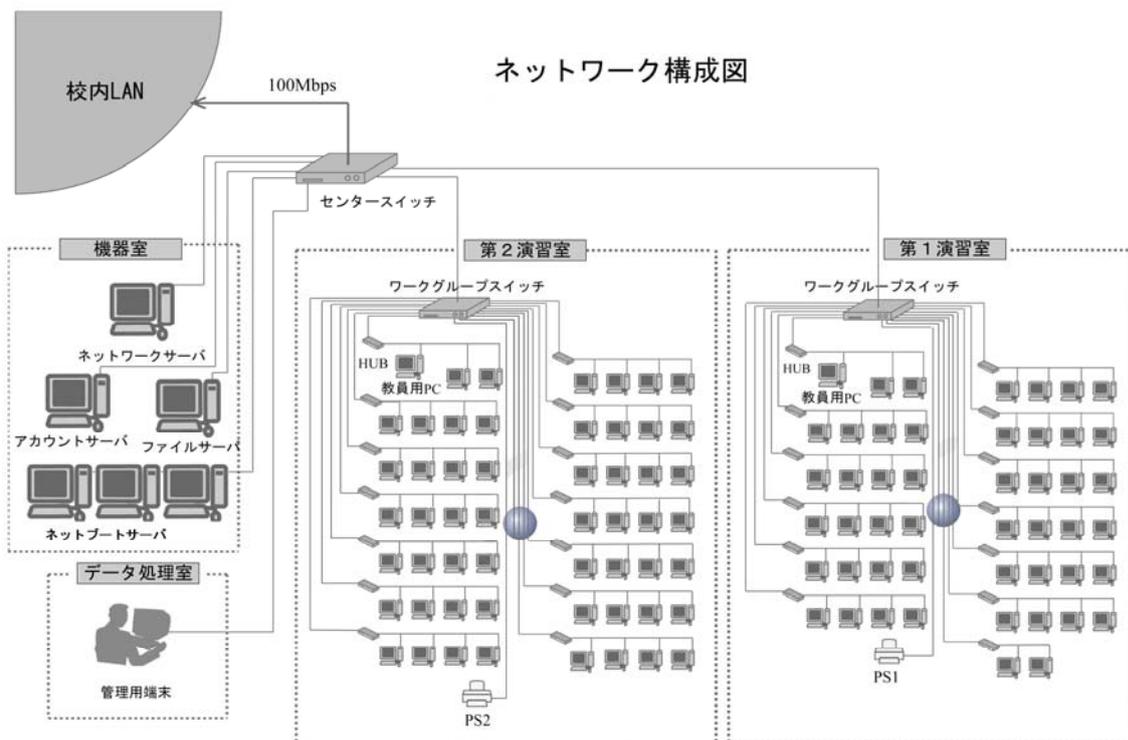
平 日 9時から22時まで  
土曜日 9時から17時まで

2 前項の規定にかかわらず、学則第12条に規定する春季休業、夏季休業、冬季休業、学年末休業及び臨時の休業日並びに図書館長が別に定める日の開館時間は、次のとおりとする。

平 日 9時から17時まで

（出典 本校ウェブサイト学内専用ページ 図書館利用規則）

情報処理センター 演習室構成図



（出典 学生課資料）

平成 16 年 4 月 1 日  
規則 第 34 号  
最終改正平成22年9月6日

○ 情報処理センター規則

(趣旨)

第 1 条 この規則は、鈴鹿工業高等専門学校学則（平成16年学則第 1 号。以下「学則」という。）第 7 条の規定に基づき、情報処理センター（以下「センター」という。）の運営に関し、必要な事項を定めるものとする。

(業務)

第 2 条 センターは、次の各号に掲げる業務を行う。

- (1) 電子計算機の運用及び保守に関すること。
- (2) 電子計算機による情報処理教育の支援に関すること。
- (3) 電子計算機の利用に関する調査、研究開発及び利用者教育に関すること。
- (4) 他機関の情報処理センター等の利用に関すること。
- (5) 学内外ネットワークの管理、運用に関すること。
- (6) ホームページの作成に関すること。
- (7) 校内 LAN の活用推進に関すること
- (8) その他センターの運営に必要な事項

(センター長及び副センター長)

第 3 条 センターに、センター長及び副センター長を置き、校長が指名する。

- 2 センター長は、校長の命を受けてセンターの業務を掌理する。
- 3 副センター長は、センター長を補佐する。
- 4 センター長に事故あるときは、副センター長がその職務を代行する。

(センター職員)

第 4 条 センターに技術職員若干名を置く。

- 2 センター職員は、センター長の命を受けてセンターの業務を処理する。

(情報処理センター運営協力会議)

第 5 条 情報管理委員会で審議された事項、情報セキュリティに関する事項、情報処理センターの運営、業務の企画立案、連絡調整並びにその実施を図るため、情報処理センター運営協力会議（以下「会議」という。）を置く。

2 会議の構成員は、センター長、副センター長、教養教育科及び各学科から選出された教員、センター職員及びセンター長が指名する事務職員とする。

3 センター長は、必要に応じ会議を開催し、その議長となる。

(庶務)

第 6 条 センターに関する庶務は、関係課の協力を得て総務課において処理する。

(雑則)

第 7 条 この規則に定めるもののほか、センターの運営その他必要な事項は、情報委員会等の議を経て、校長が別に定める。

附 則

この規則は、平成16 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

この規則は、平成17 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

この規則は、平成19 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

この規則は、平成20 年 5 月 1 日から施行する。

附 則

この規則は、平成 22 年 9 月 6 日から施行する。

(出典 本校ウェブサイト学内専用ページ 情報処理センター規則)

平成 16 年 4 月 1 日

校 長 裁 定

## ○ 情報処理センター利用内規

情報処理センター（以下「センター」という。）の利用に関し、必要な事項を次のように定める。

## （使用時間）

1 センターの使用時間は、次のとおりとする。

(1) 春期休業、夏期休業、冬期休業及び臨時休業の日並びに国民の祝日に関する法律に規定する休日を除く期間

平 日 8:45～20:00

(2) 春期休業、夏期休業、冬期休業及び臨時休業の日

平 日 8:45～17:00

## （利用の制限）

2 センター長は、次のいずれかに該当する場合は使用を認めない。

(1) 使用の内容がセンターの業務の範囲外であるとき。

(2) 施設設備の維持・保守及び安全管理上、支障があるとき。

(3) 他の者による利用又は故障などのため、その設備が利用出来ないとき。

(4) その他利用が深夜に及ぶなど、運営上特に支障があると認めたとき。

## （利用者の留意事項）

3 利用者は、次の事項を遵守しなければならない。

(1) センターの備品、書類その他の物件に許可無く触れないこと。

(2) センター員が禁止する操作、行為等を行わないこと。

(3) 計算機の操作には、細心の注意を払うこと。

(4) 利用中に機器の故障又は障害が発生したときは、直ちにセンター員に報告すること。

## （ネットワーク利用者の留意事項）

4 インターネット等ネットワークの利用者は、次の事項を厳守しなければならない。

(1) いかなる違法行為、及び公序良俗に反する行為を行わないこと。

(2) ネットワークを利用した営利行為を行わないこと。

(3) 本校の品位を傷つける行為を行わないこと。

## （経費の負担）

5 センター長は、利用者に必要な経費を負担させる場合がある。

## （その他）

6 利用者は、センターの施設・設備を滅失又は損傷したときは、これを現状に回復し、又はその損害を賠償しなければならない。ただし、利用者が適正な使用上において生じたものについては、この限りではない。

## 附 記

この内規は、平成 16 年 4 月 1 日から実施する。

（出典 本校ウェブサイト学内専用ページ 情報処理センター利用内規）

平成 16 年 4 月 1 日  
規則 第 21 号  
最終改正平成 19 年 3 月 5 日

○ 学生支援室規則

(趣旨)

第 1 条 この規則は、鈴鹿工業高等専門学校学則（平成 16 年学則第 1 号。以下「学則」という。）第 7 条の規定に基づき、学生支援室（以下「支援室」という。）の運営に関し、必要な事項を定めるものとする。

(業務)

第 2 条 支援室は、次の各号に掲げる業務を行う。

- (1) 学習上の相談及び助言に関する事。
- (2) 進路の相談及び助言に関する事。
- (3) 精神衛生上の相談及び助言に関する事。
- (4) 学生生活に関する個人的諸問題の相談及び助言に関する事。
- (5) 学生のセクシュアル・ハラスメントに関する苦情相談に関する事。
- (6) 学生相談の業務に必要な資料の収集及び保存に関する事。
- (7) その他支援室の運営に必要な事項

(支援室長)

第 3 条 支援室に支援室長（以下「室長」という。）を置き、校長が指名する。

2 室長は、校長の命を受けて支援室の業務を掌理する。

(支援室相談員)

第 4 条 支援室に次の教職員及びカウンセラーで構成する学生支援室相談員を置く。

- (1) 一般科目及び学科の教員 各 1 人
- (2) 看護師
- (3) カウンセラー
- (4) その他校長が必要と認めた者

2 支援室相談員は、支援室長の命を受けて支援室の業務を処理する。

(支援室運営協力会議)

第 5 条 支援室の運営、業務の企画立案及び連絡調整並びにその実施を図るため、支援室運営協力会議（以下「会議」という。）を置く。

2 会議の構成員は、学生支援室長、学生主事、学生課長及び学生支援室相談員をもって充て、校長が指名する。

3 支援室長は、必要に応じ会議を開催し、その議長となる。

(学年主任等との連携)

第 6 条 支援室は、学年主任、学級担任、担任補佐及びその他相談業務に係る関係教職員との緊密な連携及び協力の下に業務を行うものとする。

(秘密の保持)

第 7 条 学生支援室相談員の業務を処理するに当たっては、個人の秘密が厳守されなければならない。

(庶務)

第 8 条 支援室に関する庶務は、学生課において処理する。

(雑則)

第 9 条 この規則に定めるもののほか、支援室の運営その他必要な事項は、学生委員会等の議を経て、校長が別に定める。

附 則

この規則は、平成 16 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

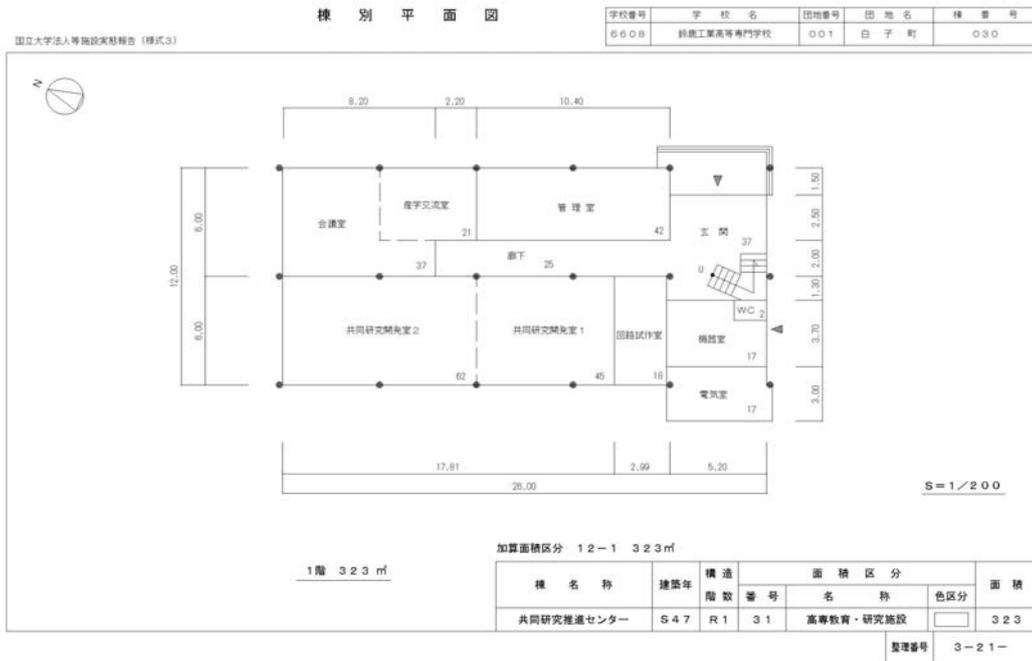
この規則は、平成 19 年 4 月 1 日から施行する。

(出典 本校ウェブサイト学内専用ページ 学生支援室規則)

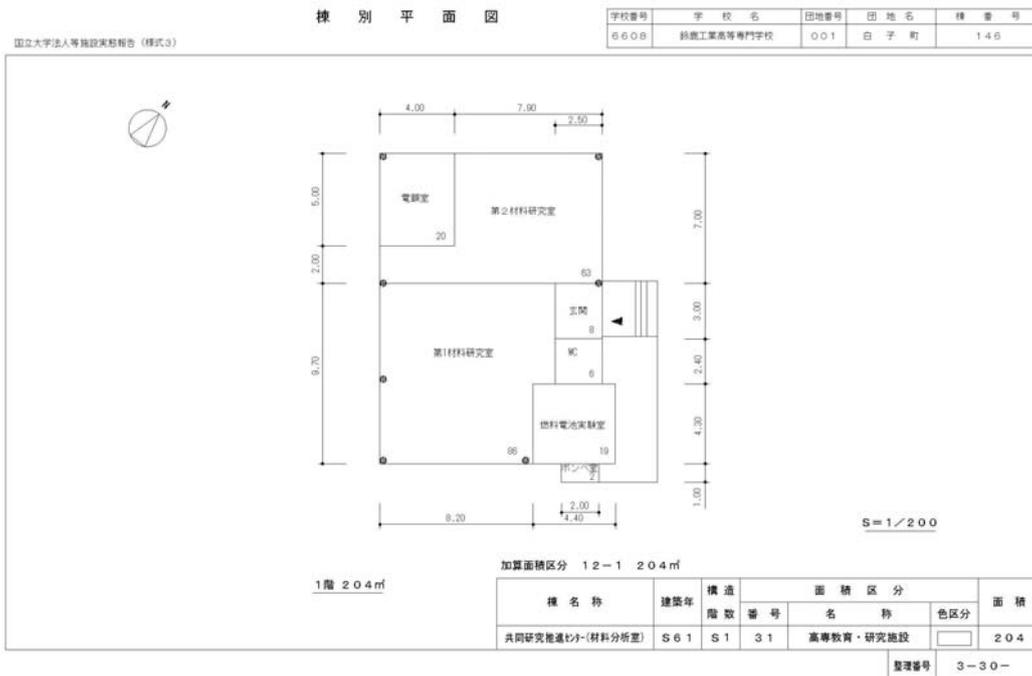
共同研究推進センター、実習センター、各実験室及び研究室（資料 8-1-①-18~26）には、資料 8-1-①-27 のような設備を、理工系教育高度化設備費及び高専教育充実設備費等により導入している。このように、本格的な創造（エンジニアリングデザイン）教育を展開するために整備した各施設・設備は、学科の学生実験、卒業研究、専攻科特別研究、実習・実験、全学科共通科目の創造工学等の授業のみならず、ロボコンやソーラーカー等における製作にも役立っている。

資料 8-1-①-18

共同研究推進センター平面図



棟別平面図



(出典 総務課資料)

共同研究推進センター利用状況

【平成 19 年度】

研究体制				プロジェクト研究名	主な研究費					共同研究開発室使用期間
学内	他大学・高専	民間企業	公設研究機関 その他		授業料収入	科学研究費	寄附金	共同研究	受託研究	
○	○			太陽光利用発電プロジェクト				○		平成 19 年 5 月 1 日～平成 20 年 3 月 31 日
○	○			脊椎動物のニューロマスキュラーシステムのモデリングに関する研究	○			○		平成 19 年 4 月 2 日～平成 19 年 9 月 30 日
○	○			高感度ひずみセンサー用材料の開発					○	平成 19 年 4 月 1 日～平成 19 年 9 月 30 日
		○		カーボンナノチューブを利用した液晶用バックライトの開発				○		平成 19 年 4 月 1 日～平成 19 年 9 月 30 日
○	○			熱放射材料の開発					○	平成 19 年 5 月 1 日～平成 20 年 3 月 31 日
	○			マイクロ・ナノバブルの特性調査研究					○	平成 19 年 5 月 1 日～平成 20 年 3 月 31 日
		○		オゾン発生解明 プロジェクト					○	平成 19 年 4 月 1 日～平成 20 年 3 月 31 日
		○		ニッケル極充電機構解明 プロジェクト					○	平成 19 年 4 月 1 日～平成 20 年 3 月 31 日
○				燃料電池プロジェクト	○					平成 19 年 4 月 1 日～平成 20 年 3 月 31 日

【平成 20 年度】

研究体制				プロジェクト研究名	主な研究費					共同研究開発室使用期間
学内	他大学・高専	民間企業	公設研究機関 その他		授業料収入	科学研究費	寄附金	共同研究	受託研究	
○	○			高感度ひずみセンサー用材料の開発					○	平成 20 年 4 月 1 日～平成 21 年 3 月 31 日
		○		異方性導電フィルムを用いた実装技術の改良				○		平成 20 年 4 月 1 日～平成 21 年 3 月 31 日
		○		マイクロバルブの諸特性に関する基礎的調査研究				○		平成 20 年 4 月 1 日～平成 21 年 3 月 31 日
○	○			骨格筋の収縮特性とかたさ特性の解明に関する総合的研究					○	平成 20 年 4 月 1 日～平成 21 年 3 月 31 日
○	○			オール固体リチウム電池開発プロジェクト				○		平成 20 年 4 月 1 日～平成 21 年 3 月 31 日
		○		オゾン発生解明プロジェクト					○	平成 20 年 4 月 1 日～平成 21 年 3 月 31 日
		○		高温燃料電池用イオノマー開発					○	平成 20 年 4 月 1 日～平成 21 年 3 月 31 日
○				酸化ガリウム系セラミックスの欠損欠陥の制御と発光材料への応用				○		平成 20 年 4 月 1 日～平成 21 年 3 月 31 日

【平成 21 年度】

研究体制				プロジェクト研究名	主な研究費					共同研究開発室使用期間
学内	他大学・高専	民間企業	公設研究機関 その他		授業料収入	科学研究費	寄附金	共同研究	受託研究	
○	○			骨格筋の収縮特性とかたさ特性の解明に関する総合的研究					○	平成 21 年 4 月 1 日～平成 22 年 3 月 31 日
		○		酸化ガリウム系セラミックスの欠損欠陥の制御と発光材料への応用				○		平成 21 年 4 月 1 日～平成 22 年 3 月 31 日
○	○			オール固体リチウム電池開発プロジェクト					○	平成 21 年 4 月 1 日～平成 22 年 3 月 31 日
		○		オゾン発生解明プロジェクト					○	平成 21 年 4 月 1 日～平成 22 年 3 月 31 日
		○		燃料電池プロジェクト					○	平成 21 年 4 月 1 日～平成 22 年 3 月 31 日
	○			カルシウム受容タンパク質カルモジュリンの水との構造機能相関	○					平成 21 年 4 月 1 日～平成 22 年 3 月 31 日
○		○		新世代全固体ポリマーリチウム電池の開発					○	平成 21 年 4 月 1 日～平成 22 年 3 月 31 日
○	○			圧電セラミックスにおける変形及び破壊の微視機構に関する研究					○	平成 21 年 4 月 1 日～平成 22 年 3 月 31 日

【平成 22 年度】

研究体制				プロジェクト研究名	主な研究費					共同研究開発室使用期間
学内	他大学・高専	民間企業	公設研究機関 その他		授業料収入	科学研究費	寄附金	共同研究	受託研究	
○			○	ヒト生体の筋肉の硬さ測定に関する研究					○	平成 22 年 4 月 1 日～平成 22 年 3 月 31 日
			○	酸化ガリウム系セラミックスの欠損欠陥の制御と発光材料への応用				○		平成 22 年 4 月 1 日～平成 22 年 3 月 31 日
			○	オール固体リチウム電池開発プロジェクト					○	平成 22 年 4 月 1 日～平成 22 年 3 月 31 日
			○	オゾン発生解明プロジェクト					○	平成 22 年 4 月 1 日～平成 22 年 3 月 31 日
			○	燃料電池プロジェクト					○	平成 22 年 4 月 1 日～平成 22 年 3 月 31 日
○			○	高感度ひずみセンサー用材料の開発					○	平成 22 年 4 月 1 日～平成 22 年 3 月 31 日
			○	異方性導電フィルムを用いた実装技術の改良				○		平成 22 年 4 月 1 日～平成 22 年 3 月 31 日
	○			5A族金属系水素分離膜の耐水性酸性、水素透過性能及び耐久性に関する研究				○		平成 22 年 4 月 1 9 日～平成 22 年 3 月 31 日
	○	○		バナジウム系水素透過合金膜の設計開発				○		平成 22 年 4 月 1 9 日～平成 22 年 3 月 31 日
	○	○		パラジウム合金/ニオブ合金クラッド膜の製造と水素透過性能評価				○		平成 22 年 4 月 1 9 日～平成 22 年 3 月 31 日
	○	○		バナジウム系およびニオブ系合金膜へのパラジウム合金触媒めっき技術の確立				○		平成 22 年 4 月 1 9 日～平成 22 年 3 月 31 日
	○	○		ステンレス/ニオブ系合金異種金属間溶接技術の確立と水素透過性能への影響評価	○					平成 22 年 4 月 1 9 日～平成 22 年 3 月 31 日

共同研究推進センター利用状況

【平成 23 年度】

研究体制				プロジェクト研究名	主な研究費				共同研究開発室使用期間
学内	他大学・高専	民間企業	公設研究機関 その他		授業料収入	科学研究費 寄附金	共同研究	受託研究	
○	○	○		ヒト生体の筋肉の硬さ測定に関する研究	○				平成 23 年 4 月 1 日～平成 24 年 3 月 31 日
		○		オゾン発生用電極材料の解明 プロジェクト			○		平成 23 年 4 月 1 日～平成 24 年 3 月 31 日
		○		燃料電池プロジェクト				○	平成 23 年 4 月 1 日～平成 24 年 3 月 31 日
			○	オール固体Li 電池開発PJ			○		平成 23 年 4 月 1 日～平成 24 年 3 月 31 日
	○			微粒子衝突処理を施したアルミ合金の疲労強度特性に関する研究				○	平成 23 年 4 月 1 日～平成 24 年 3 月 31 日
		○		CMP用パッドの研磨ディスクの製造法に関する研究			○	○	平成 23 年 4 月 1 日～平成 24 年 3 月 31 日
		○		異方性導電フィルムを用いた実装技術の改良			○		平成 23 年 4 月 1 日～平成 24 年 3 月 31 日
		○		高感度ひずみセンサー用材料の開発					平成 23 年 4 月 1 日～平成 24 年 3 月 31 日
	○			Mn <sup>2+</sup> 含有酸化物ガラスの赤色発光特性	○			○	平成 23 年 4 月 1 日～平成 24 年 3 月 31 日
	○			Ga2O3-ZnO系セラミックスの青色残光とその残光機構	○				平成 23 年 4 月 1 日～平成 24 年 3 月 31 日
○	○			マルチモーターパワーユニットの開発と各種電動車両への応用	○				平成 23 年 5 月 1 日～平成 24 年 3 月 31 日
○				ミオシンの凝固剤グルコン酸塩の水との弱い相互作用に関する研究	○				平成 23 年 4 月 1 日～平成 24 年 3 月 31 日

(出典 総務課資料)

平成 16 年 4 月 1 日  
規則 第 35 号

最終改正平成 19 年 3 月 5 日

○ 共同研究推進センター規則

(趣旨)

第 1 条 この規則は、鈴鹿工業高等専門学校学則（平成 16 年学則第 1 号。以下「学則」という。）第 7 条の規定に基づき、共同研究推進センター（以下「センター」という。）の運営に関し、必要な事項を定めるものとする。

(目的)

第 2 条 センターは、民間等との共同研究取扱規則（平成 16 年規則第 26 号）及び受託研究取扱規則（平成 16 年規則第 27 号）に基づき、民間等外部の機関（地方公共団体を含む。以下「民間機関等」という。）との共同研究等を推進することにより、本校における教育研究の進展に資するとともに、本校、他大学等及び民間機関等の交流の場として地域の発展と産業の振興に寄与することを目的とする。

(共同研究開発室等)

第 3 条 センターに、共同研究開発室、回路試作室及び材料分析室並びに技術相談室を置く。

(業務)

第 4 条 センターは、次の各号に掲げる業務を行う。

- (1) 学内共同研究に係る利用に供すること。
- (2) 民間等との共同研究に係る利用に供すること。
- (3) 受託研究に係る利用に供すること。
- (4) 技術相談に関すること。
- (5) 第 1 号から第 3 号に関係する学生の卒業研究及び特別研究に係る利用に供すること。
- (6) 材料分析室における教員の研究並びに学生の教育指導及び研究指導に係る利用に供すること。
- (7) センターの運営並びに機器、設備の運用及び保守に関すること。
- (8) その他センターの運営に必要な事項

(センター長及び副センター長)

第 5 条 センターに、センター長及び副センター長を置き、校長が指名する。

- 2 センター長は、校長の命を受けてセンターの業務を掌理する。
- 3 副センター長は、センター長を補佐する。
- 4 センター長に事故あるときは、副センター長がその職務を代行する。

共同研究推進センター規則

(センター職員)

第 6 条 センターに技術職員若干名を置く。

2 センター職員は、センター長の命を受けてセンターの業務を処理する。

(共同研究推進センター運営協力会議)

第 7 条 共同研究推進センターの運営、業務の企画立案及び連絡調整並びにその実施を図るため、共同研究推進センター運営協力会議（以下「会議」という。）を置く。

2 会議の構成員は、センター長、副センター長、教養教育科及び各学科から選出された者、教育研究支援室長及びセンター職員をもって充て、校長が指名する。

3 センター長は、必要に応じ会議を開催し、その議長となる。

(庶務)

第 8 条 センターに関する庶務は、関係課の協力を得て総務課において処理する。

(雑則)

第 9 条 この規則に定めるもののほか、センターの運営その他必要な事項は、共同研究・地域貢献推進委員会等の議を経て、校長が別に定める。

附 則

この規則は、平成 16 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

この規則は、平成 17 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

この規則は、平成 18 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

この規則は、平成 19 年 4 月 1 日から施行する。

(出典 本校ウェブサイト学内専用ページ 共同研究推進センター規則)

平成 16 年 4 月 1 日  
校 長 裁 定

○ 共同研究推進センター利用内規

共同研究推進センター（以下「センター」という。）の利用に関し、必要な事項を次のように定める。

(使用できる範囲)

1 センターは、学内共同研究、民間等との共同研究等（近い将来に民間等との共同研究に発展する可能性のあるものを含む。）、技術相談及び共同研究等に係る講演会等並びに共同研究等に関係する学生の卒業研究及び特別研究に限り利用することができる。

ただし、材料分析室にあつては、教員の研究並びに学生の教育指導及び研究指導として利用することができる。

(使用できる時間)

2 センターは、24 時間利用することができる。

ただし、材料分析室にあつては、原則として次のとおりとする。

月曜日～金曜日 8:45～18:00

(使用の申請及び承認)

3 センターは、次の区分により使用することができる。

(1) 施設を使用しようとする場合

(イ) 連続して使用できる期間は、1 共同研究につき 6 月以内とする。ただし、再申請により継続して使用することができる。

(ロ) 2 週間以上継続して使用しようとする者は、使用する月の 1 月前までに別記様式第 1 の「共同研究推進センター使用承認願」を総務課へ提出し、センター長の承認を得なければならない。

## 共同研究推進センター利用内規

(ハ) 1週間以上継続して使用しようとする者は、使用する月の前月の10日までに別記様式第2の「共同研究推進センター使用願」を総務課へ提出し、使用期間及び使用場所を確保することができる。ただし、重複する場合には、センター長又は副センター長の立ち会いの上、抽選による。

(ニ) 前項以外の使用については、ネットワーク上の予定表に記入の上、使用することができる。

(2) 材料分析室の設備を使用しようとする場合

(イ) 設備を利用しようとする者は、別記様式第3の「材料分析室設備使用承認願」を保守責任者（学生にあっては指導教員）の確認を得た上で、センター長又は副センター長に提出し、承認を受けなければならない。

承認を受けた者は、ネットワーク上の予定表に記入の上、使用することができる。

(ロ) 民間等との共同研究等により、民間の者が使用する場合には、本学の教員が立ち会う。

(ハ) 学生が使用する場合には、指導教員がその取り扱い及び技術の指導並びに使用に当たっての留意事項について全責任をもつ。

(使用の制限)

4 センター長は、次の各号のいずれかに該当するときは使用を認めないものとする。

(1) 使用の内容がセンターの業務の範囲外であるとき。

(2) 施設設備の維持・保守及び安全管理上、支障があるとき。

(3) 他の者による利用又は故障等のため、その設備が利用できないとき。

(4) 学生が時間外に使用する場合に、学生準則及び専攻科学生準則に規定する「施設時間外使用願」を提出しなかったとき。

(5) その他運営上特に支障があると認めるとき。

5 センター長は、次の各号のいずれかに該当するときは、共同研究推進センター運営委員会の議を経て、使用の中止を命じることができる。

(1) 使用の内容がセンターの業務の範囲外であったとき。

(2) 施設設備の維持・保守及び安全上、支障があると判断したとき。

(3) 各使用承認願又は使用願の記載に虚偽を発見したとき。

(4) 次項の「留意事項」を厳守しなかったとき及び他人に迷惑を及ぼすおそれのあるとき。

(留意事項)

6 センターを使用するときは、次の各号に掲げる事項を遵守しなければならない。

(1) 許可された目的以外に使用しないこと。

(2) 火気の取り扱いには十分注意すること。

(3) 高圧ガスに係る設備を使用するに当たっては、「高圧ガス危害予防規程(昭和61年3月15日制定)」に従うこと。

(4) みだりに物品を移動させないこと。

(5) 使用のための準備は、すべて利用者が行うこと。

(6) 利用者は、整理整頓(清掃を含む。)に努めること。

(7) 使用終了後(継続使用の場合は、継続使用終了後)は、現状復帰すること。

(8) 利用者は、毎日、利用日誌に記載すること。

(9) センターの玄関入り口の鍵は、教養教育科及び各学科で責任をもって管理すること。

(経費の負担)

7 設備使用の際に必要な材料等の経費は、次の各号に掲げる区分により負担する。

(1) 教員の研究の場合にあっては、利用者が負担する。

(2) 民間等との共同研究等の場合にあっては、共同研究経費により負担する。

(3) 学生の場合にあっては、各学科又は指導教員が負担する。

(その他)

8 利用者が、その責に帰すべき事由により、センターの施設・設備を滅失又は損傷したときは、これを現状に復帰し、又は、その損害を賠償しなければならない。ただし、利用者がその職務を適正に遂行している間に生じたものについては、この限りでない。

附 記

この内規は、平成16年4月1日から実施する。

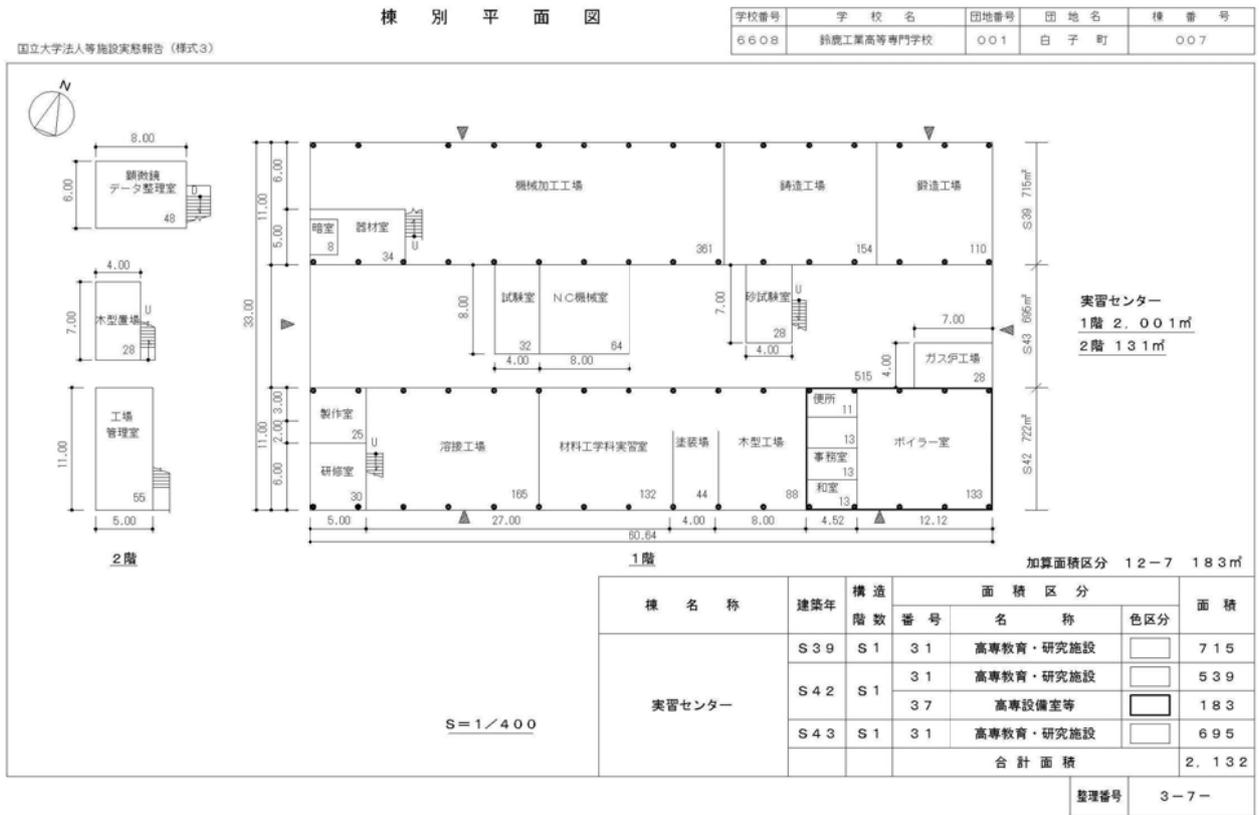
附 記

この内規は、平成19年4月1日から実施する。

(出典 本校ウェブサイト学内専用ページ 共同研究推進センター利用内規)

資料 8-1-①-22

実習センター平面図



(出典 総務課資料)

資料 8-1-①-23

実習センター利用状況

学 科	授業名等	年間利用時間数 (授業時間数)				
		19年度	20年度	21年度	22年度	23年度
機械工学科	機械工作実習	270	270	270	270	270
	創造工学	60	60	60	60	60
	工学実験	60	60	60	60	60
	その他 (卒研等)	398	495	488	363	511
材料工学科	工作実習	60	60	60	60	60
	創造工学	60	60	60	60	60
	その他 (卒研等)	17	12	38	22	45
電気電子工学科	工作実習					60
その他学科等		109	145	90	361	387
創造工学演習	ロボコン	753	877	948	982	1223
	エコカー	100	131	284	333	421

(出典 学生課資料)

平成 16 年 4 月 1 日

規則 第 33 号

最終改正平成18年3月6日

## ○ 実習センター規則

## (趣旨)

第1条 この規則は、鈴鹿工業高等専門学校学則（平成16年学則第1号。以下「学則」という。）第7条の規定に基づき、実習センター（以下「実習センター」という。）の運営に関し、必要な事項を定めるものとする。

## (業務)

第2条 実習センターは、次の各号に掲げる業務を行う。

- (1) 実習センターの運営並びに実習用機器、諸材料の運用及び保守に関すること。
- (2) 実習センターにおける学生の教育指導に関すること。
- (3) 実習センターに関する日常の事務処理に関すること。
- (4) その他実習センターの運営に必要な事項

## (実習センター長)

第3条 実習センターに実習センター長（以下「センター長」という。）を置き、校長が指名する。

2 センター長は、校長の命を受けて実習センターの業務を掌理する。

## (実習センター職員)

第4条 実習センターに技術職員若干名を置く。

2 実習センター職員は、センター長の命を受けて実習センターの業務を処理する。

## (実習センター運営協力会議)

第5条 実習センターの運営、業務の企画立案及び連絡調整並びにその実施を図るため、実習センター運営協力会議（以下「会議」という。）を置く。

2 会議の構成員は、センター長、教務主事、学生課長及び実習センター職員をもって充て、校長が指名する。

3 センター長は、必要に応じ会議を開催し、その議長となる。

## (庶務)

第6条 会議の事務は、学生課で処理する。

## (雑則)

第7条 この規則に定めるもののほか、実習センターの運営その他必要な事項は、教務委員会の議を経て、校長が別に定める。

## 附 則

この規則は、平成16年4月1日から施行する。

## 附 則

この規則は、平成17年4月1日から施行する。

## 附 則

この規則は、平成18年4月1日から施行する。

(出典 本校ウェブサイト学内専用ページ 実習センター規則)

〔 平成 16 年 4 月 1 日 〕  
〔 校 長 裁 定 〕

○ 実習センター利用内規

本校実習センター（以下「実習センター」という。）の利用に関し、必要な事項を次のように定める。

（実習センター使用時間）

- 1 実習センターを利用することができる時間は原則として次のとおりとする。

月曜日～金曜日 8:45～16:45

（利用の申請及び承認）

- 2 利用者は、事前に次に定める手続きをとるものとする。

(1) 別記様式第 1 の「機械利用願」を遅くとも利用日の 3 日前までに実習センターへ提出して利用状況表への登載を受けるものとする。

(2) 利用状況表への登載期限後に実習センターの設備を利用する必要がある場合は、その理由を添えて、「機械利用願」をセンター長に提出して、その許可を得なければならない。

(3) 利用者が学生で教育課程に基づく授業（卒業研究及び特別研究を除く）以外でセンターを利用する必要がある場合は、指導教員を通じて前号の手続を行うものとする。

(4) センター長は、次のいずれかに該当するときは使用を認めないものとする。

(イ) 使用の内容が実習センターの業務の範囲外であるとき。

(ロ) 施設設備の維持・保守及び安全管理上、支障があるとき。

(ハ) 他の者による利用又は故障などのため、その設備が利用できないとき。

(ニ) その他利用が深夜に及ぶなど、運営上特に支障があると認めるとき。

(注) 学生にあっては、時間外に利用する場合、学生準則及び専攻科学生準則の規則により「施設時間外使用願」を提出しなければならない。

（製作及び修理依頼）

- 3 教職員が実習センターに教育上必要な機器及び製品の製作、その他諸機器の修理等を依頼するときは、別記様式第 2 の「製作（修理）願」を実習センターへ提出して、実習センター長の承認を受けるものとする。

（利用者の留意事項）

- 4 利用者は、次の事項を遵守しなければならない。

(1) 作業服、作業靴、作業帽を着用すること。

(2) 安全に関する注意事項を遵守すること。

(3) 実習センターのスタッフの指示を守ること。

(4) 作業終了後は、使用した機械及びセンター内の清掃を行い原状に復すること。

（経費の負担）

- 5 利用者及び製作（修理）依頼者は、当該利用又は製作（修理）に要した材料費を負担するものとする。

（その他）

- 6 利用者が、その責に帰すべき事由により、実習センターの施設・設備を滅失又は損傷したときは、これを原状に回復し、又はその損害を賠償しなければならない。ただし、利用者がその職務を適正に遂行している間に生じたものについては、この限りでない。

附 記

この内規は、平成 16 年 4 月 1 日から実施する。

附 記

この内規は、平成 18 年 4 月 1 日から実施する。

（出典 本校ウェブサイト学内専用ページ 実習センター利用内規）

資料 8 - 1 - ① - 26

教員研究室整備状況 (平成 23 年度)

学科名称	部屋数 (室)	総面積 (m <sup>2</sup> )	収容者数	冷暖房の有無
機械工学科	11	398	1 名	有
電気電子工学科	10	180		
電子情報工学科	9	186		
生物応用化学科	12	344		
材料工学科	10	280		
専攻科	4	82		
教養教育	26	604		
計	82	2,074		

(出典 総務課資料)

資料 8 - 1 - ① - 27

理工系教育高度化設備費及び高専教育充実設備費等による主要購入備品

学科等	機器名	
教養教育科	ドラフトチャンバーLDS-180S	ハイ・パフォーマンス・コンピュータ
機械工学科	精密万能試験機	顕微鏡用ホットステージ
	万能試験機	3次元モデリングマシン
	高解像度画像入力システム	精密除振台 (ビスカスダンパー式)
	エンジン性能実験装置	多機能工作機
電気電子工学科	モータ制御学習装置	メモリハイコーダ
	デジタル・オシロスコープ	小型パルス YAG レーザー
	小型風力発電装置	
電子情報工学科	筋電計	デジタル・オシロスコープ
	プリント基板加工システム	サーバコンピュータ
生物応用化学科	質量分析計	倒立顕微鏡システム
	分光光度計	安全キャビネット
	ガスクロマトグラフ	超伝導フーリエ変換核磁気共鳴装置データシステム
	原子吸光光度計	
材料工学科	ビデオマイクロスコープシステム	実験実習用材料組織解析システム
	材料精密切断・切削加工システム一式	卓上型高分解能観察システム
	共焦点レーザー顕微鏡システム	マイクロビッカース硬度計
	高分解能材料組織解析システム	赤外分光分析装置
	日立走査形電子顕微鏡 S-4300 用システム	レーザー加工システム
情報処理センター	教育用電子計算機システム	ファイアウォール装置
	校内 LAN 設備	サーバコンピュータ
共同研究推進センター	レーザーラマン分光光度計	電界放射型走査電子顕微鏡
	透過型電子顕微鏡	
実習センター	平面研削盤	CNC 旋盤
	旋盤	フライス盤
	マシニングセンタ	鉄板裁断機 (シヤリング)
	ワイヤ放電加工機	

(出典 総務課資料)

寄宿舎としての学寮（青峰寮）は、原則自宅通学が困難な学生に提供している。また、収容能力が許す限り入寮希望者を受入れており、様々な設備の改善を行っている（資料 8-1-①-28, 29）。平成 24 年度前期の学寮への入寮者は、指導寮生の部屋の確保などにより収容定員の 100%には達していないが、最大限に受入れており、その充足率は 90 % である（資料 8-1-①-30）。なお、学寮の利用案内や学生に対するガイダンス等の学寮行事予定は、新入学生用パンフレット、学生便覧及び学寮のウェブサイトを用いることにより学生及び教職員の周知に役立っている（資料 8-1-①-31～33）。

資料 8-1-①-28

平成 16 年 4 月 1 日  
規則 第 24 号

○ 学寮運営規則（抜粋）

（趣旨）

第 1 条 この規則は、鈴鹿工業高等専門学校学則（平成 16 年学則第 1 号）第 45 条第 2 項の規定に基づき、学寮の運営その他必要な事項を定める。

（学寮の目的）

第 2 条 学寮は、規律正しい生活訓練を通じて、学生の入間形成を助長し、かつ学生の学習の便宜を与え、教育目標達成に資する教育施設とする。

（施設名称等）

第 3 条 学寮は青峰寮と称し、寮棟ごとに第 1 寮、第 2 寮、第 3 寮、第 4 寮及び A 寮とする。

2 第 1 寮を女子寮とする。

（寮監）

第 4 条 学寮に寮監を置く。

2 寮監は教員のうちから校長が命ずる。

3 寮監は、学寮における寮生の生活指導及び学寮の宿日直を担当する。

（入寮）

第 5 条 学寮に入寮できる者は本校の学科又は専攻科に在学する学生に限る。

2 入寮を希望する者は、入寮許可願（別記様式第 1）を提出して、校長の許可を受けなければならない。

3 前項により校長の許可を得た者は、誓約書（別記様式第 2）を提出しなければならない。

4 入寮の許可は当該年度限りとし、翌年度も引き続き入寮を希望する者でも前項の手続を行わなければならない。

5 入寮の時期は、原則として学年の始めとする。

6 入寮募集及び選考に関し必要な事項は別に定める。

（出典 本校ウェブサイト学内専用ページ 学寮運営規則）

資料 8 - 1 - ① - 29

学寮における改善設備（抜粋）

年 度	設備名	設置場所	備 考
19 年度	留学生用食材冷凍庫	寮管理棟	
20 年度	防犯カメラ	寮門（および正門）	
	窓外部の赤外線センサー	女子寮	
	便所改修工事	第 4 青峰寮各階	和便器 1 → 洋便器 1
21 年度	寮内 LAN システム	全寮（希望者のみ）	
	女子留学生に対応した室内改修工事	第 1 青峰寮 1 階	間仕切り、床面改修 寮室エアコン設置等
	脱衣場壁掛け扇風機更新	男子浴室	
22 年度	寮玄関防犯カメラ設置	各寮の玄関	
	エアコン設置	全寮の各階談話室	
	ジェットタオル取り替え	寮食堂玄関	
	寮室照明器具改修工事	青峰寮 A・第 4 青峰寮	Hf 型器具に交換（照度 向上）
23 年度	郵便物通知用掲示システム	寮食堂玄関	
	ジェットタオル取り替え	寮食堂玄関	

（出典 学生課資料）

資料 8 - 1 - ① - 30

学寮部屋割人数

平成23年度前期（平成23年 4 月 1 日現在）

学 年	A寮	1 寮	2 寮	4 寮	学年別計
1 学年	0	16	0	56	72
2 学年	0	12	0	75	87
3 学年	28	24<3>	1<1>	27	80<4>
4 学年	44	15<2>	4<4>	9	72<6>
5 学年	39	11<3>	1<1>	4	55<4>
専攻科 1 年次	0	2	13	0	15
専攻科 2 年次	0	0	10	0	10
建物別計	111	80<8>	29<6>	171	391<14>
定 員	126	89	35	180	430
充足率(%)	88	90	83	95	91

( ) は編入学生内数, < > は留学生内数

学寮部屋割人数

平成24年度前期（平成24年4月1日現在）

学 年	A寮	1寮	2寮	4寮	学年別計
1学年	0	18	0	54	72
2学年	0	15	0	59	74
3学年	32	14<4>	0	38	84<4>
4学年	40	19<3>	3<3>	8	70<6>
5学年	43	13<2>	3<3>	4	63<5>
専攻科1年次	0	0	8	0	8
専攻科2年次	0	2	12	0	14
建物別計	115	81<9>	26<6>	163	385<15>
定 員	126	89	35	180	430
充足率(%)	91	91	74	91	90

( ) は編入学生内数, < > は留学生内数

(出典 学生課資料)

平成 24 年度  
学生寮のしおり



鈴鹿工業高等専門学校  
青峰寮

目 次

- I 学生寮運営の基本方針 ..... 1
  - 1. 学生寮とは
  - 2. 学生寮の運営体制
  - 3. 入寮に関する原則
  - 4. 寮生指導等
  - 5. 寮則違反等の対応
- II 学生寮での生活 ..... 2
  - 1. 寮生活の日課
  - 2. 寮への持込品
  - 3. 荷物の搬入および宅配便について
  - 4. 寮の管理運営体制
  - 5. 寮の諸行事
- III 寮の施設・設備とその利用法 ..... 8
  - 1. 寮棟について
  - 2. 居室の使用について
  - 3. 寮棟内の共同設備等の利用について
  - 4. 寮棟以外の施設について
  - 5. その他
- IV 寮で必要な経費 ..... 11
  - 1. 学生寮経費について
  - 2. 給食費について
  - 3. 欠食する場合の手続きと返金について
- V 寮生心得（寮生活を楽しく過ごすために） ..... 12
  - 1. 思いやりの心を持って
  - 2. 共同生活の基本ルール
  - 3. 病気と保健衛生
  - 4. 火災予防と交通事故防止
  - 5. 現金や貴重品の管理

表紙写真説明

1寮（女子寮） （全ての女子学生）	2寮 （男子留学生・専攻科生）
4寮 （男子低学年生）	A寮 （男子高学年生）

各寮寮監室の電話番号

A寮寮監室 059-368-1855（休日8時30分～17時00分、全日17時00分～翌朝8時30分）

1寮寮監室 059-368-1872（全日17時00分～翌朝8時30分）

4寮寮監室 059-368-1856（全日17時00分～翌朝8時30分）

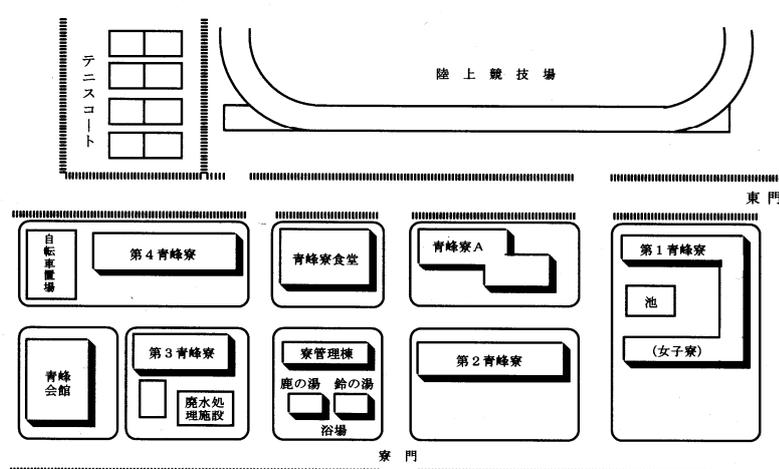
寮事務室 059-368-1734（平日8時30分～17時00分）

(出典 学生課資料)

学寮の利用案内（学生便覧）（抜粋）

1. 学生寮（青峰寮）について

本校の学生寮は青峰寮と呼ばれ、寮棟ごとに第1寮，第2寮，第3寮（現在閉寮），第4寮，A寮となっています。第1寮は女子学生（留学生，専攻科生を含む。）が暮らしています。また第2寮は男子の留学生と専攻科生が暮らしています。本科の男子学生は第4寮とA寮で暮らしており，大きく分けて4寮が低学年寮，A寮が高学年寮となっています（学寮地区配置図参照）。寮管理棟には寮事務室があって職員が寮生活全般にわたる仕事を行っています。



学寮地区配置図

学生寮は教育寮であり、「規律正しい生活訓練を通じて学生の人間形成を助成し，かつ学生の学習の便宜を与え，教育目標達成に資する教育施設」と位置付けられています。このような理由から，寮生の安全を確保し，かつ規律ある寮生活を維持するために，全教員が寮監として輪番で学寮での宿日直勤務を行っています。

2. 入寮に関する原則

学生寮に入寮できるのは本校の学科または専攻科学生に限ります。とくに，学科1，2年生で自宅通学が不可能な学生は青峰寮に入寮することを原則とします。入寮の時期は原則として学年の始めであり，入寮希望者は年度ごとに入寮許可願を提出して許可を受ける必要があります(入寮の許可は当該年度限りです)。入寮の選考基準は以下のとおりです。

入寮選考の優先順位

- 1) 新入生(編入生を含む)
- 2) 継続して入寮を希望する学生
- 3) 2年生からの入寮希望者

選考にあたって考慮する事項

(出典 平成 24 年度学生便覧 p. 53-56)

学寮ウェブサイト

The screenshot shows a web browser window displaying the dormitory homepage. The browser's address bar shows the URL <http://www.suzuka-ct.ac.jp/faculty/dormitory/index.htm>. The page title is "鈴鹿高専青峰寮ホームページ".

**Left Navigation Menu:**

- [トップページ](#)
- [青峰寮とは？](#)
- [各施設の紹介](#)
  - [4寮](#)
  - [A寮](#)
  - [2寮](#)
  - [1寮](#)
  - 寮食堂
  - 【週間誌立表】**
  - 寮事務
  - 浴場
- [寮事務室からのお知らせ](#)
  - [\[2011/12/9\]](#)
  - [\[2012/2/21\]](#)
  - [\[2012/4/11\]](#)
- [寮生保護者懇談会報告](#)
  - [\[2011/5/31\]](#)
- [平成24年度青峰寮行事予定](#)

**Main Content Area:**

## 鈴鹿高専青峰寮ホームページ



当ページは鈴鹿工業高等専門学校の学寮である青峰寮のページです

**更新履歴**

- 2012年4月11日更新
  - ・一斉休業に伴う「閉・開寮」について
- 2012年2月21日更新
  - ・学年末休業に伴う「閉・開寮」について

At the bottom of the browser window, the status bar shows "ローカル イン트라ネット" and "100%" zoom level.

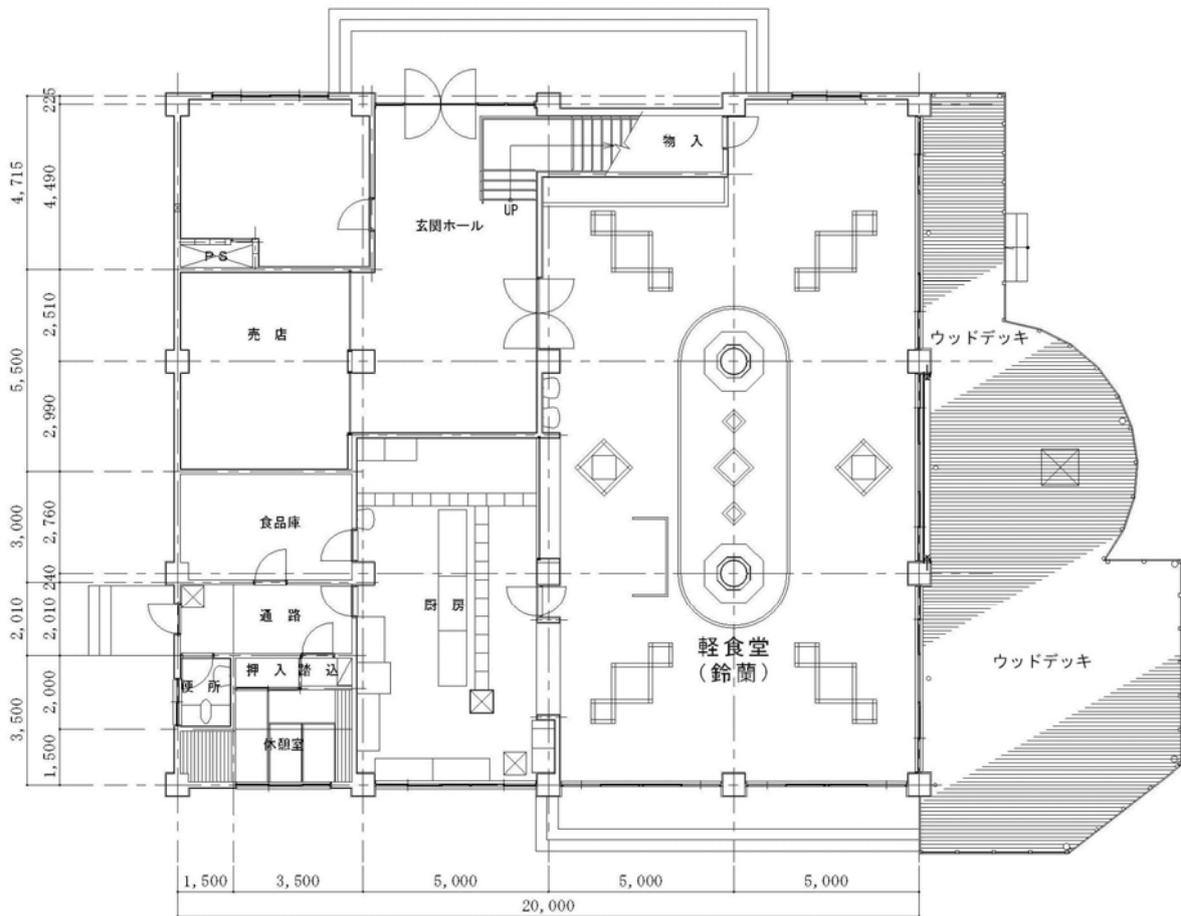
(出典 本校ウェブサイト)

平成 19 年度，福利厚生施設である「青峰会館」には，軽食堂（鈴蘭）横にオープンテラスが増設され，主に通学生の食事の場として活用している（資料 8-1-①-34）。また，生物応用化学科・教室棟 1 階及び 2 階中央部，電子情報工学科棟 1 階～3 階，マルチメディア棟 1 階に学生の休憩用スペースがある。また，生物応用化学科・教室棟，電気電子工学科棟（エレベータ有），専攻科棟，マルチメディア棟には身障者用のスロープとトイレを設置している（資料 8-1-①-35）。

また，施設利用状況を定期的に調査（資料 8-1-①-36）し，利用率 20%未滿の部屋については，その使用方法を協議している（資料 8-1-①-37）。平成 18 年度には，機械工学科棟第 1 製図室を創造工学演習室に変更することにより，当該施設を使用する授業数（稼働率）が増加している。

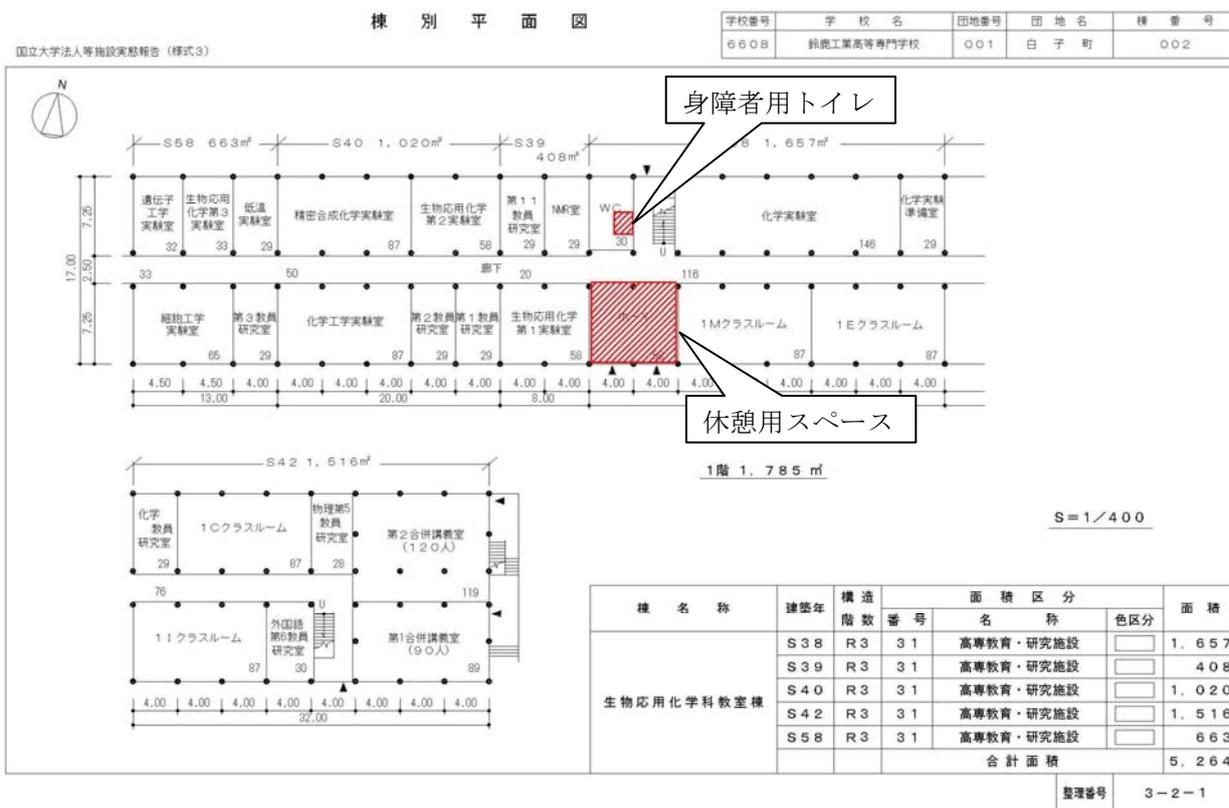
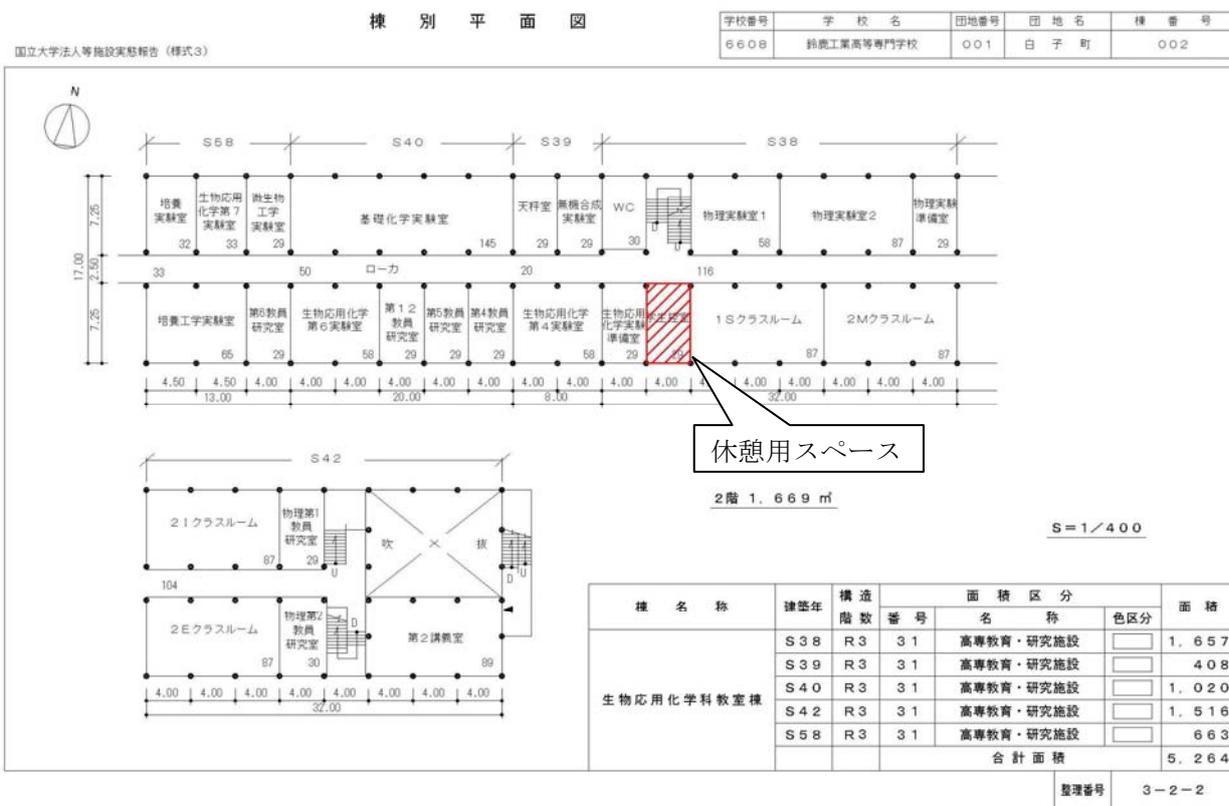
資料 8-1-①-34

通学生用軽食堂（鈴蘭）・オープンテラス平面図



(出典 総務課資料)

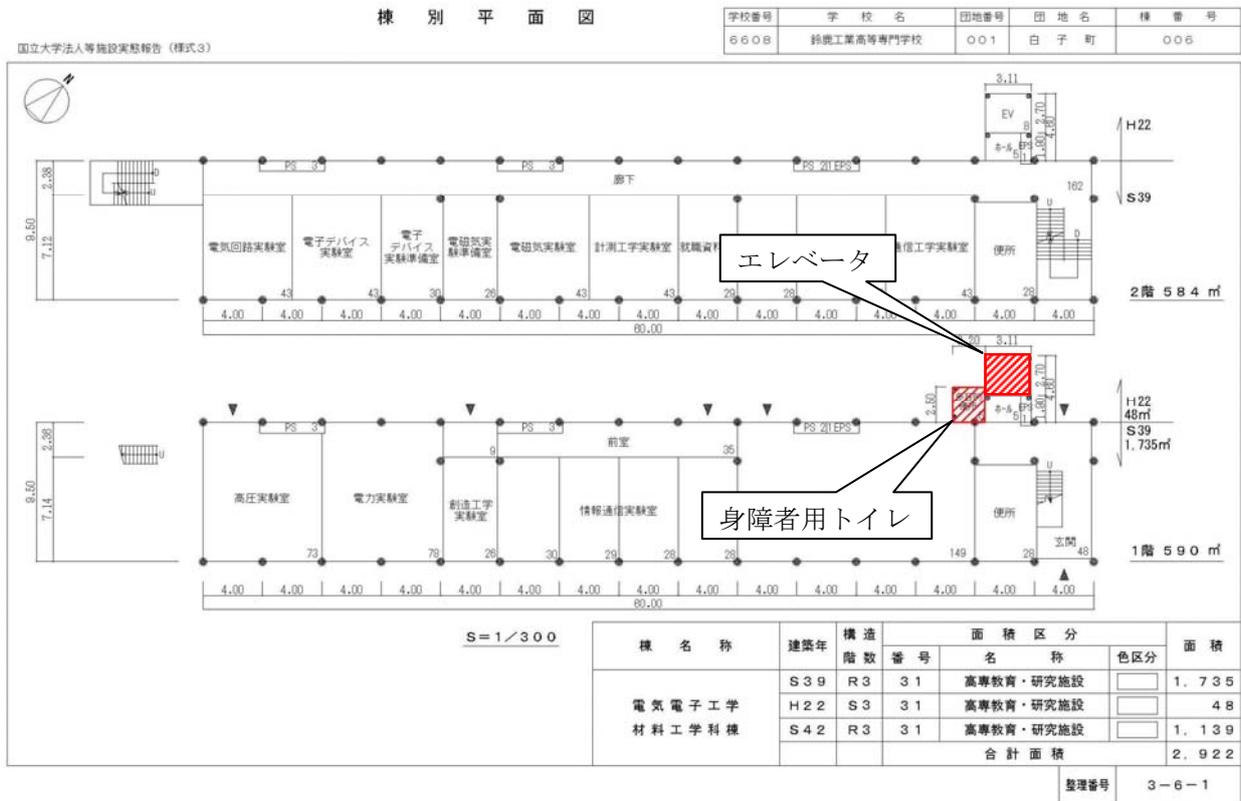
校内配置図 (斜線部：休憩用スペース，身障者用トイレ，エレベータ)



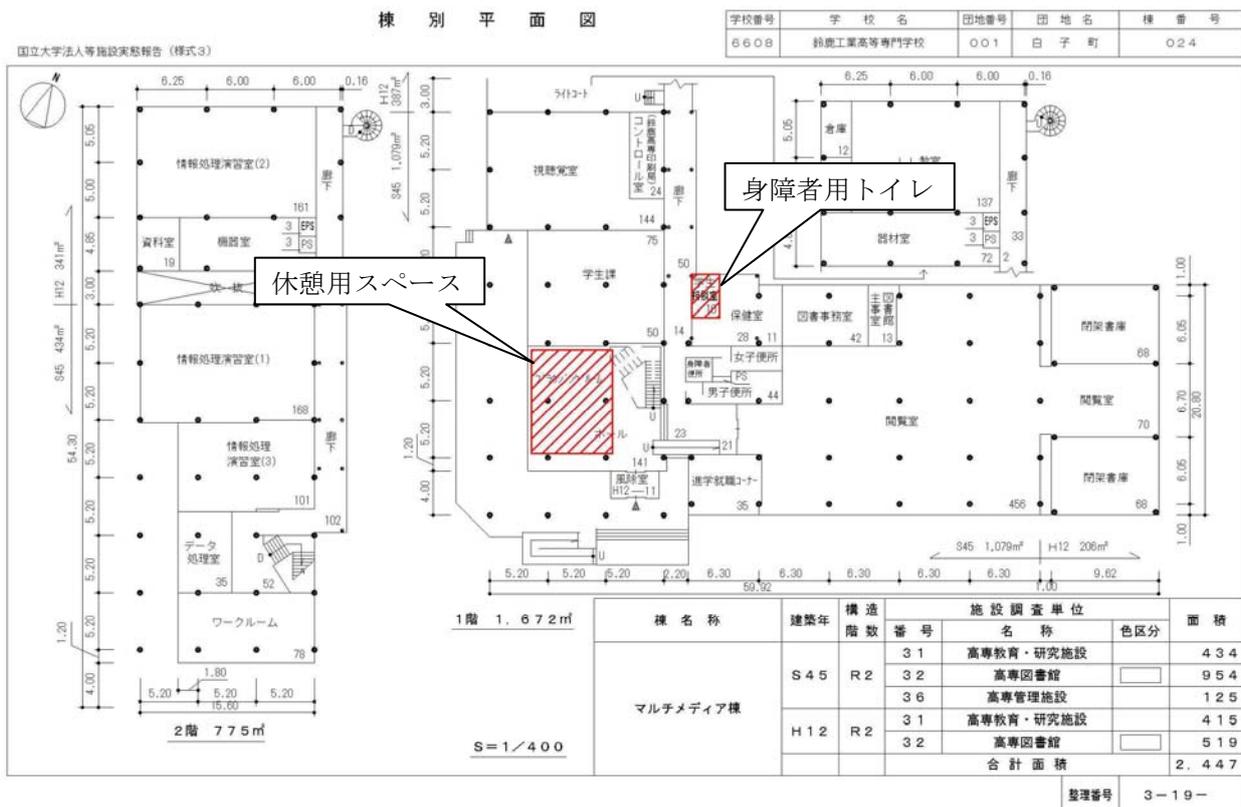
休憩用スペース，身障者用トイレ (生物応用化学科・教室棟)

資料 8-1-①-35 続き

校内配置図 (斜線部：休憩用スペース，身障者用トイレ，エレベータ)



身障者トイレ，エレベータ (電気電子工学科棟)



休憩用スペース，身障者用トイレ (マルチメディア棟)

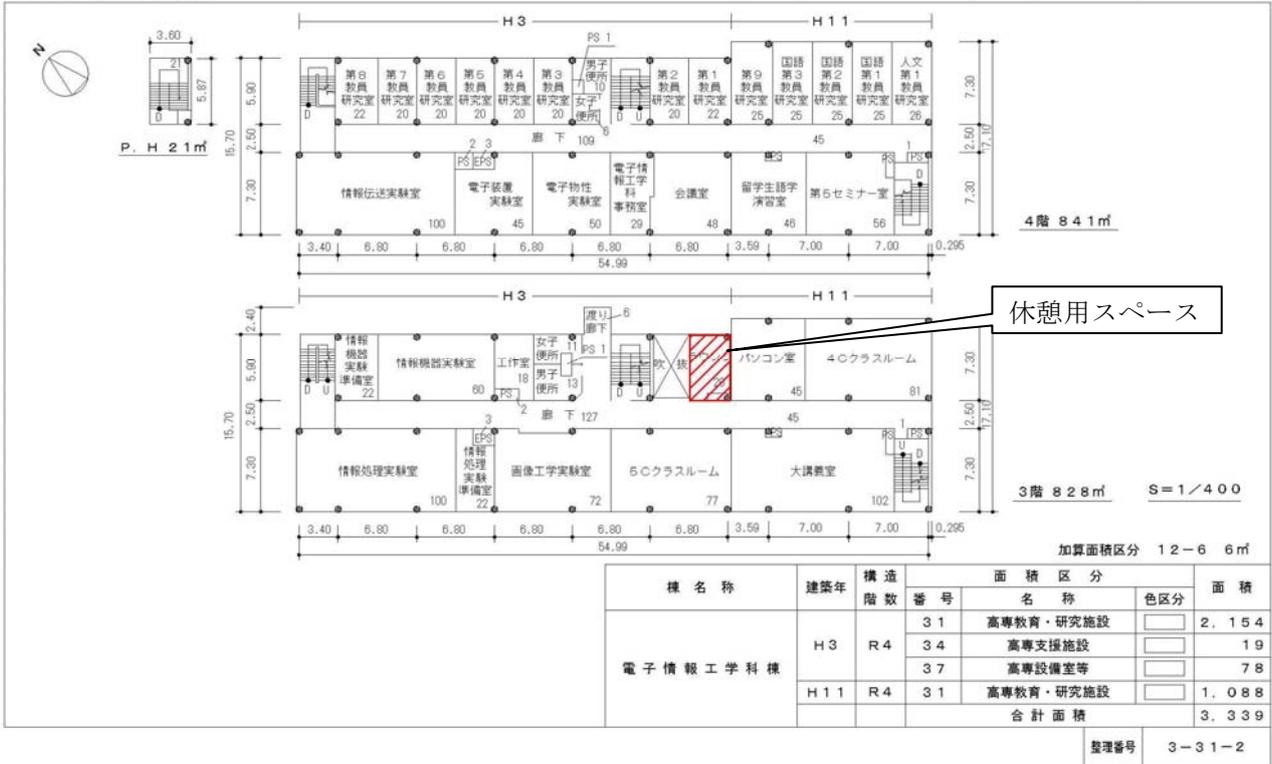
資料 8-1-①-35 続き

校内配置図 (斜線部：休憩用スペース，身障者用トイレ，エレベータ)

棟別平面図

国立大学法人等施設実態報告 (様式3)

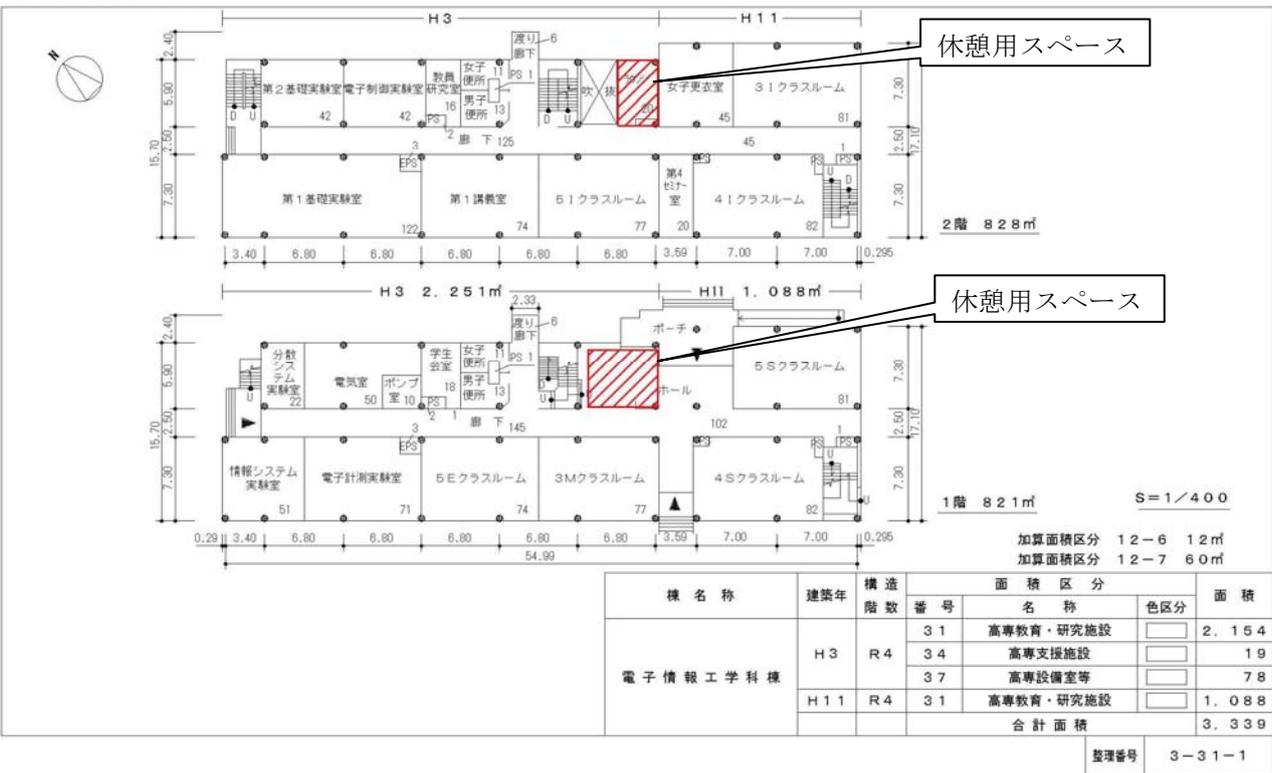
学校番号	学校名	団地番号	団地名	棟番号
6608	鈴鹿工業高等専門学校	001	白子町	148



棟別平面図

国立大学法人等施設実態報告 (様式3)

学校番号	学校名	団地番号	団地名	棟番号
6608	鈴鹿工業高等専門学校	001	白子町	148



休憩用スペース (電子情報工学科棟)

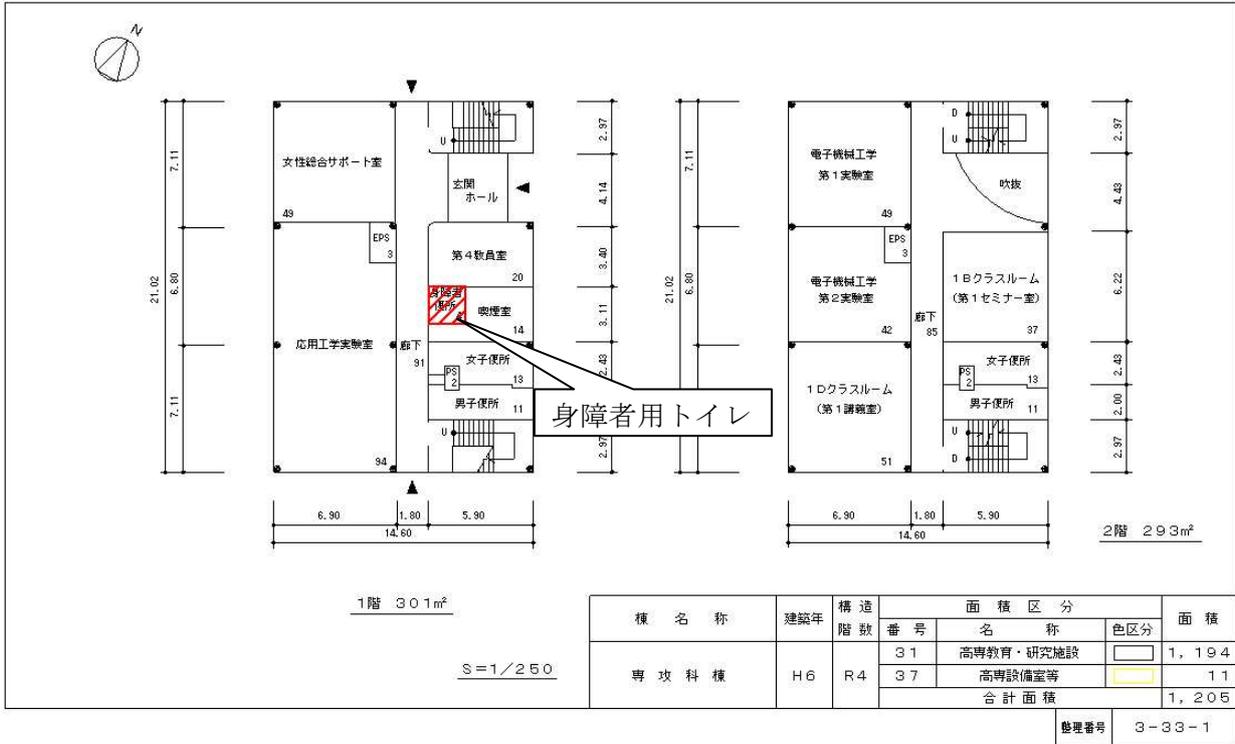
資料 8-1-①-35 続き

校内配置図 (斜線部：休憩用スペース，身障者用トイレ，エレベータ)

棟別平面図

国立大学法人等施設実態報告 (様式 3)

学校番号	学校名	地番号	地地名	棟番号
6608	鈴鹿工業高等専門学校	001	白子町	151



身障者用トイレ (専攻科棟)

(出典 総務課資料)

資料 8-1-①-36

平成 22 年度 施設利用状況 (各学科棟 1 階の実験・実習室のみを抜粋)

室名	部屋面積 (㎡)	共用化可能性	物を除く一人当りの面積 (㎡)	週当りの平均稼働率 (%)	主な消費電力 (kWh)	平均利用者数 (人)	空調設備の有無 冷房専用「令」	安全管理の適正
生物応用化学科教室棟 1階								
生物応用化学第1実験室	56	無	4.1	100	3.5	12	有	適正
NMR室	29	無	3.3	100	3.4	6	有	適正
生物応用化学第2実験室	57	無	3.9	100	4.5	8	有	適正
化学工学実験室	85	無	2.1	67	3.0	30	有	適正
精密合成化学実験室	83	無	1.7	54	3.5	32	無	適正
低温実験室	29	無	1.8	100	1.5	12	有	適正
細胞工学実験室	65	無	1.8	100	2.0	25	有	適正
生物応用化学第3実験室	33	無	3.7	100	1.5	5	有	適正

資料 8-1-①-36 続き

平成 22 年度 施設利用状況 (各学科棟 1 階の実験・実習室のみを抜粋)

室名	部屋面積 (㎡)	共用化可能性	物を除く一人当りの面積 (㎡)	週当りの平均稼働率 (%)	主な消費電力 (kWh)	平均利用者数 (人)	空調設備の有無 冷房専用「令」	安全管理の適正
遺伝子工学実験室	32	無	1.0	100	1.0	21	有	適正
化学実験室	144	有	2.1	46	4.5	49	無	適正
化学実験準備室	29	無	9.3	63	4.0	2	有	適正
電気電子工学科棟 1階								
高圧実験室	73	有	4.1	46	3.0	10	有	適正
電力実験室	78	有	4.5	46	5.0	15	有	適正
創造工学実験室	26	有	2.3	69	1.0	9	有	適正
情報通信実験室D	30	有	2.0	51	1.0	10	有	適正
情報通信実験室C	29	有	2.0	51	1.5	10	有	適正
情報通信実験室B	28	有	2.3	51	1.5	10	有	適正
情報通信実験室A	28	有	1.8	51	1.5	10	有	適正
電気電子実験室	149	有	2.1	77	5.0	53	有	適正
材料工学科棟 1階								
金属機能材料実験室	56	無	2.9	100	2.0	8	無	適正
材料加工試験室	56	有	0.9	94	4.0	44	無	適正
材料組織実験室	56	無	4.3	100	3.0	9	有	適正
金属材料実験室	55	無	4.3	100	4.0	7	有	適正
材料第1実験室	55	有	1.0	72	2.0	28	有	適正
材料実験準備室	28	無	1.3	100	23.0	9	無	適正
材料第2実験室	56	有	2.5	69	1.5	15	無	適正
機械工学科棟 1階								
機械力学実験室	72	無	3.4	100	1.4	13	有	適正
熱工学実験室	110	無	2.0	71	1.3	14	有	適正
熱工学実験室準備室	28	無	0.7	79	2.1	14	無	適正
流体工学実験室	144	有	6.3	40	1.6	13	無	適正
材料強度実験室	74	無	1.5	100	2.7	32	無	適正
材料力学第2実験室(前室)	20	無	1.1	100	2.1	11	有	適正
オートグラフ室	24	無	1.5	100	1.5	10	有	適正
材料力学実験室	20	無	1.1	100	2.1	9	有	適正
暗室	8	無	1.6	100	0.0	2	無	適正
固体力学実験室	28	無	1.2	100	1.6	13	有	適正
機械制御工学実験室	72	無	4.7	100	2.8	10	有	適正

資料 8-1-①-36 続き

平成 22 年度 施設利用状況 (各学科棟 1 階の実験・実習室のみを抜粋)

室名	部屋面積 (㎡)	共有化可能性	物を除く一人当りの面積 (㎡)	週当りの平均稼働率 (%)	主な消費電力 (kWh)	平均利用者数 (人)	空調設備の有無 冷房専用「令」	安全管理の適正
機能加工学実験室	72	無	4.7	88	2.3	10	有	適正
知能機械システム実験室	72	無	3.8	37	2.8	8	無	適正
メカトロニクス実験室	72	無	4.3	62	3.2	12	無	適正
電子情報工学科棟 1階								
情報システム実験室	51	無	4.9	100	1.2	8	有	適正
分散システム実験室	22	無	1.0	69	1.1	5	有	適正
電子計測実験室	71	無	7.4	100	0.9	6	有	適正
専攻科棟 1階								
応用工学実験室	96	無	1.1	23	2.2	10	有	適正
実習センター 1階								
機械加工工場	361	無	5.3	100	60.0	49	無	適正
器材室	34	有	14.0	4	0.0	2	無	適正
鑄造工場	154	有	9.6	57	12.0	14	無	適正
鍛造工場	110	有	6.7	11	5.0	13	無	適正
NC 試験室	32	無	0.5	100	1.2	17	有	不適正
NC機械室	64	無	1.2	100	40.6	25	有	不適正
砂試験室	28	有	1.2	100	0.0	15	無	不適正
ガス炉工場	28	無	1.1	57	0.0	17	無	不適正
製作室	25	無	0.7	100	7.2	21	有	不適正
研修室	30	無	0.7	100	0.6	33	無	適正
溶接工場	165	無	3.5	63	160.0	35	無	適正
材料工学科実習室	132	有	3.4	74	7.4	31	無	適正
塗装場	44	有	1.1	57	0.0	22	無	適正
木型工場	88	有	1.4	100	0.0	37	無	適正
共同研究推進センター 1階								
回路試作室	18	無	8.0	41	1.0	1	有	適正
共同研究開発室	107	無	2.3	95	3.0	24	有	適正
電子顕微鏡室	20	無	0.4	29	3.0	15	有	適正
第2材料研究室	63	無	0.5	45	3.0	18	有	適正
第1材料研究室	86	無	1.7	45	3.0	15	有	適正
燃料電池実験室	19	無	0.4	66	2.0	12	無	適正

(出典 総務課資料)

## 施設整備部会議事要旨（抜粋）

日 時：平成 17 年 6 月 14 日（火） 16：30～19：20

出席者：齋藤教務主事、土田学生主事、富澤寮務主事、小倉研究主事、西岡図書館主事、桑原専攻科長、大西事務部長、高倉会計課長、中島学生課長

欠席者：田中庶務課長

陪席者：施設係長、施設係員

議事内容

○ 議題 1 施設利用状況調査結果に基づき既存施設の有効利用等について協議

部会長から、平成 17 年 3 月に実施した施設利用状況調査結果により、年間平均利用率が 20%以下の部屋の有効利用化について協議され、次のように取り扱うこととした。

1. J A B E E 推進室について

現況は資料等の保管庫として機能している状況である。今後、他の目的のために使用することを含めて有効活用する案が出されたが、クラスルーム付近のため騒がしい、機密書類があるため一般会議での使用は出来ない等の問題点もあり、再度調査を行い、検討していくこととした。

2. 生物応用化学科棟物理化学教室及び第 3 計測実験室について

卒業研究等での部屋の利用率が施設利用状況調査結果に反映されていないと思われるため、再調査を行うこととした。

3. 機械工学科棟第 1 製図室（創造工学演習室）について

創造工学演習室に用途変更したことの周知がなされていなかったことが低利用率の要因の一つと思われる。今後、改修等も含めて検討していくこととした。

4. 電子情報工学科棟女子更衣室

現在は教員室として整備しており、今後有効利用が図られる予定である。

5. 電子情報工学科棟留学生語学演習室について

夏休み中の利用率が反映されていない可能性もあるが、それを含めても利用率が低いと思われるので、今後、部屋の用途を検討していくこととした。

6. 電子情報工学科棟第 5 セミナー室

部屋の鍵を貸す時にノートに記載させているが、その記載漏れが何件かあると思われ、利用率が実際の利用より低くなっている可能性もあり、再調査を行うこととした。

7. 専攻科棟 A V ルーム・情報処理実験室について

現況としては S C S しか使用していないので、専攻科 1、2 年生の合同授業をする部屋等に有効利用出来るよう検討することとした。

8. 共同研究推進センター焼結装置室について

現在、共同研究推進センターにおいて有効利用を図ることが予定されており、その状況を確認することとした。

9. マルチメディア棟資料室について

資料室（資料置き場）としての利用率は 100%なので問題は無い。

10. マルチメディア棟コントロール室について

今後とも、コントロール室としての機能を有する必要がないことから、今後は入試関係の作業や会議室等に使うよう検討することとした。

○ 議題 2 光熱水等の使用状況について

会計課長から、資料に基づき説明があり、当面次のように取り扱うこととした。

1. 省エネ推進マニュアルをより分かりやすく作成し、昨年よりも経費を削減出来るよう、学内への周知の徹底を図ることとした。

2. 今年度も夏季期間中、施設整備部会員による構内巡回を行い、節電状況等を調査し必要に応じて指導を行うこととした。

（出典 総務課資料）

本校では、労働安全衛生規則第 23 条第 1 項の規定に則り毎月 1 回安全衛生委員会を開催しており、委員会委員による安全パトロールや学科からの要望に基づいた安全対策のための施設整備を行っている（資料 8-1-①-38～40）。一方、組換え DNA 実験安全管理及び動物実験等の特殊な実験施設（項目）についても、申請された実験計画の審議を毎年行なうとともに、諸規則の見直しを行っている（資料 8-1-①-41～43）。

また、安全管理に関して、各種マニュアル（資料 8-1-①-44～47）等を用いることにより周知し、安全管理に関する認識を深めている。さらに、防災に対する意識強化のために、本学における危機管理マニュアル（資料 8-1-①-48）を作成し、危機管理体制フローチャート等の整備（資料 8-1-①-49）を行うとともに、全学生・全教職員による防災訓練や教員・技術職員に対する安全管理のための研修会を実施している（資料 8-1-①-50, 51）。

環境保全対策については、環境マネジメントシステム運用体制等を決定（資料 8-1-①-52）した後、教育・研究を含むすべての学内業務を対象として、環境との調和と環境負荷の低減に努めるための総合的な推進計画を策定し、環境マネジメントの充実を図るための検討を行っている。教育・研究環境に関しては、資料 8-1-①-40 のほか、平成 20 年度補正による電気電子工学科棟改修時の顕熱交換換気装置の設置、平成 23 年度の専攻科棟の空調設備改修及び材料工学科棟外部建具（窓ガラス交換による断熱効果の向上）改修（資料 8-1-①-2, 3）など、学生の教育環境の向上にも努めている。また、光熱水量節減に関しては、授業中でも使用量過多に対する注意喚起の放送を入れるなどの対策を行い、節約に努めている（資料 8-1-①-53）。

資料 8-1-①-38

## 労働安全衛生規則（抜粋）

## 労働安全衛生規則 第二章 安全衛生管理体制（第二条―第二十四条の二）

（委員会の会議）

**第二十三条** 事業者は、安全委員会、衛生委員会又は安全衛生委員会（以下「委員会」という。）を毎月一回以上開催するようしなければならない。

2 前項に定めるもののほか、委員会の運営について必要な事項は、委員会が定める。

3 事業者は、委員会の開催の都度、遅滞なく、委員会における議事の概要を次に掲げるいずれかの方法によって労働者に周知させなければならない。

一 常時各作業場の見やすい場所に掲示し、又は備え付けること。

二 書面を労働者に交付すること。

三 磁気テープ、磁気ディスクその他これらに準ずる物に記録し、かつ、各作業場に労働者が当該記録の内容を常時確認できる機器を設置すること。

4 事業者は、委員会における議事で重要なものに係る記録を作成して、これを三年間保存しなければならない。

（出典 中央労働災害防止協会 安全衛生情報センターウェブサイト）

委員会活動報告書（平成 23 年度）

項目	2-6(3) 安全管理の実施状況	
担当	安全衛生委員会／リスクマネジメント委員会	
年度計画	① リスクマネジメント委員会を中心に学内の安全管理を図る。学内火災発生防止対策とともに地震・火事に対応する避難訓練の実施を重点課題として取り組む。 ② 毎月 1 回委員会を開催し、労働安全衛生法等を踏まえ、安全管理、事故防止に関する具体的方策を検討する。 ③ 「安全管理マニュアル」（「救急法の手引き」）及び「実験実習安全必携」を教職員・学生に配布し、安全衛生教育を実施する。 ④ 安全衛生委員会のもとで安全パトロールを実施する。 ⑤ 教員・技術職員に対し、安全管理のための講習会を実施する。 ⑥ 通学方法、特に自転車通学の心得について指導を徹底する。	
	[追加・修正事項] 【追加】  【修正】	
実績	① リスクマネジメント委員会を中心に学内の安全管理を図り、学内火災発生等の有事に備えた。地震・火事に対応する避難訓練を実施した（9月）。 ② 毎月 1 回委員会を開催し、労働安全衛生法等を踏まえ、安全管理、事故防止に関する具体的方策を検討した。 ③ 「安全管理マニュアル」（「救急法の手引き」）及び「実験実習安全必携」を教職員・学生に配布し、安全衛生教育を実施した（4月～6月上旬）。 ④ 安全衛生委員会のもとで安全パトロールを実施した。 ⑤ 教員・技術職員に対し、安全管理のための講習会を実施した（5月）。 ⑥ 通学方法、特に自転車通学の心得について指導の徹底を図った。 【その他】各学科の共通実験室の戸棚の固定について、学生の使用頻度が高い部屋を優先して実施した。	
自己評価	全てが十分に実施され、成果が上がっている。	自己評価
		5
次年度の検討事項	引き続き、学内の安全管理を図っていく。	

（出典 総務課資料）

労働安全衛生法適用に対応する改修状況

【平成 19 年度】

棟名称	室名称	改修内容
機械工学科棟		電気配電盤へのカバーの設置
機械工学科棟	外部	雨水桝段差の修理
電気電子工学科棟		電気配電盤へのカバーの設置
専攻科棟	外部	クレーンの撤去
	外部	禁煙所の設置
教養教育科棟・電気電子工学科棟 生物応用化学科棟・材料工学科棟		消火器（11 本）の設置

【平成 20 年度】

棟名称	室名称	改修内容
材料工学科棟	3 階外廊下手摺	手摺の修繕工事
電子情報工学科棟西側道路		段差解消工事
生物応用化学科棟		劇物薬品用冷蔵庫購入（一部負担）
共同研究推進センター		透明ガラス入替え等の修繕工事

【平成 21 年度】

棟名称	室名称	改修内容
実習センター	外部	防犯灯取付

【平成 22 年度】

棟名称	室名称	改修内容
電子情報工学科棟		通路反射鏡設置工事
生物応用化学科棟		廊下塗装工事
機械工学科棟		外部階段滑り止め工事
材料工学科棟		外部廊下段差対策工事
電子情報工学科棟		外部階段滑り止め工事

【平成 23 年度】

棟名称	室名称	改修内容
電気電子工学科		保管庫連結耐震固定
電子情報工学科		保管庫連結耐震固定
物理実験室		保管庫連結耐震固定
生物応用化学科棟		劇物薬品庫購入

（出典 総務課資料）

組換え DNA 実験および動物実験実施状況

【平成 19 年度】

教員名	課題名	備考
生貝	組み換え腸炎ビブリオ耐熱性溶血毒(TDH)ならびに腸炎ビブリオに対するシャクヤクに含まれるガロイルグルコースの作用	組換え DNA 実験
	古典型コレラ菌が有するhlyA遺伝子とその遺伝子産物の発現に関する研究	組換え DNA 実験
	シャクヤクに含まれるガロイルグルコースの病原性微生物に対する作用	組換え DNA 実験
中山	$\alpha$ -ガラクトシダーゼ・グルタチオンS トランスフェラーゼ融合タンパク質の大腸菌内での発現	組換え DNA 実験
	出芽酵母 YPH499 のアミノ酸栄養要求性の相補	組換え DNA 実験
	GFP(Green Fluorescent Protein)によるバクテリア遺伝子組換え	組換え DNA 実験
	GDP-マンノース合成酵素の大腸菌による発現	組換え DNA 実験
	ポンプ変異株を用いた真菌のステロールトランスポータの単離	組換え DNA 実験
小川	アデノベクターを利用した $\beta$ -gal、bcl-2、crmA、p35 遺伝子のは乳類細胞での発現	組換え DNA 実験
	遺伝子組み換え CHO 細胞でのタンパク生産効率のモデル系構築	組換え DNA 実験

【平成 20 年度】

教員名	課題名	備考
生貝	組み換え腸炎ビブリオ耐熱性溶血毒(TDH)ならびに腸炎ビブリオに対するシャクヤクに含まれるガロイルグルコースの作用	組換え DNA 実験
	<i>Vibrio cholerae</i> 遺伝子の大腸菌での発現	組換え DNA 実験
	GFP(Green Fluorescent Protein)によるバクテリア遺伝子組換え	組換え DNA 実験
内藤	顎下腺の生体防御機能に関する研究	動物実験
	血糖上昇抑制物質に関する研究	動物実験
中山	病原性真菌 <i>Candida albicans</i> および <i>C. glabrata</i> におけるゲノム機能解析	組換え DNA 実験
	グルタチオン S トランスフェラーゼとアルコール脱水素酵素・融合タンパク質の大腸菌内での発現	組換え DNA 実験
	出芽酵母 YPH499 のウラシル栄養要求性の相補	組換え DNA 実験
小川	ヒト型抗体産生細胞 CHO-DP12 の利用	組換え DNA 実験

組換え DNA 実験および動物実験実施状況

【平成 21 年度】

教員名	課題名	備考
生貝	コレステロールと糖鎖リガンドを介したコレラ菌溶血毒の膜侵入モデルの構築	組換え DNA 実験
	GFP (Green Fluorescent Protein) によるバクテリア遺伝子組換え	組換え DNA 実験
内藤	顎下腺の生体防御機能に関する研究	動物実験
	血糖上昇抑制物質に関する研究	動物実験
中山	病原性真菌 <i>Candida albicans</i> および <i>C. glabrata</i> におけるゲノム機能解析	組換え DNA 実験
	グルタチオン S トランスフェラーゼとアルコール脱水素酵素・融合タンパク質の大腸菌内での発現	組換え DNA 実験
	出芽酵母 YPH499 のウラシル栄養要求性の相補	組換え DNA 実験

【平成 22 年度】

教員名	課題名	備考
生貝	病原性真菌 <i>Candida albicans</i> および <i>C. glabrata</i> におけるゲノム機能解析	組換え DNA 実験
	GFP (Green Fluorescent Protein) によるバクテリア遺伝子組換え	組換え DNA 実験
	$\beta$ -ガラクトシターゼ遺伝子を含むプラスミドを用いた大腸菌の形質転換 (生物化学コース実験)	組換え DNA 実験
内藤	顎下腺の生体防御機能に関する研究	動物実験
	血糖上昇抑制物質に関する研究	動物実験
	酵母を利用するシスタチン S の発現	組換え DNA 実験

【平成 23 年度】

教員名	課題名	備考
澤田	GFP (Green Fluorescent Protein) によるバクテリア遺伝子組換え	組換え DNA 実験
内藤	顎下腺の生体防御機能に関する研究	動物実験
	血糖上昇抑制物質に関する研究	動物実験
山口	両生類変態期における赤血球転換機構の解析	組換え DNA 実験
生物応用化学科	生物化学コース実験	組換え DNA 実験

(出典 総務課資料)

〔 平成 16 年 4 月 1 日 〕  
〔 規 則 第 29 号 〕  
最終改正平成 20 年 3 月 3 日

○ 組換えDNA実験安全管理規則（抜粋）

（目的）

第 1 条 この規則は、本校において組換えDNA実験（以下「実験」という。）を計画し、実施する際に安全を確保するために、遺伝子組換え生物等の使用等の規制による生物の多様性の確保に関する法律（平成15年法律97号）以下「法」という。）に基づき必要な事項を定めることを目的とする。

（校長の責務）

第 2 条 校長は、本校において行われる実験の安全確保に関するすべての事項を総括する。

（実験安全管理分科会）

第 3 条 実験安全管理分科会（以下「分科会」という。）は、校長の諮問に応じて次に掲げる事項について調査審議し、及び校長に対し助言又は勧告するものとする。

- (1) 実験に関する規程等の立案に関すること。
- (2) 法に対する実験計画の適合性に関すること。
- (3) 実験に係る教育訓練及び健康管理に関すること。
- (4) 事故発生の際の必要な処置及び改善策に関すること。
- (5) その他実験の安全確保に関すること。

（組換えDNA安全主任者）

第 4 条 本校に、校長を補佐するため、組換えDNA安全主任者（以下「安全主任者」という。）を置く。

- 2 安全主任者は、生物災害に関する知識及び技術に習熟した者のうちから、校長が指名する。
- 3 安全主任者は、次に掲げる業務を行う。
  - (1) 実験が法及びこの規則に従って適正に遂行されていることを確認すること。
  - (2) 実験責任者に対し指導助言を行うこと。
  - (3) その他実験の安全確保に関する必要な事項を実施すること。
- 4 安全主任者は、その業務を遂行するに当たり、分科会と十分連絡をとり、必要な事項について委員会に報告するものとする。

（実験責任者）

第 5 条 実験を実施しようとするときは、実験計画ごとに、当該実験従事者のうちから、実験責任者を置く。

- 2 実験責任者は、生物災害の発生を防止するための知識及び技術に習熟した者で、次に掲げる業務を行う。
  - (1) 実験計画の立案を行うこと。
  - (2) 安全主任者との緊密な連絡の下に、実験全体の適切な管理、監督に当たること。
  - (3) 実験従事者に対する教育訓練を行うこと。
  - (4) その他実験の安全確保に関し必要なこと。

（出典 本校ウェブサイト学内専用ページ 組換えDNA実験安全管理規則）

平成 20 年 3 月 3 日  
規則 第 83 号

○ 動物実験規則（抜粋）

（目的）

第 1 条 この規則は、本校において動物実験等を適正に行うため、「動物の愛護及び管理に関する法律（昭和 48 年法律第 105 号）」（以下「法」という）、「実験動物の飼養及び保管並びに苦痛の軽減に関する基準（平成 18 年環境省告示第 88 号）」（以下「飼養保管基準」という）、「研究機関等における動物実験等の実施に関する基本指針（平成 18 年文部科学省告示 71 号）」（以下「基本指針」という）及び内閣府告示の「動物の処分方法に関する指針」（以下「処分方法に関する指針」という）を踏まえ、日本学術会議が作成した「動物実験の適正な実施に向けたガイドライン（平成 18 年 6 月）」（以下「ガイドライン」という）を参考に、必要な事項を定めるものとする。

2 動物実験等については、法、飼養保管基準、基本指針、処分方法に関する指針、その他の法令等に定めがあるもの及びガイドラインのほか、この規則の定めるところによるものとする。

3 動物実験等の実施に当たっては、法及び飼養保管基準に即し、動物実験等の原則である代替実験法の利用、使用数の削減及び苦痛の軽減の 3R（Replacement、Reduction、Refinement）に基づき、適正に実施しなければならない。

（定義）

第 2 条 この規則において、次の各号に掲げる用語の意義は、それぞれ当該各号に定めるところによる。

(1) 動物実験等 本条第 4 号に規定する実験動物を教育、研究、その他の科学上の利用に供することをいう。

(2) 飼養保管施設 実験動物を恒常的に飼養若しくは保管する施設・設備をいう。

(3) 実験室 実験動物に実験操作（48 時間以内の一時的保管を含む）を行う動物実験室をいう。

(4) 実験動物 動物実験等の利用に供するため、飼養又は保管している哺乳類等（飼養保管施設に導入するために輸送中のものを含む。）をいう。

(5) 動物実験計画 動物実験等の実施に関する計画をいう。

(6) 動物実験実施者 動物実験等を実施する者をいう。

(7) 動物実験責任者 動物実験実施者のうち、動物実験等の実施に関する業務を統括する者をいう。

(8) 実験動物管理者 校長の命を受け、実験動物及び飼養保管施設を管理する者をいう。

(9) 飼養者 実験動物管理者の下で実験動物の飼養又は保管に従事する者をいう。

(10) 指針等 動物実験等に関して行政機関の定める基本指針、処分方法に関する指針及びガイドラインをいう。

（出典 本校ウェブサイト学内専用ページ 動物実験規則）



実験実習安全必携

独立行政法人  
国立高等専門学校機構

安全必携目次

第 I 部 共通

第 1 章 安全一般心得	1
第 2 章 学生実験・実習の心得	2
第 3 章 救護と衛生	3
第 1 節 救急処置一般	3
第 2 節 創傷	8
第 3 節 熱傷	8
第 4 節 ガス中毒	10
第 5 節 感電	11
第 6 節 その他参考事項	11
6-1 熱中症	11
6-2 鼻血	13
6-3 目の外傷	13
6-4 過換気(呼吸)症候群	14
6-5 凍傷	15
第 4 章 火災時の対応	16
第 5 章 地震時の対応	17
第 6 章 爆発時の対応	17
第 7 章 薬品漏洩時の対応	18

第 II 部 作業別安全心得

第 1 章 電気取扱い	19
第 2 章 運搬作業	20
第 3 章 高所作業	20
第 4 章 回転体取扱い作業	21
第 5 章 高熱作業	22
第 6 章 一般化学実験	23
第 7 章 危険物取扱い作業	24
第 8 章 有害物質の取扱い	24
第 9 章 バイオハザードの防止	25
第 10 章 廃棄物・廃水処理心得	26
第 11 章 高圧ガス取扱い作業	27
第 12 章 高圧電気取扱い作業	28
第 13 章 X線取扱い作業	28
第 14 章 レーザー取扱い作業	29
第 15 章 グラインダー研削作業	29
第 16 章 溶接・ガス切断作業	30
第 17 章 容器・ピット内作業	31
第 18 章 VDT(Visual Display Terminal)作業	31

(出典 総務課資料)

# 救急法の手引き

## 救急法の手引き(目次)

### 救急法の基礎知識

1. 救命手当	1
(1) 救命手当とは	1
(2) 手当の目的	2
(3) 救命手当の必要性	2
(4) 救助に際しての必要なこと	3
(5) 救命手当の手順	3
(6) 出血の手当	11
2. 応急手当(応急処置)	14
(1) 傷	14
(2) 脊椎損傷	17
(3) 骨折	17
(4) 脱臼	18
(5) 腱断裂	19
(6) 捻挫	19
(7) 肉離れ	20
(8) 突き指	20
(9) 打撲	21
(10) 目に物があたってるとき	21
(11) RICE: Rest・Ice・Compression・Elevation処置	22
(12) 包帯	23
3. ケガの予防と再発防止	25
(1) テーピング	25
(2) スポーツマッサージ	25
(3) ストレッチング	27
資料 1 心臓マッサージ 圧迫の仕方	28
資料 2 心臓蘇生法と AED の手順	29
資料 3 119 番通報時の留意点とは	30
【参考文献】	31

鈴鹿工業高等専門学校

(出典 総務課資料)

各科の安全冊子（機械工学科）

## 機械工学科における安全衛生マニュアル

### 機械工作作業における危害防止指針

#### 1. 機械工作作業

##### (1) 一般的注意

- ・ 担当の職員の指示を受けてから作業にかかること。
- ・ 作業時における服装については、原則として以下の事項に留意すること。
  - (イ) 手袋を使用しないこと。
  - (ロ) 作業着および靴を着用すること。
  - (ハ) 袖や裾は開かないようにしておくこと。
  - (ニ) ネクタイや手ぬぐいは、垂れ下げないこと。
- ・ 作業中、まわり(特に足元)をよく整頓しておくこと。作業する周囲には不要な物を置かないこと。また通路に不要な物を置かないこと。
- ・ 作業中に機械を離れる場合は、機械を必ず停止させること。
- ・ 作業中に機械に異状を認めたら、機械を停止させ、電源を切ってから、係の職員の指示を受けること。
- ・ 停電になったら、必ず電源を切ること。
- ・ 機械の構造・特徴を十分に知った上で作業をする。
- ・ 機械の運転に際しては、常に適切な切削速度・送り速度を保つよう留意すること。
- ・ 切りくずは手を切りやすいので、直接手で切りくずの処理をしないこと。
- ・ 運転中の機械に触れたり、運転中の機械の掃除や注油を行ったりしないこと。
- ・ 2人以上の共同作業の際は、合図などで十分連絡を密に行うこと。一つの工作機械を共同作業により操作することは、やむをえない場合以外には避けること。
- ・ 圧搾空気で身体のチリを払ったり、ノズルを人の方に向けたりしないこと。
- ・ 分解・ハンダ付け等のため、品物を加熱する際には、密閉された空気たまりの部分がないことを確かめた上で加熱すること。(部品が飛び出してくることがある。)
- ・ ボンベ類のバルブは、ゆっくり回して開くこと。
- ・ 上向きで行う作業の際には、保護眼鏡を使用すること。

#### その他の災害防止

##### 電気災害の防止

- (1) ポータブルの電気工器具に使用されている配線は、腐食を防止するための絶縁皮膜が完全であることを確認してから使用する。
- (2) 電気器具のアース線を、ガス管、油管、電線管等に接続しない。
- (3) 電線の末端には、触れない。
- (4) 分電盤には、機器名、電圧、電源を明示する。
- (5) 水たまり等に電線が落ち込んでいる時は、水たまりに入らない。

## 各科の安全冊子（機械工学科）

**災害発生時の措置**

災害が発生した場合は直ちに作業を中止し，発見者また実験担当者は，状況を判断し，速やかに必要な連絡をすると共に，負傷者等があれば共同作業者とともに救護の処置をとる。

**救急法**

救急法とは，医師が来るまでの一時的な応急手当であり，事故が起きた時を最悪の状態として，それ以上悪化させないために行うものである。

**1. 一般事項**

- (1) 事故者や急病人が発生した場合は，至急学生課に連絡するとともに，次の点に注意し，必要があればそれに対応した応急処置をとる。
  - (a) 出血の有無。全血液の 1/3(体重の約 8%)を失うと生命に危険を生じる。
  - (b) 呼吸が一旦停止し，10 分間たてば 10 人中 8～9 人は死亡する。
  - (c) その他，顔色，意識，脈拍，瞳孔，負傷の程度等。
- (2) 全ての外傷(出血，骨折，火傷等)患者は，ショック状態にあるものと考え，その発現の有無にかかわらず，その手当をしなければならない。
  - (a) 仰向けに寝かせ，頭を低く下肢を高くすること。(頭部負傷の場合は水平にする。)
  - (b) 胸を開き，ベルトをゆるめて呼吸を楽にさせる。
  - (c) 寒冷時には，毛布での保温を考える。
  - (d) 水を欲しがるときは与えても良い。ただし，腹部打撲，吐き気のある場合はさける。
  - (e) 負傷箇所は，本人に見せないようにする。
- (3) 大出血，呼吸停止，服毒，心臓停止，広範囲の火傷等の場合は，手当を急ぐ。
- (4) 意識の有無を考慮して，適切な体位を保つ。必要以上に動かさない。
- (5) 暑くなく寒くなく保つ。汗をかくのは，暖め過ぎである。
- (6) 医師や救急車の手配，学内，家族への連絡，協力依頼，適切な元気づけ等を行う。

なお，安全衛生に関する詳細は，既に配布されているポケットサイズの「実験実習安全必携」に記載されているので，実験実習に関する授業においては，必ず携帯すること。

**付録 緊急連絡先等の電話番号**

鈴鹿地域救急医療情報センター：0593-82-1199(代)(夜間)

鈴鹿中央病院：0593-82-1311(代)

(出典 機械工学科資料)

クラブ活動時における安全マニュアル(抜粋)

クラブ活動時における安全マニュアルについて

- 1 陸上競技部
- 2 バドミントン部
- 3 硬式野球部
- 4 ソフトテニス部
- 5 テニス部
- 6 バスケットボール部
- 7 W・V部
- 8 柔道部
- 9 剣道部
- 10 バレーボール部
- 11 弓道部
- 12 卓球部
- 13 空手部
- 14 ハンドボール部
- 15 サッカー部
- 16 ラグビー部
- 17 水泳部
- 18 女子バレーボール部

クラブ名	陸上競技部
部員数	1年 11名 (内訳 男子: 11名、女子: 0名) 2年 12名 (内訳 男子: 10名、女子: 2名) 3年 9名 (内訳 男子: 8名、女子: 1名) 4年 11名 (内訳 男子: 9名、女子: 2名) 5年 6名 (内訳 男子: 6名、女子: 0名) 専攻科1年 1名 (内訳 男子: 1名、女子: 名) 専攻科2年 名 (内訳 男子: 名、女子: 名) 合計 50名 (内訳 男子: 45名、女子: 5名)
顧問 (教職員名)	船越 一彦 近藤 一之
過去に起きた事故事例	<ul style="list-style-type: none"> <li>・用具等による物理的な事故は特になし</li> <li>・陸上競技におけるスポーツ障害として、ハムストリングの肉離れ、アキレス腱周囲炎、腸脛靭帯炎、捻挫、腰痛等がある。</li> </ul>
今後予想される事故	<ul style="list-style-type: none"> <li>・投擲競技の投てき物による事故が一番危険である</li> <li>・サッカー部が蹴ったボールがコース場に飛び出してきたときそのボールをよけようとして怪我が起こる可能性がある</li> <li>・夏場の脱水症状</li> </ul>
発生事故に対する対策と予想される事故に対する今後の対策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・投てきに関しては市営競技場を主に使い、学内ではラグビー部が練習していないときに投げさせているので現在までに事故は起こっていない</li> <li>・防球ネットの増加ではみ出てくるボールを減少させる</li> <li>・老化してきたところの修繕をお願いしたい</li> <li>・夏場は積極的に水分補給をさせている。また、調子の悪そうな学生が早めに練習を切り上げさせているので、今まで大きな事故につながったことはない</li> </ul>
事故発生時の処置及び処理方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事故が発生した際は地元の病院に搬送する</li> <li>・携帯電話の番号を部員全員に知らせてあるので、会議等でその場になくても即座に対応できるようにしている</li> <li>・怪我については日頃からいろいろと知識をつけさせているので簡単な対処法なら部員自身がわかっている</li> </ul>

記入欄は、必要に応じ調整して下さい。部員数については、記入日現在でお願いします。

(出典 学生課資料)

本学の危機管理マニュアル

目 次

1. 目的	1
2. 緊急事態	1
3. 危機管理体制	1
4. 危機管理体制フローチャート	2
5. 災害及び事故事件発生時の情報連絡体制	3
6. 災害発生時における教職員の学校への参集基準	4
7. 災害発生時の防災体制及び任務	5
8. 本校における災害発生時の対応	7
9. 本校における地震及び津波の対応	8
10. 防災対策本部の必需品等一覧	9
11. 機構本部へ第一報を行う基準	11
12. 関係機関等連絡先一覧	12
13. 地震発生時の基本的な対応	14
14. 津波警報（注意報）が発令された場合の基本的な対応	18

（出典 総務課資料）

危機管理体制フローチャート

危機事象発生

通報 ↓ ↑ 情報の収集

リスク管理室	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 構成員 校長・各主事・専攻科長、事務部長・総務課長・学生課長</li> <li>・ 情報の収集・分析</li> <li>・ 対策案の立案・決定</li> <li>・ 対策本部設置の可否</li> </ul>
--------	--

関係機関との  
連絡・調整等

- |  |
|--|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 高専機構本部</li> <li>・ 警察・消防署</li> <li>・ その他行政機関等</li> <li>・ 学生の保護者</li> </ul> |
|--|



対策本部	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 構成員 リスク管理室の構成員</li> <li>・ 情報の収集・整理・分析</li> <li>・ 対応方針及び対応策の決定</li> </ul>
------	---

情報の伝達  
対応策の周知・  
実行指示

学生・教職員

対応状況の報告



自衛防災隊	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 情報の収集・伝達</li> <li>・ 出荷防止及び初期消火</li> <li>・ 救出・救護</li> <li>・ 避難誘導</li> </ul>
-------	---

(出典 総務課資料)

資料 8 - 1 - ① - 50

平成 2 3 年度防災訓練実施要領

目 的 鈴鹿工業高等専門学校防災規則に基づき、災害を最小限にとどめ、学生・教職員等の生命・身体の安全を確保するため、避難等の訓練を行うものである。  
また、常に災害予防に対する心構えを持たせ、防災上必要な知識の普及を図るものである。

日 時 平成 2 3 年 9 月 7 日 (水) 14:30 ~16:00

訓練種別 総合訓練

対 象 者 学生及び教職員  
(雨天：各クラス代表学生 2 名及び教職員)

訓練場所 各学科棟、マルチメディア棟、管理棟、青空広場  
(雨天：第 3 合併講義室)

訓練の想定 14 時 30 分頃に、伊勢湾沖を震源地とする極めて強い地震（震度 6 弱）が発生し、大津波警報が発令されたことを想定する。

主な訓練の内容

- ① 避難訓練
  - ② 通報訓練
  - ③ 消火訓練
- (雨天の場合)
- ① 消防署員による講話
  - ② ビデオ視聴
  - ③ AED 訓練

(出典 総務課資料)

資料 8 - 1 - ① - 51

安全管理のための研修会

日 時 : 平成 2 3 年 5 月 1 1 日 (水) 1 5 : 0 0 ~

テーマ : 「地震災害に対する備えについて」

場 所 : 第一会議室

講 師 : 鈴鹿市生活安全部防災安全課 後藤氏

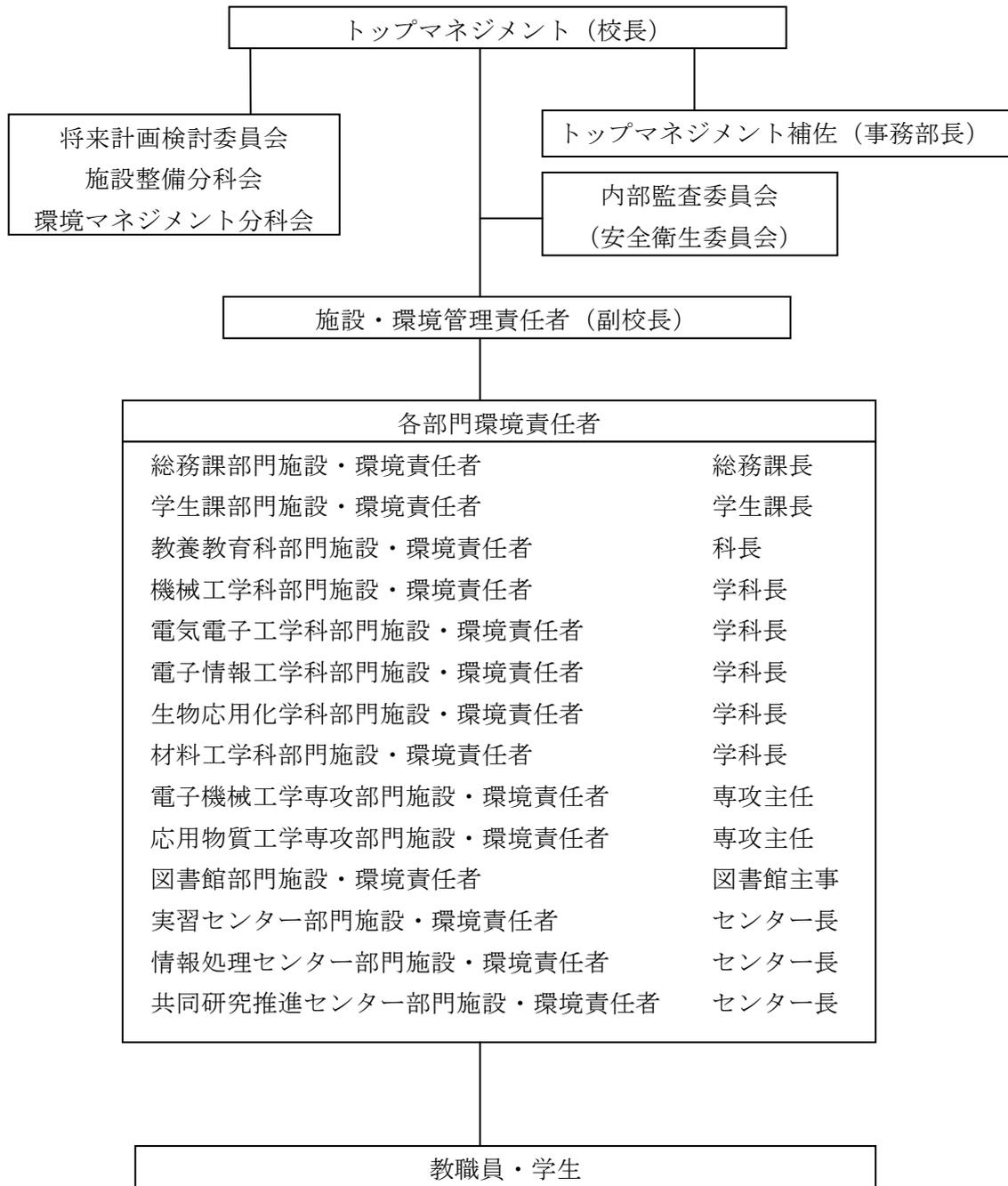
参加者 : 8 6 名

(出典 総務課資料)

鈴鹿工業高等専門学校施設・環境マネジメントシステム運用体制（概念図）

平成 20 年 7 月 7 日

本校の施設・環境方針に基づく環境目的・目標を達成するための運用体制は次のとおりとする。  
各担当部署は、役割及び責任を認識し、積極的に環境問題に取り組まなければならない。



(出典 総務課資料)

光熱水量と使用金額

年 度		19 年度	20 年度	21 年度	22 年度	23 年度
電気	使用量(kWh)	2,281,538	2,193,350	2,050,287	2,207,853	2,197,266
	金額 (円)	37,722,188	40,361,175	35,683,942	37,191,853	39,631,364
水道	使用量(m <sup>3</sup> )	75,392	73,116	65,198	46,124	45,529
	金額 (円)	17,118,914	16,630,222	14,869,225	10,820,193	10,692,121
ガス	使用量(m <sup>3</sup> )	21,104	20,543	21,253	27,335	23,794
	金額 (円)	5,141,058	6,038,807	6,239,602	8,317,848	6,440,038

(出典 総務課資料)

(分析結果とその根拠理由)

本校のバリアフリー化や環境面を考慮した施設・設備は、高専設置基準を満足している。また、整備した施設については、本校の教育課程を実施するために、安全面及び環境面に配慮しつつ有効に活用している。しかし、老朽化した施設（建物）については、有効活用に努めているが、耐震改修を含めた改修・新築を行うことによる教育研究環境の改善を図る必要がある。また、資料 8 - 1 - ① - 54, 55に示すように、教育の高度化を推進するための先端設備の整備も急務である。

資料 8 - 1 - ① - 54

理工系教育高度化設備費（特別教育研究経費）申請の推移

【教育の進展に関する経費等】

年度	要求学科等	要求設備	要求額 (千円)	示達額 (千円)	備考
19	全学科共通	コミュニケーション能力の育成を重視した実践的英語教育	10,000	10,000	継続
	全学科共通	近隣技術者との連携によるエコ・エネルギー生成と活用のための技術教育と意識の啓蒙	12,092	9,000	機構戦略経費
	全学科共通	鈴鹿高専の教育力を活かした地域連携事業	5,380	3,000	
20	全学科共通	コミュニケーション能力の育成を重視した実践的英語教育	4,078	4,078	継続
	実習工場	実習工場再生支援設備経費 (フライ盤、ホール盤等)	20,000	20,000	高度化経費
21	全学科共通	コミュニケーション能力の育成を重視した実践的英語教育	4,078	4,078	継続
	全学科共通	高専間及び地域との連携による技術者人材育成組織と方法論の構築	19,300	18,000	継続
22	全学科共通	高専間及び地域との連携による技術者人材育成組織と方法論の構築	9,950	9,300	継続

【実践的専門教育等充実経費】

年度	要求学科等	要求設備	要求額 (千円)	示達額 (千円)	備考
21	専攻科等	産学連携戦力展開事業	19,262	7,100	

【企業技術者等活用経費】

年度	要求学科等	要求設備	要求額 (千円)	示達額 (千円)	備考
22	専攻科等	企業技術者等活用プログラム	2,196	1,707	
23	専攻科等	企業技術者等活用プログラム	2,830	1,722	

(出典 総務課資料)

高専教育充実設備費の交付リスト

【特別支援事業】

年度	要求学科等	要求設備	要求額 (千円)	示達額 (千円)	備考
19	全学科共通	高分解能材料組織解析システム	49,200	×	
20	全学科共通	高分解能材料組織解析システム	49,200	×	
21	全学科共通	高分解能材料組織解析システム	49,200	43,000	機構設備整備 費補助金

【教育基盤設備充実支援経費（40,000千円程度まで）】

年度	要求学科等	要求設備	要求額 (千円)	示達額 (千円)	備考
20	機械工学科	エンジン性能実験装置（排ガスコー メーター等）	18,000	15,210	
	電子情報工 学科	電子回路作成支援システム	10,000	8,450	
	材料工学科	計算化学・遺伝情報解析実験シ ステム	4,805	4,060	

【高専機構設備整備費補助金（H22 からマスタープランへ変更）】

年度	要求学科等	要求設備	要求額 (千円)	示達額 (千円)	備考
21	実習工場	マシニングセンタ	18,115	15,530	
		旋盤	14,303	14,270	
		平面研削盤	12,182	12,050	
	全学科共通	高分解能材料組織解析システム	43,965	43,000	以前から要求
22	情報処理セン ター	情報処理演習室映像音響関係設 備	5,000	5,000	
23	生物応用化 学科	FT-NMR 装置 400MHZ 超伝導マグネ ット	14,595	12,392	
	材料工学科	ビデオマイクロスコープシステ ム	8,061	6,844	
		材料精密切断・切削加工システム	3,255	2,764	

(出典 総務課資料)

観点 8-1-②： 教育内容、方法や学生のニーズを満たす ICT 環境が十分なセキュリティ管理の下に適切に整備され、有効に活用されているか。

(観点に係る状況)

学生が利用可能なコンピュータを情報処理センターの演習室、図書館の閲覧室・進学就職コーナー及び各学科・専攻科に設置し、インターネットの利用環境の充実を図ることにより、学内情報ネットワークに対する要望、シラバスや就職・進学情報の閲覧及び学術雑誌の検索やオンラインジャーナルの各種サービスを提供している(資料 8-1-①-15, 16 及び資料 8-1-②-1~7)。

学内情報ネットワークは、情報処理センターが本校の情報セキュリティ管理規則に基づいて維持管理している(資料 8-1-②-8)。インターネットとはファイアウォールを介した接続とすることで学内外からの不正接続を防止・監視している。支線ネットワークの管理と利用者のサポート対応のために、部局管理者(情報処理センター運営協力会議構成員)を任命している(資料 8-1-②-9, 10)。また、ネットワークに接続するパソコンにはウィルス対策ソフトの導入を義務づけ、利用者に対する講習会等を開催してセキュリティ管理の周知に努めており、さらに、情報教育の一環として、情報倫理教育を授業に取り入れている(資料 8-1-②-11, 12)。

資料 8-1-②-1

学内情報ネットワーク接続パソコン台数

部局・施設	19 年度	20 年度	21 年度	22 年度	23 年度
機械工学科	110	112	102	105	124
電気電子工学科	113	110	110	136	140
電子情報工学科	194	182	190	196	196
生物応用化学科	67	64	61	71	78
材料工学科	72	71	79	93	86
教養教育科	70	58	64	72	73
事務部	114	103	123	120	101
専攻科	-	-	-	-	-
情報処理センター	148	147	130	126	128
共同研究推進センター	9	9	8	7	7
創造工学演習室	10	10	10	10	10
LL 教室	2	7	17	21	23
学生会	1	1	1	1	1
部活動	15	15	15	15	2
学寮	29	30	18	-	1
教育研究支援室	13	13	15	30	39
計	967	932	943	1003	1009

(出典 学生課資料)

就職・進学（編入・大学院進学）案内ウェブサイトへのアクセス状況

【平成 19 年度】

月	アクセス件数		月	アクセス件数	
	就職情報	進学情報		就職情報	進学情報
4	1,915	6,625	11	504	3,397
5	1,499	8,240	12	783	2,979
6	932	6,413	1	2,295	3,971
7	815	3,434	2	1,114	2,457
8	160	2,499	3	—	—
9	561	1,599	合計	11,118	43,919
10	540	2,305	月平均	1,011	3,993

【平成 20 年度】

月	アクセス件数		月	アクセス件数	
	就職情報	進学情報		就職情報	進学情報
4	1,336	5,782	11	634	2,099
5	1,174	6,999	12	501	1,636
6	617	4,673	1	1,395	5,229
7	505	3,957	2	2,029	2,693
8	152	1,554	3	1,148	2,735
9	375	1,460	合計	10,524	40,820
10	658	2,003	月平均	877	3,402

【平成 21 年度】

月	アクセス件数		月	アクセス件数	
	就職情報	進学情報		就職情報	進学情報
4	580	4,410	11	431	952
5	450	5,082	12	268	516
6	262	5,121	1	1,009	3,776
7	277	2,346	2	708	747
8	82	739	3	479	839
9	146	1,925	合計	4,850	24,111
10	167	932	月平均	405	2,009

【平成 22 年度】

月	アクセス件数		月	アクセス件数	
	就職情報	進学情報		就職情報	進学情報
4	801	3,758	11	1,165	834
5	598	3,437	12	1,034	1,760
6	375	2,902	1	2,201	1,647
7	137	2,022	2	1,798	1,414
8	80	399	3	2,316	4,090
9	224	1,206	合計	10,828	24,123
10	99	532	月平均	902	2,010

【平成 23 年度】

月	アクセス件数		月	アクセス件数	
	就職情報	進学情報		就職情報	進学情報
4	9,833	23,890	11	5,098	7,362
5	9,989	28,167	12	3,195	10,697
6	5,234	13,089	1	12,906	22,282
7	2,789	8,564	2	9,201	7,693
8	890	1,975	3	8,275	15,198
9	1,457	11,892	合計	70,568	155,303
10	1,701	4,494	月平均	5,881	12,942

(出典 学生課資料)

学科学生の学内情報ネットワークに対する要望・意見及び対応状況（抜粋）

年度	要望・意見	受付方法	対応状況
22	構内で無線 LAN を使えるようにしてほしい。	校長意見箱	マルチメディア棟ロビーに設置準備を進めている。ネットワークポリシーを改訂し、また、学内ネットワーク設備更新に合わせて平成 24 年 10 月からの稼働を予定している。
	図書館・情報処理センターを、土日、夜間も開けてほしい。	意見交換会	平日の夜間については、図書館（22 時）、情報処理センター（20 時）まで開館している。土日祝日については、図書館（土：17 時、日：試験期間中 17 時）は開館している。情報処理センターは、時間外開館運営上の問題で閉館している。
	情報処理センターについて：レポートを書こうと思っても授業で 2 室とも使用している場合があり、使えないことがある。1 室はなるべく空いている状態にしてほしい。	意見交換会	夜間開館を継続的に実施していることにより対処している。
	情報処理センターの PC を更新してほしい。	意見交換会	5 年ごとの更新計画に従って平成 23 年 4 月に計画的に演習室パソコン更新を実施した。
23	構内で無線 LAN を使えるようにしてほしい。	意見交換会	マルチメディア棟ロビーに設置準備を進めている。ネットワークポリシーを改訂し、また、学内ネットワーク設備更新に合わせて平成 24 年 10 月からの稼働を予定している。
	図書館・情報処理センターを、土日、夜間も開けてほしい。	意見交換会	上記回答において、情報処理センターは、時間外開館運営上の問題で閉館しているが、本年度の委員会にて、対応策を検討している。
	個々の学生の延べ印刷枚数を随時知らせてほしい。	担任経由	年間印刷枚数が 500 枚を越えた学生にメールを送信する措置をとった。

（出典 学生課資料）

資料 8-1-②-4

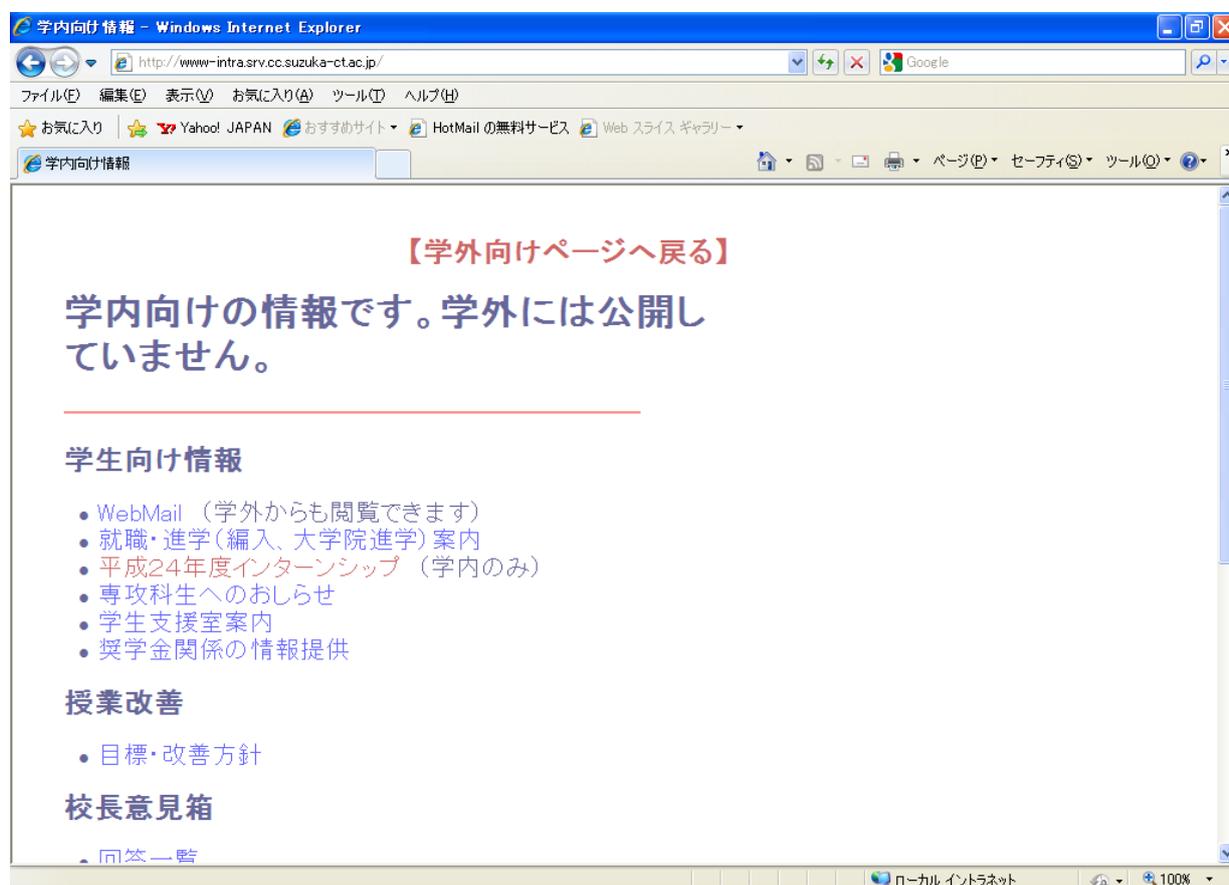
専攻科学生の学内情報ネットワークに対する要望・意見及び対応状況（抜粋）

年度	要望・意見	受付方法	対応状況
21	創造工学演習室の PC を更新して欲しい。	主任経由	平成 22 年 3 月に演習室のパソコン更新（6 台）を実施した。
22	更新されたものもあるが、創造工学演習室の PC を全て更新して欲しい。	主任経由	平成 23 年 3 月に演習室の残りのパソコン更新（3 台）を実施した。
	専攻科棟 1 階のタッチパネルを稼働して欲しい。	意見交換会	平成 23 年度に対応した。
23	構内で無線 LAN を使えるようにして欲しい。	意見交換会	マルチメディア棟ロビーに設置準備を進めている。ネットワークポリシーを改訂し、また、学内ネットワーク設備更新に合わせて平成 24 年 10 月からの稼働を予定している。

（出典 専攻科分科会資料）

資料 8-1-②-5

学内向け情報ウェブサイト



（出典 本校ウェブサイト学内専用ページ）

本校図書館ウェブサイト上の購入希望図書の書込欄

**購入希望図書書込欄**  
(本校学生, 教職員専用)

図書館で蔵書として購入してほしい図書等がありましたら, 下の欄にご記入ください。  
但し, 予算等の関係もありご希望に添い兼ねることもありますのでご了承ください。

貴方のメールアドレス →:

件 名 →:

所属(クラス), 氏名, 図書名, 著者名, 出版社, 定価を入力してください。

WRITE   RESET

(出典 本校ウェブサイト)

本校図書館ウェブサイトからアクセス可能な電子ジャーナル・学外データベース

**インターネットを利用した文献検索**

本校図書館では, 次のような電子ジャーナル・文献検索サービスを行っています。

サービス名	対象	収録内容				備考
		誌名	題目	要約	本文	
<a href="#">SciVerse Science Direct</a>	海外学術雑誌約1800誌	○	○	○	○ (約1000誌)	アラート機能
<a href="#">JDream II (学内専用)</a>	国内外約1,500万件の文献	○	○	○	○ (一部)	要ユーザ名(注)
<a href="#">ACS (学内専用)</a>	化学雑誌32誌	○	○	○	○	
<a href="#">MathSciNet (学内専用)</a>	数学関連約1,800誌の雑誌・書籍・会議録	○	○		○ (一部)	
<a href="#">GeNii (学内専用)</a>	国内の雑誌・学会誌	○	○	○		
<a href="#">NACSIS-Webcat</a>	国内図書館蔵書	○	○			

(注) ユーザ名を忘れた方は本校図書係にお問い合わせください。

(出典 本校ウェブサイト)

○ 情報セキュリティ管理規程（抜粋）

平成 22 年 9 月 6 日  
規 則 第 8 5 号

目次

- 第1章 総則（第1条－第7条）
- 第2章 情報システムの利用（第8条－第12条）
- 第3章 情報の取扱い（第13条－第16条）
- 第4章 物理的及び環境的セキュリティ対策（第17条－第23条）
- 第5章 教育（第24条・第25条）
- 第6章 情報セキュリティインシデント対応及び非常時行動計画（第26条－第30条）
- 第7章 調達、ソフトウェア開発及び外部委託（第31条－第42条）
- 第8章 違反と例外措置（第43条・第44条）
- 第9章 評価、見直し及び監査協力（第45条－第50条）
- 第10章 その他（第51条－第53条）

**第1章 総則**

**（目的）**

**第1条** この規程は、情報セキュリティポリシーに基づき、独立行政法人国立高等専門学校機構鈴鹿工業高等専門学校（以下「本校」という。）における情報セキュリティ対策に関する全般的事項を定めることにより、情報セキュリティの維持向上に資することを目的とする。

2 情報セキュリティ対策に関する専門的及び技術的な事項については、別に定める情報セキュリティ推進規程による。

**（定義）**

**第2条** この規程における用語の定義は、この規程で定めるものを除き、独立行政法人国立高等専門学校機構情報セキュリティポリシー対策規則（機構規則第98号。以下「対策規則」という。）及び独立行政法人国立高等専門学校機構情報格付規則（機構規則第99号。以下「格付規則」という。）の定めるところによる。

**（適用範囲）**

**第3条** この規程を適用する情報資産の範囲は、本校が扱う情報及び情報システムとする。

2 本校の情報システムの範囲は、付表1のとおりとする。

（出典 本校ウェブサイト学内専用ページ 情報セキュリティ管理規程）

鈴鹿工業高等専門学校運営規則（抜粋）

○ 運営規則（抜粋）

〔平成 16 年 4 月 1 日〕  
規則 第 2 号  
最終改正平成 23 年 7 月 11 日

（趣旨）

第 1 条 この規則は、鈴鹿工業高等専門学校（以下「本校」という。）の組織及び運営に関し、法令その他に規定するもののほか必要な事項を定めるものとする。

（委員会）

・・・・・・・・・・・・・・・・

第 4 条 本校に、校長の諮問に応じ本校の運営に関する事項を審議するため、校長が主宰する委員会として次に掲げる委員会を置き、その任務、組織及び事務担当者は、別表第 1 のとおりとする。

- (1) 教員選考委員会
- (2) 将来計画検討委員会
- (3) 予算委員会
- (4) 自己点検評価・改善委員会
- (5) 入学試験委員会
- (6) 情報管理委員会

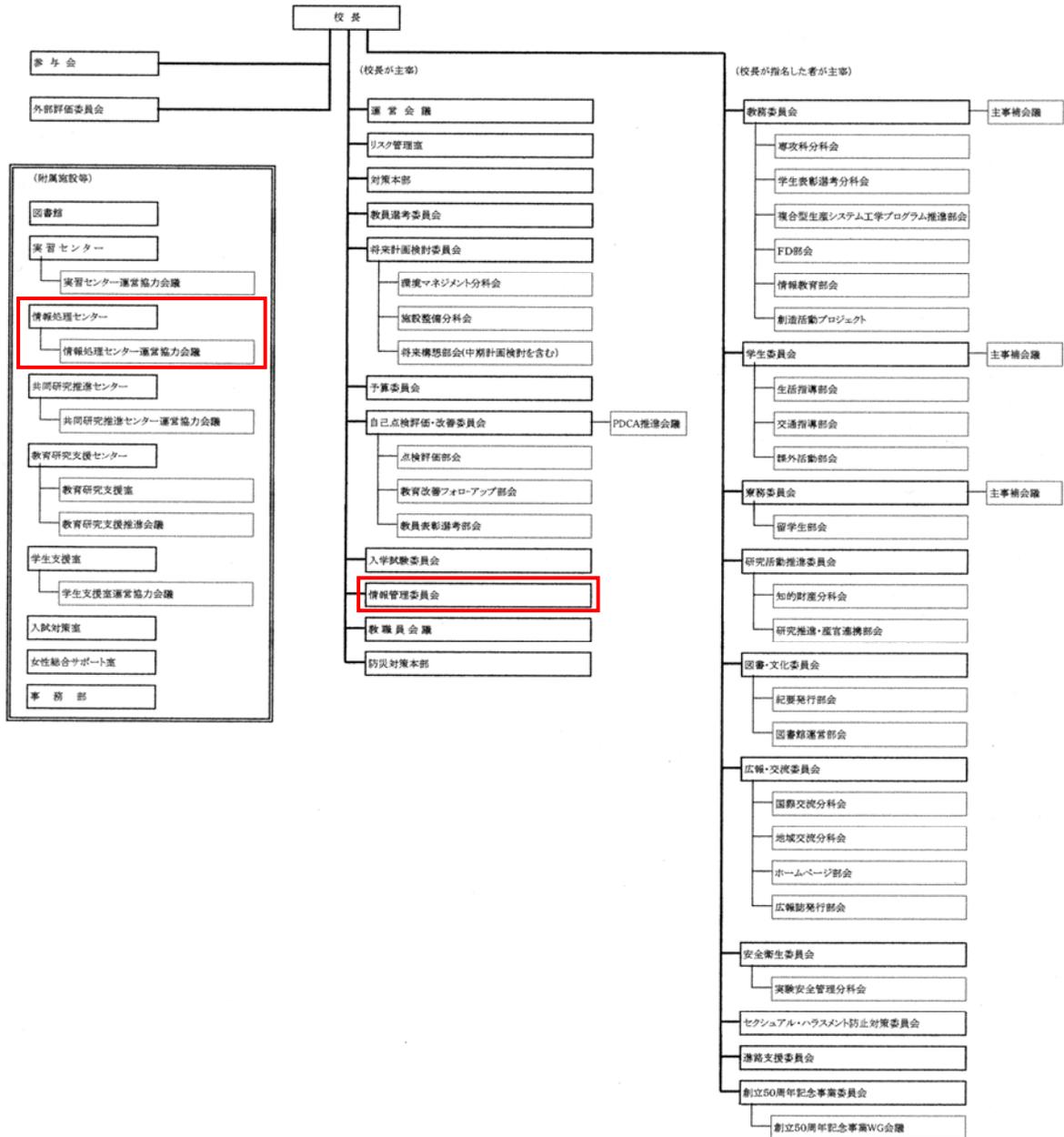
別表第 1（第 4 条第 1 項関係）（抜粋）

区分	任 務	組 織	事務担当
情報管理委員会	情報管理に関する事項を審議する。	(1) 校長 (2) 教務主事及び専攻科長 (3) 教養教育科長及び学科長 (4) 情報処理センター長 (5) 事務部長 (6) 各課長・室長 (7) その他校長が必要と認めた者	総務課

（出典 本校ウェブサイト学内専用ページ 運営規則）

平成24年度実施体制組織図

平成24年4月1日現在



(出典 総務課資料)

利用講習会等の実施状況

【平成 19 年度】

施設名	利用講習会等の内容	参加者数
情報処理センター	情報処理センター利用講習会 (7 回実施)	第 1 学年, 専攻科 1 年次, 編入学生, 留学生 計 239 名
	ネットワークセキュリティ講習会 (2 回実施)	第 5 学年, 専攻科生, 留学生 計 72 名

【平成 20 年度】

施設名	利用講習会等の内容	参加者数
情報処理センター	情報処理センター利用講習会 (7 回実施)	第 1 学年, 専攻科 1 年次, 編入学生, 留学生 計 247 名
	ネットワークセキュリティ講習会 (2 回実施)	第 5 学年, 専攻科生, 留学生 計 61 名

【平成 21 年度】

施設名	利用講習会等の内容	参加者数
情報処理センター	情報処理センター利用講習会 (7 回実施)	第 1 学年, 専攻科 1 年次, 編入学生, 留学生 計 258 名
	ネットワークセキュリティ講習会 (2 回実施)	各研究室・クラブ・団体代表者 計 62 名

【平成 22 年度】

施設名	利用講習会等の内容	参加者数
情報処理センター	情報処理センター利用講習会 (7 回実施)	第 1 学年, 専攻科 1 年次, 編入学生, 留学生 計 243 名
	ネットワークセキュリティ講習会 (2 回実施)	第 5 学年, 専攻科生, 留学生 計 48 名

【平成 23 年度】

施設名	利用講習会等の内容	参加者数
情報処理センター	情報処理センター利用講習会 (7 回実施)	第 1 学年, 専攻科 1 年次, 編入学生, 留学生 計 246 名
	ネットワークセキュリティ講習会 (2 回実施)	第 5 学年, 専攻科生, 留学生 計 64 名

(出典 学生課資料)

情報倫理教育を実施した授業一覧 (平成 23 年度)

学科	学年	授業名	実施単位数	シラバスへの記載の有無
機械工学科	1	情報処理 I	2	有
	3	情報処理応用	1	無
電気電子工学科	1	情報処理 I	2	有
	5	計算機システム	1	有
電子情報工学科	1	情報処理 I	1	無
	4	情報通信ネットワーク	2	有
生物応用化学科	1	情報処理 I	2	有
材料工学科	1	情報処理 I	2	有

(出典 学生課資料)

情報処理センターの演習室（情報処理演習室 1 及び情報処理演習室 2）のコンピュータは、コンピュータリテラシーの修得やプログラミング技術の上達に必要なアプリケーションはもとより、三次元 CAD（200 ライセンス）も備えており（資料 8-1-②-13），基礎情報処理・専門情報処理の授業だけでなく、教養教育を含む多くの教科，創造工学，実験実習及び製図など，moodle をはじめとする学内情報ネットワークを活用した授業，クラス運営，クラブ活動，アンケート調査及び各種プロジェクト等（資料 8-1-②-14, 15）に役立っている。演習室の平成 23 年度の利用者数は延べ約 4.2 万人（約 1 時間/1 回）であり（資料 8-1-②-16），学生向けサービスである就職及び進学（編入学・大学院進学）案内ウェブサイトへのアクセス状況はそれぞれ平均 5,881 件/月及び 12,942 件/月である（資料 8-1-②-2）。

なお，情報処理センターの利用案内は，利用講習会，学生便覧及び情報処理センターのウェブサイト等を用いることにより学生及び教職員の周知に役立っている（資料 8-1-②-5, 17, 18）。

資料 8-1-②-13

情報処理センター演習室 PC にて利用可能なソフトウェア一覧

アプリケーション名	バージョン	備考
Microsoft Windows	7 professional	
Microsoft Office	2010 Pro Plus	
Open Office	3.3	
(仮称)十進 Basic	7.5.1	
MPLAB IDE	8.73	
Code Blocks	10.05	
Processing	1.5.1	
GIMP	2.6.12	
ImageJ	1.45	
WinDVD	8	
MATLAB	R2010b	
Maxima	5.26.0	
FunctionView	5.78	
SolidWorks	2010 SP5	
図脳 Rapid	14	
TeraPad	1.08	
秀丸エディタ	8.03	
CrewTyping	1.1h	
Adobe Reader	10.1.2	
Java(JRE)	1.6. up31	

(出典 学生課資料)

教室別時間割 (平成 24 年度)

教室	月曜日				火曜日				水曜日		
	1 2	3 4	5 6	7 8	1 2	3 4	5 6	7 8	1 2	3 4	5 6
情報処理センター	メンテ	1I青山	4C高倉	2S渥美	5C澤田	3E川口	2C渥美	2E渥美	1S渥美	1E渥美	4C澤田
情報処理センター	メンテ		2M渥美		1E北村他		3M白井、白木原		3M白井	1DB田添	(特活)
第1合併講義室						5選孫			4CS篠原	4選小倉	
第2合併講義室		4選白井			2ME山口修				1ME鷺野		
第3合併講義室		4選仲本							4ME伊藤清		
視聴覚室		4選五味				5選ローソン				4選奥	
大講義室			5C小川	4C山口	4MI日下	4ECS日下	5C生貝		5C小川		
第1講義室						4ECS林				4選高橋	
第2講義室						5選川西					
LL教室											
多目的実験室							3M白井、白木原				
実習センタ		1M佐脇	4S江崎		1E北村他		3M白井、白木原				
製図室		2E奥野	3S万谷	3M民秋	2S黒田		2M藤松		1S万谷		
創造工学演習室			4M埜他			1B南部智	3M白井、白木原				
専攻科講義室	1DB甲斐	1D末次							2DB江崎		
1D		1B船越邦			1D藤松	1D森育			1DB甲斐	1DB田添	
1B		1B兼松			1B小林	1B長原					
2D	2D北村	2D箕浦			2D伊藤明他						
2B	2B生貝	2B井上			2B山口						
情報処理センター	メンテ	1DB桑原		4C高倉	5C澤田					4選神戸・丹羽	4C澤田
情報処理センター	メンテ	5S宗内	3M民秋		5M末次	2E花井他	3M白井、白木原		5S南部智	2D青山	(特活)
第1合併講義室						5選孫				4選小倉	
第2合併講義室		4選白井				2CS山口修			4CS伊藤清	1CS鷺野	
第3合併講義室									4ME篠原		
視聴覚室	2DBローソン	4選五味				5選ローソン				4選奥	
大講義室	4C山口				4MI日下	4ECS日下					5C生貝
第1講義室		4選仲本・田村			4C生貝	4ECS林				4選神戸・丹羽	
第2講義室						5選川西					
LL教室					3E出口	3M中井	3I林				
多目的実験室				4M埜他			3M	3M/2M	5M埜他		
実習センタ		1M佐脇					3M白井、白木原				
製図室			3M民秋			2E花井他		2M藤松			
創造工学演習室							3M白井、白木原				
専攻科講義室	2DBローソン					2DB久留原			2DB		2DB大竹
1D	1DB日下	1DB桑原			1DB豊田	1D大津			1D近藤一	1DB仲本	
1B									1B内藤		
2D		2DB村上			2DB田村					2D青山	
2B									1D近藤邦	2B黒田	

教室別時間割 (平成 24 年度)

教室	木曜日				金曜日			
	1 2	3 4	5 6	7 8	1 2	3 4	5 6	7 8
情報処理センター	1M渥美	1C渥美	2M打田、富岡			5S南部智		
情報処理センター	4S南部智	2DB林	4M末次		4M埜他			
第1合併講義室	3EIS出口							
第2合併講義室		4選市川	1CS鷺野				1ME浅井	1ICS浅井
第3合併講義室								
視聴覚室		4選渡辺			1DBローソン		1ME阿部	1ICS阿部
大講義室	5C生貝						4C生貝	
第1講義室	3EIS日下	3MC日下						
第2講義室	3EIS松尾	3MC松尾					1ME樋口	1ICS樋口
LL教室					1DBローソン			
多目的実験室			2M打田、富岡		4M埜他			
実習センタ			2M打田、富岡		4M埜他			
製図室			4M末次		5M南部紘			
創造工学演習室			2M打田、富岡		4M/5M		1DB井瀬他	
専攻科講義室	1DB民秋	2DB林						
1D						1DB大貫		
1B		1B和田憲						
2D	2D花井							
2B	2B淀谷							
情報処理センター	2D打田	5C山口	2M打田、富岡		2DB井上他	3E近藤一他		
情報処理センター	5M末次		4M末次		5M近藤邦他			
第1合併講義室								
第2合併講義室		4選市川	1ME鷺野				1ME浅井	1ICS浅井
第3合併講義室								
視聴覚室		4選渡辺					1ME阿部	1ICS阿部
大講義室	4C小川				4C山口			
第1講義室		5C山口						
第2講義室							1ME樋口	1ICS樋口
LL教室	3S松尾	3C日下						
多目的実験室			2M打田、富岡					4M埜他
実習センタ			2M打田、富岡		2S幸後		1DB近藤邦他	
製図室			4M末次		5M近藤邦他			
創造工学演習室	1S兼松、万谷		2M打田、富岡			3E近藤一他	1DB近藤邦他	
専攻科講義室		2DB西村他			2DB井上他			
1D	1D民秋	1D埜	1DB澤田他		1D柴垣	1DB大貫		
1B	1B高倉	1B甲斐			1B富澤			
2D	2D打田							
2B	2B下古谷	1B江崎						

(出典 学生課資料)

学内情報ネットワークを活用した授業一覧（平成 23 年度）

【授業等のために開設されている Moodle コース】

学科名	授業名等
機械工学科	メカトロニクス, 機械設計製図, 機械力学
電気電子工学科	電気電子材料, 電子回路設計, 創造工学
電子情報工学科	マイクロコンピュータ基礎, 計算機アーキテクチャ, 基礎制御工学, 画像処理工学, プログラミング基礎, 工学実験, 情報処理, プログラム設計, データ構造とアルゴリズム, 電子工学, 電気回路論, 創造工学, 情報理論 I, 情報通信ネットワーク, 電子回路, 人工知能, 電子材料, 卒業研究
生物応用化学科	情報処理応用, 応用化学コース実験, 化学工学 II, 化学設計製図, 有機化学
材料工学科	電気工学基礎, 機械工学基礎, 材料プロセス工学, 生産工学, 電気化学, 卒業研究, S 科進路資料
教養教育科	現代科学 II, 基礎数学 B, 微分積分 1, 微分積分 2, 応用数学, 応用物理, 技術英語 IA, 技術英語 I, 数学特論 1, 数学特論 2, 数学特講 I, 数学編入学試験対策, 物理, 現代科学 III, 総合基礎数学要約, 総合基礎英語 A, 線形代数, 線形代数 1, 線形代数 2, 英語 IA, 英語 IB, 英語 II B, 英語 IV A, 英語 IV, 英語 V, 英語問題集, 英語特講, 英語特講 IA, 英語特講 II, 英語特講 I, 英語編入学試験対策, 英語 II B, 1, 2 年生グラフアート
専攻科	代数学特論, 数理解析学, 基礎電子化学, 応用情報工学, 組織制御学, データ処理システム, 技術者倫理, データベース論, 構造設計学, 生産設計工学, 工学実験, 専攻科ファイル配付・提出
情報処理センター	Moodle の練習 (教職員用), 情報処理 I, 情報処理 II
その他	鈴鹿高専からのお知らせ, クラスルーム, クラブ活動, エコカー・プロジェクト, プロコン・プロジェクト, 課題研究(知財), ICT 活用勉強会, インターンシップ, 研修旅行, アンケート, ボランティア委員会, 高専祭実行委員会

【サーバコンピュータ（配布・提出用フォルダー等）活用授業】

	機械工学科	電気電子工学科	電子情報工学科	生物応用化学科	材料工学科
1 学年	情報処理 I	情報処理 I	電子情報工学実験 情報処理 I プログラミング基礎	情報処理 I	情報処理 I
2 学年	情報処理 II 英語 II B 機械工作実習	情報処理 II 英語 II B	プログラム設計 英語 II B 電子情報工学実験	情報処理 II 英語 II B	情報処理 II 英語 II B

資料 8 - 1 - ② - 15 続き

学内情報ネットワークを活用した授業一覧（平成 23 年度）

	機械工学科	電気電子工学科	電子情報工学科	生物応用化学科	材料工学科
3 学年	情報処理応用 総合実習 英語特講 I A 英語特講 I C 英語特講 II	電子回路設計 プログラミング 言語 英語特講 I A 英語特講 I C 英語特講 II	電子情報工学実 験 データ構造とア ルゴリズム 電子回路 英語特講 I A 英語特講 I C 英語特講 II	英語特講 I A 英語特講 I C 英語特講 II	英語特講 I A 英語特講 I C 英語特講 II
4 学年	創造工学 英語 IV A 数学特講 I 数学特講 II	英語 IV A 数学特講 I 数学特講 II	創造工学 電子情報工学実 験 電子回路 英語 IV A 数学特講 I 数学特講 II	英語 IV A 数学特講 I 数学特講 II	英語 IV A 数学特講 I 数学特講 II
5 学年	卒業研究 機械設計製図	卒業研究	卒業研究 人工知能	英語 V	
専攻科	技術英語 I データ処理システム 電子機械工学実験 応用情報工学			応用物質工学実験 応用情報工学	

【電子メール活用授業名】

	機械工学科	電気電子工学科	電子情報工学科	生物応用化学科	材料工学科
1 学年	情報処理 I				
2 学年	情報処理 II	情報処理 II		情報処理 II	情報処理 II
3 学年	情報処理応用				
4 学年	英語 IV				
5 学年					
専攻科	技術英語 I				

【Web 公開・活用授業】

	機械工学科	電気電子工学科	電子情報工学科	生物応用化学科	材料工学科
1 学年	情報処理 I 英語 I	情報処理 I 英語 I	電子情報工学実験 情報処理 I 英語 I	情報処理 I 英語 I	情報処理 I 英語 I
2 学年	情報処理 II 英語 II B	工学実験 情報処理 II 英語 II B	情報処理 II 英語 II B	情報処理 II 英語 II B	情報処理 II 英語 II B
3 学年	情報処理応用 英語特講 I 英語特講 II	英語特講 I 英語特講 II	電子回路 電子工学 電子情報工学実験 英語特講 I 英語特講 II	英語特講 I 英語特講 II	英語特講 I 英語特講 II

資料 8-1-②-15 続き

学内情報ネットワークを活用した授業一覧（平成 23 年度）

	機械工学科	電気電子工学科	電子情報工学科	生物応用化学科	材料工学科
4 学年	英語Ⅳ 現代科学Ⅱ	半導体工学 英語Ⅳ 現代科学Ⅱ	電子回路 電気回路論 電子情報工学実験 英語Ⅳ 現代科学Ⅱ	英語Ⅳ 現代科学Ⅱ	英語Ⅳ 現代科学Ⅱ
5 学年	英語Ⅴ	英語Ⅴ	電子材料工学 人工知能 英語Ⅴ	英語Ⅴ	英語Ⅴ
専攻科	技術英語Ⅰ 技術英語Ⅱ				

（出典 学生課資料）

資料 8-1-②-16

情報処理センター演習室利用記録

年 度	利用者数（延べ）	利用時間	平均利用時間
19 年度	56,857	58094:41:07	1:01:18
20 年度	51,887	50905:15:00	0:58:51
21 年度(※1)	42,838	39865:40:09	0:55:50
22 年度	47,643	46025:02:09	0:57:57
23 年度	42,251	40344:36:01	0:57:17

（※1）平成 21 年 6 月を除いた利用状況

（出典 学生課資料）

## 情報処理センターの利用案内（学生便覧）

## 3.2 情報処理センター

情報処理センターはマルチメディア棟 2 階にあります。高専の 5 年間のカリキュラムには、いくつかの情報処理関連教科が用意されており、それらの教科をこの情報処理センターで受講し、プログラミングをはじめとするコンピュータの様々な利用法を勉強します。

センターにはインターネットに接続された 100 台余りのコンピュータが設置されており、授業時間以外にも利用できますので、プログラミングの課題やレポートを書くのに、大いに利用してください。

どんな事ができるでしょう？

プログラミング、ワープロや表計算のソフトの利用、CAD を利用した図面作成、インターネットを利用した情報検索、電子メール、WEB の閲覧など

## 開館時間

平日 8:45～20:00

土曜、日曜、祝日は休館

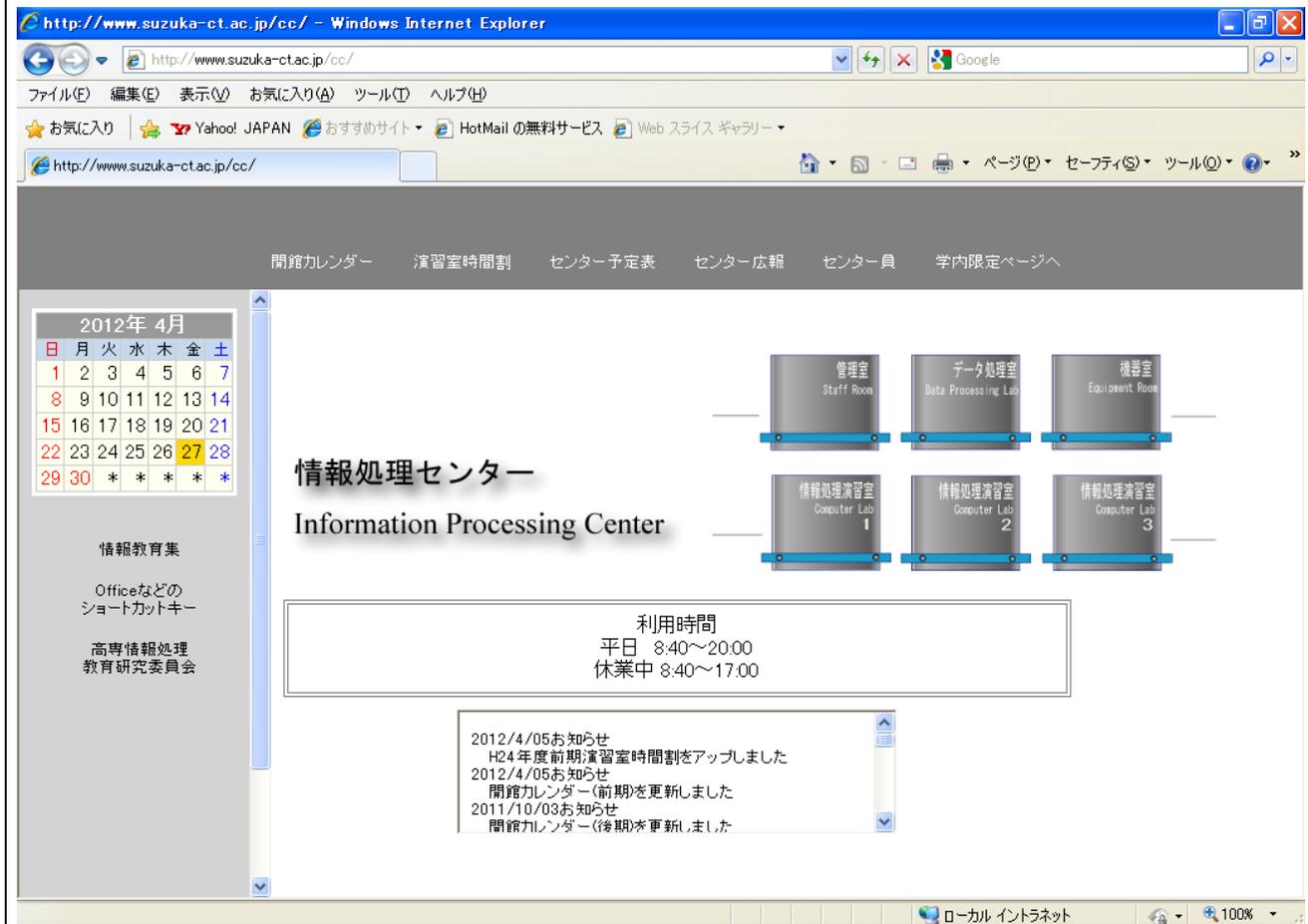
(春/夏/冬休みの平日は 8:45～17:00)

## 利用上の注意

- 1) 4 月中に情報処理センター利用のための講習会が催されます。この講習会によってユーザーアカウント（コンピュータ利用権）とパスワードがもらえます。センターのコンピュータを使用するには、このアカウントとパスワードが必要です。このパスワードを忘れないように、また、他人に知られて悪用されることのないように管理をしっかりとってください。
- 2) センター内のコンピュータの設定を変更したり、不要なプログラムをインストールしてはいけません。
- 3) センター内のネットワーク設備や放送設備に無用に触れてはいけません。
- 4) コンピュータゲームに興じる、大声を出すなど、迷惑行為をしてはいけません。
- 5) インターネットを利用する場合は、ネットワーク利用のエチケット（ネチケット）を守らなければいけません。
- 6) センター演習室および廊下への飲食物の持ち込みを禁止しています。
- 7) センターの床には電気信号のケーブルが設置されています。濡れた傘等を持ち込まないでください。
- 8) 夜間開館時には、演習室に学生の補助員が待機していますから、不明な点があれば補助員に尋ねることもできます。なお補助員の指示があれば、その指示に従ってください。

(出典 平成 24 年度学生便覧 p.14)

情報処理センターのウェブサイト



(出典：本校ウェブサイト)

(分析結果とその根拠理由)

本校は学内情報ネットワーク設備を全ての部局及び施設に配備し、授業及び実習・演習や学生向けサービスの提供等に有効に活用している。また、本校は情報セキュリティポリシーに基づき学内情報ネットワークの管理と運用を適切に実施している。

以上のことから、本校は、教育内容・方法や学生のニーズを満たすICT環境を、十分なセキュリティ管理の下に適切に整備し、有効に活用している。

観点 8-2-①： 図書、学術雑誌、視聴覚資料その他の教育研究上必要な資料が系統的に収集、整理されており、有効に活用されているか。

(観点に係る状況)

図書館は、閲覧座席 100 席、電子閲覧・検索コーナー 7 席を有しており、理工学図書を中心に全分野の図書資料を幅広く収集し、ビデオテープ・CD 等も備えている。現在の所蔵図書は約 11 万冊であり、毎年、学生によるブックハンティングや各授業担当教員が学年、専門分野やレベルを考慮・選定した学生閲覧図書を購入している(資料 8-2-①-1~4)。また、学内情報ネットワークを利用した学術雑誌等の検索サービス及びオンラインジャーナル(資料 8-1-②-7)は、全学生・教職員が利用できる。

毎年の図書及び視聴覚資料の購入については、教職員による選定のほか、学生の購入希望を取り入れている(資料 8-2-①-4)。この学生希望については、図書館内に購入希望図書の投書箱を設置するとともに、図書館ウェブサイト上に購入希望図書の書込み欄を設けている(資料 8-1-②-6)。また、1年に1回程度、学生から希望者を募り、書店において直接図書資料を選定するブックハンティングを実施するとともに、購入した図書は図書館ウェブサイト上に掲載している。他方、教員推薦の学術雑誌は和・洋雑誌あわせて約 60 誌を購入し、各学科等で保管・管理することにより、学生、教職員がいつでも自由に閲覧できるようになっている(資料 8-2-①-5)。さらに、資格・検定試験の問題集等を取り揃えた閲覧コーナーや技術士問題集コーナーを設けている(資料 8-2-①-6)。

図書館の利用を促進するため、教員が選定した学生閲覧図書の中でもシラバスに記載されている参考書や資格・検定試験の問題集等を取り揃えた閲覧コーナーを設けて学生のニーズに対応するとともに、読書感想文コンクールの開催や「図書館だより」を本校広報誌に掲載している(資料 8-2-①-7~9)。平成 23 年度の図書館の利用状況は、総貸出冊数 14,270 冊(うち学生 13,015 冊、教職員 870 冊、一般利用者 385 冊)、学生一人当たりの貸出冊数 11.3 冊となっている(資料 8-2-①-10)。

なお、図書館の利用案内は、学生便覧、図書館ウェブサイト及び本校広報誌に「図書館だより」を用いることにより学生及び教職員の周知に役立っている(資料 8-2-①-9, 11, 12)。

図書・視聴覚資料蔵書数

【図書資料】

		総記	哲学	歴史	社会科学	自然科学	技術工学	産業	芸術	言語	文学	その他	合計
19 年 度	和書	4,951	2,555	5,759	4,630	13,676	22,902	805	3,533	3,693	10,497	13,749	86,750
	洋書	309	299	132	183	7,011	3,537	14	99	1,115	1,579	1	14,279
	合計	5,260	2,854	5,891	4,813	20,687	26,439	819	3,632	4,808	12,076	13,750	101,029
20 年 度	和書	5,046	2,608	5,771	4,702	13,965	23,283	818	3,579	3,693	10,672	14,400	88,537
	洋書	309	294	135	181	7,021	3,566	17	102	1,106	1,577	503	14,811
	合計	5,355	2,902	5,906	4,883	20,986	26,849	835	3,681	4,799	12,249	14,903	103,348
21 年 度	和書	5,157	2,664	5,528	4,782	14,290	23,459	849	3,677	3,777	11,033	15,248	90,464
	洋書	309	306	134	189	7,006	3,548	24	105	1,130	1,579	1,644	15,974
	合計	5,466	2,970	5,662	4,971	21,296	27,007	873	3,782	4,907	12,612	16,892	106,438
22 年 度	和書	5,261	2,709	5,550	4,872	14,563	23,812	858	3,728	3,794	11,261	15,726	92,134
	洋書	309	308	134	190	7,012	3,559	35	105	1,130	1,579	1,800	16,161
	合計	5,570	3,017	5,684	5,062	21,575	27,371	893	3,833	4,924	12,840	17,526	108,295
23 年 度	和書	5,330	2,773	5,600	4,953	14,786	24,161	874	3,731	3,831	11,548	15,728	93,315
	洋書	313	311	153	193	7,046	3,586	43	157	1,146	1,593	3,182	17,723
	合計	5,643	3,084	5,753	5,146	21,832	27,747	917	3,888	4,977	13,141	18,910	111,038

【視聴覚資料】

年 度	CD等	DVD	カセット・ビデオ	合計
19年度	622	155	143	920
20年度	623	181	147	951
21年度	626	190	147	963
22年度	644	200	147	991
23年度	660	211	147	1,018

(出典 学生課資料)

技術工学分野の蔵書等内訳

【平成 19 年度】

	技術 工学	建設工学 土木工学	建築学	機械工学	電気工学	海洋学 船舶工学	金属工学 鉱山工学	化学工業	製造工業	家政学 生活科学	合計
和書	4,597	421	177	3,103	9,886	52	2,236	1,852	207	252	22,783
洋書	475	24	4	556	1,074	7	705	632	60	0	3,537
視聴覚資料	69	0	0	7	36	0	3	4	0	0	119
合計	5,141	445	181	3,666	10,996	59	2,944	2,488	267	252	26,439

【平成 20 年度】

	技術 工学	建設工学 土木工学	建築学	機械工学	電気工学	海洋学 船舶工学	金属工学 鉱山工学	化学工業	製造工業	家政学 生活科学	合計
和書	4,700	496	182	3,145	10,056	39	2,227	1,849	211	259	23,164
洋書	480	32	4	571	1,062	7	708	642	60	0	3,566
視聴覚資料	69	0	0	7	36	0	3	4	0	0	119
合計	5,249	528	186	3,723	11,154	46	2,938	2,495	271	259	26,849

【平成 21 年度】

	技術 工学	建設工学 土木工学	建築学	機械工学	電気工学	海洋学 船舶工学	金属工学 鉱山工学	化学工業	製造工業	家政学 生活科学	合計
和書	4,752	535	191	3,169	9,922	59	2,266	1,953	230	264	23,341
洋書	477	36	4	556	1,066	7	708	633	61	0	3,548
視聴覚資料	69	0	0	7	35	0	3	4	0	0	118
合計	5,298	571	195	3,732	11,023	66	2,977	2,590	291	264	27,007

【平成 22 年度】

	技術 工学	建設工学 土木工学	建築学	機械工学	電気工学	海洋学 船舶工学	金属工学 鉱山工学	化学工業	製造工業	家政学 生活科学	合計
和書	4,841	575	192	3,224	10,055	66	2,280	1,966	231	264	23,694
洋書	478	38	4	557	1,069	7	708	636	61	1	3,559
視聴覚資料	69	0	0	7	35	0	3	4	0	0	118
合計	5,388	613	196	3,788	11,159	73	2,991	2,606	292	265	27,371

【平成 23 年度】

	技術 工学	建設工学 土木工学	建築学	機械工学	電気工学	海洋学 船舶工学	金属工学 鉱山工学	化学工業	製造工業	家政学 生活科学	合計
和書	4,891	591	196	3,319	10,172	68	2,296	1,988	239	283	24,043
洋書	491	41	4	561	1,073	7	710	637	61	1	3,586
視聴覚資料	69	0	0	7	35	0	3	4	0	0	118
合計	5,451	632	200	3,887	11,280	75	3,009	2,629	300	284	27,747

(出典 学生課資料)

## 技術工学分野の受入図書等内訳

## 【平成 19 年度】

	技術 工学	建設工学 土木工学	建築学	機械工学	電気工学	海洋学 船舶工学	金属工学 鉱山工学	化学工業	製造工業	家政学 生活科学	合計
和書	124	10	3	28	216	2	12	24	0	3	422
洋書	3	3	1	0	6	0	0	1	0	0	14
視聴覚資料	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	127	13	4	28	222	2	12	25	0	3	436

## 【平成 20 年度】

	技術 工学	建設工学 土木工学	建築学	機械工学	電気工学	海洋学 船舶工学	金属工学 鉱山工学	化学工業	製造工業	家政学 生活科学	合計
和書	91	76	3	21	157	0	19	12	3	7	389
洋書	3	8	0	0	2	0	1	3	0	0	17
視聴覚資料	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	94	84	3	21	159	0	20	15	3	7	406

## 【平成 21 年度】

	技術 工学	建設工学 土木工学	建築学	機械工学	電気工学	海洋学 船舶工学	金属工学 鉱山工学	化学工業	製造工業	家政学 生活科学	合計
和書	58	38	6	26	161	6	5	14	2	5	321
洋書	0	4	0	0	5	0	1	0	0	0	10
視聴覚資料	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	58	42	6	26	166	6	6	14	2	5	331

## 【平成 22 年度】

	技術 工学	建設工学 土木工学	建築学	機械工学	電気工学	海洋学 船舶工学	金属工学 鉱山工学	化学工業	製造工業	家政学 生活科学	合計
和書	88	40	1	55	133	7	14	13	1	0	352
洋書	1	2	0	1	3	0	0	3	0	1	11
視聴覚資料	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	89	42	1	56	136	7	14	16	1	1	363

## 【平成 23 年度】

	技術 工学	建設工学 土木工学	建築学	機械工学	電気工学	海洋学 船舶工学	金属工学 鉱山工学	化学工業	製造工業	家政学 生活科学	合計
和書	58	15	2	78	124	1	8	13	7	3	309
洋書	0	3	0	4	0	0	1	1	0	0	9
視聴覚資料	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	58	18	2	82	124	1	9	14	7	3	318

(出典 学生課資料)

資料 8 - 2 - ① - 4

受入図書を選定状況

【図書資料】

	教職員選定	学生購入希望	ブックハンティング	その他	合計
19年度	903(49)	73(3)	153(3)	272	1,400(55)
20年度	1,797(289)	93(0)	190(15)	249	2,326(304)
21年度	507	147(11)	160(26)	1,811	2,625(37)
22年度	488	284(4)	198(0)	886	1,856(4)
23年度	577(120)	175(6)	242(5)	1,040(59)	2,034(190)

( ) は資格・検定試験の問題集内数

【視聴覚資料】

	教職員選定	学生購入希望	ブックハンティング	その他	合計
19年度	11	2	0	0	13
20年度	34	2	0	1	37
21年度	9	0	0	3	12
22年度	9	0	0	19	28
23年度	7	0	0	20	27

(出典 学生課資料)

資料 8 - 2 - ① - 5

学術雑誌購読数

	平成 19 年度		平成 20 年度		平成 21 年度		平成 22 年度		平成 23 年度	
	洋書	和書								
教養教育	11	34	8	30	8	28	7	23	5	23
機械工学科	0	2	0	2	0	2	0	2	0	2
電気電子工学科	0	8	0	7	0	4	0	4	0	10
電子情報工学科	0	5	0	5	0	5	0	6	0	9
生物応用化学科	0	2	0	2	0	2	0	2	0	2
材料工学科	1	6	1	5	0	5	0	3	0	3
図書館	1	5	1	5	1	5	1	5	1	5
合計	13	62	10	56	9	51	8	45	6	54

(出典 学生課資料)

資格取得件数一覧

文部科学大臣が別に定める学修	認定される科目名及び単位数			19年度	20年度	21年度	22年度	23年度
	科目名	級	単位数					
実用英語技能検定の合格に係る学修	実用英語技能検定	1級	6					
		準1級	4					
		2級	2			1		
		準2級	1	1		1	1	
実用フランス語技能検定の合格に係る学修	実用フランス語技能検定	1級	6					
		2級	4					
		3級	2					
		4級	1					
スペイン語技能検定の合格に係る学修	スペイン語技能検定	1級	6					
		2級	4					
		3級	2					
		4級	1					
日本漢字能力検定の合格に係る学修	日本漢字能力検定	1級	3					
		準1級	2				1	
		2級	1	26	32	30	20	16
工業英語能力検定の合格に係る学修	工業英語能力検定	1級	6					
		2級	3					
		3級	1	9	11	11	6	4
ラジオ・音響技能検定の合格に係る学修	ラジオ・音響技能検定	1級	2					
		2級	1					
デジタル技術検定の合格に係る学修	デジタル技術検定	1級	2					
		2級	1	3				
画像情報技能検定CG部門の合格に係る学修	画像情報技能検定CG部門	1級	4					
		2級	2	1	2			
公害防止主任者	大気		1					
	水質		1					
	粉塵		1					
	騒音		1					
	振動		1					

資料 8 - 2 - ① - 6 続き

資格取得件数一覧

技能審査の名称	等級	単位数	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度
実用数学技能検定	1級	2					
	準1級	1					
TOEIC (平成19年度～)	860～	6		2	4	2	2
	790～859	5		1	1	1	2
	730～789	4	1	2	1	1	1
	600～729	3		4	2	5	8
	470～599	2	9	10	8	7	12
	425～469	1	8	7	11	5	16
日本語能力試験	N1	2				2	2
	N2	1				1	
情報処理技術者		1～4	(1単位)3 (2単位)7	(1単位)4 (2単位)2	(2単位)3	(2単位)5	(3単位)1 (2単位)5
CGエンジニア検定	CG部門 エキスパート2級	1				2	
	画像処理部門エキス パート2級	1					
危険物取扱者	甲種	2	3	1	8	1	1
	乙種(6つの 類)	2	1	2	2	3	1
	乙種(3つの 類)	1	4	4	6	2	1
電気主任技術者	2種	4				1	3
	3種	2	4		2	2	
陸上無線技術者	1級	4					
	2級	2					
電気通信主任技術者		4					
電気工事士	1種	2					
	2種	1	4	3			
3次元CAD 利用技術者検定	1級	3			1		
	準1級	2					
	2級	1					1
技術士補	化学部門	6				1	
高圧ガス製造保安責 任者	丙	1					
放射線取扱主任者	1種	4					
	2種	2					
知的財産管理	2級	2					
技能士	3級	1					

(出典 学生課資料)

閲覧コーナーの書籍一覧（抜粋）

分類	代表的な書籍名	冊数
シラバス記載の参考書関係		
機械工学科		21
	ロボットの力学と制御	
	機械要素設計	
	振動工学	
電気電子工学科		25
	電気回路論	
	照明工学	
	高電圧大電流工学	
電子情報工学科		27
	コンピュータネットワーク	
	情報通信システム	
	人工知能	
生物応用化学科		38
	化学工学 I	
	レーニンジャーの新生化学（上・下）	
	微生物工学	
材料工学科		29
	鉄鋼材料学	
	破壊と材料	
	塑性加工	
外国の教科書		49
	Mechanics of Materials Fifth Edition	
	Electromagnetics	
	An Invitation to Computer Science Java™ Version	
多読図書		1510
	Oxford Bookworms Library level S-6	
	Penguin Readers level 1-6	
	Macmillan Guided Readers 2-6	
環境関係		235
	環境化学の事典	
	Eco 検定 過去・模擬問題集	
	地球環境を守ろう（DVD）	
資格・検定試験等の問題集		
英検関係		301
	絶対合格英検準1級	
	英検1級合格のための DAILY30 日合格ゼミ	
	英検準2級リスニング問題ターゲット CD 付	
日本語・漢検関係		328
	漢検 四字熟語辞典（第一版）	
	日本語検定公式テキスト	
	漢字検定準2級突破	
TOEIC関係		358
	TOEIC テスト新公式問題集 Vol.1~4	
	TOEIC860 点攻略コンプリートマスター	
	TOEIC テスト リスニング問題集	

資料 8 - 2 - ① - 7 続き

閲覧コーナーの書籍一覧 (抜粋)

分類	代表的な書籍名	冊数
資格・検定試験等の問題集		
電験関係		182
	電験第二種一次試験	
	電験第二種徹底研究	
	完全マスター電験三種受験テキスト 電力	
情報関係		111
	ITパスポート試験標準教本	
	応用情報技術者予想問題集	
	CG検定2級問題集	
危険物関係		21
	わかりやすい甲種危険物取扱者試験	
	乙種第4類危険物取扱者ポイントレッスン	
	チャレンジライセンス乙種1・2・3・5・6類危険物取扱者テキスト	
技術士関係		30
	技術士第一次試験問題集	
	技術士第二次試験の解答例	
	技術士二次試験の徹底研究	
工業英検関係		141
	工業英検2級対策	
	工業英検3級問題集	
	工業英検基礎単語300選ワークブック	
就職・進学関係		107
	最強の面接	
	最新最強のSPIクリア問題集	
	女子学生のための最強の就職面接	
	大学受験案内	
その他		51
	放射線取扱主任者第2種試験問題集	
	一級ボイラー技士試験 実戦問題	
	2種冷凍試験 実戦問題	
	毒劇物取扱責任者試験	
	わかる色彩検定2級ポイントレッスン	
	知的財産管理技能検定2級実技スピード問題集	

(出典 学生課資料)

読書感想文コンクール入選者 (平成 23 年度)

平成23年度(第35回)読書体験記・エッセイコンクール結果

「読書体験記」部門(第31回『全国高校生読書体験記コンクール』応募)

【第1学年】

〔最優秀賞〕

・生物応用化学科  「安閑」 (『坊ちゃん』)

〔優秀賞〕

・生物応用化学科  「正義」 (『坊ちゃん』)

・生物応用化学科  「人のちから」 (『なげださない』)

〔佳作〕

・ (1 C),  (1 C)

【第2学年】

〔最優秀賞〕

・電子情報工学科  「弱さを知る、自分を知る」 (『坊ちゃん』)

〔優秀賞〕

・生物応用化学科  「『生』と『死』のピアノ」 (『いちご同盟』)

・生物応用化学科  「幸せ探しの旅」 (『銀河鉄道の夜』)

〔佳作〕

・ (2 M),  (2 E),  (2 E),  (2 I),  
 ・ (2 I),  (2 I),  (2 I),  (2 C),  
 ・ (2 C),  (2 C),  (2 S)

【第3学年】

〔最優秀賞〕

・電気電子工学科  「『エイジ』が伝えてくれたこと」 (『エイジ』)  
 《一ツ橋・三重県入選》

〔優秀賞〕

・生物応用化学科  「小説のような世界」 (『葡萄が目にしみる』)

・電子情報工学科  「人の存在証明」 (『分身』)

〔佳作〕

・ (3 M),  (3 M),  (3 I),  
 ・ (3 I),  (3 C),  (3 C),  
 ・ (3 C),  (3 S),  (3 S)

「エッセイ」部門1, 4, 5年生(第6回「ニッケ PureHeart エッセー大賞」応募)

【第1学年】

〔最優秀賞〕

・機械工学科  「『はやぶさ』のくれた夢」  
 《ニッケ佳作入賞・全国 12 位以内》

〔優秀賞〕

・生物応用化学科  「ありがとう登山靴」  
 《ニッケ入選・全国 50 位以内》

・電気電子工学科  「母との約束。高校受験」

読書感想文コンクール入選者（平成 23 年度）

〔佳作〕

- ・  (1 M) ,  (1 M) ,  (1 M) ,  (1 E) ,
- ・  (1 E) ,  (1 E) ,  (1 I) ,  (1 I) ,
- ・  (1 I) ,  (1 I) ,  (1 C) ,  (1 C) ,
- ・  (1 C) ,  (1 C) ,  (1 S) ,  (1 S) ,
- ・  (1 S) ,  (1 S)

【第 4、5 学年】

〔最優秀賞〕

- ・ 4 年電子情報工学科  「ラストレース」  
《ニック佳作入賞・全国 12 位以内》

〔優秀賞〕

- ・ 4 年生物応用化学科  「胃もたれと幸せ」  
《ニック入選・全国 50 位以内》
- ・ 4 年電気電子工学科  「手紙」

〔佳作〕

- ・  (4 M) ,  (4 M) ,  (4 C) ,  (4 C) ,
- ・  (4 C) ,  (4 S)

「エッセイ」部門 2、3 年生（「JICA 国際協力高校生エッセイコンテスト 2011」応募）

【第 2 学年】

〔最優秀賞〕

- ・ 生物応用化学科  「必要なこと」

〔優秀賞〕

- ・ 機械工学科  「おばあさん」
- ・ 材料工学科  「忘れないように」

〔佳作〕

- ・  (2 M) ,  (2 M) ,  (2 E) ,
- ・  (2 E) ,  (2 I) ,  (2 I) ,
- ・  (2 C) ,  (2 S) ,  (2 S)

【第 3 学年】

〔最優秀賞〕

- ・ 電気電子工学科  「私の国際貢献の考え」  
《青年海外協力隊三重県 OB 会会長賞》

〔優秀賞〕

- ・ 機械工学科  「共に」
- ・ 生物応用化学科  「遠いここから願うこと」

〔佳作〕

- ・  (3 M) ,  (3 M) ,  (3 M) ,  (3 I) ,
- ・  (3 E) ,  (3 E) ,  (3 E) ,  (3 I) ,
- ・  (3 I) ,  (3 C) ,  (3 S) ,  (3 S)

（出典 学生課資料）

「図書館だより」

図書館

知識の森に出かけよう

図書館長 近藤 一之

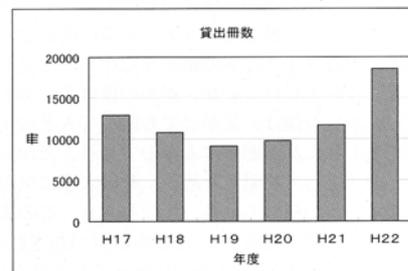
平成 23 年 4 月から図書館主事（図書館長）に任ぜられた近藤一之です。電気電子工学科の学科長も兼任しています。どちらの仕事も精一杯やりたいと思っていますので、よろしくをお願いします。

20 年程前、鈴鹿高専図書館が一般市民の方々に開放されたころ、鈴鹿高専の封筒に「近くにあった、知識の森に出かけよう」というキャッチコピーが印刷されていました。どなたの発案であったのかは知りませんが、とても良い言葉だと思っています。最近になって知ったのですが、図書館のウェブページ <http://www.suzuka-ct.ac.jp/lib/> の図書館カレンダーのページに今でもその言葉が使われています。図書館って、まさに「知識の森」ですね。蔵書数は約 10 万冊、主に利用する学生千数十人に対しては大変大きな数です。皆さんが読んでみたいと思う専門書や文学作品の多くは所蔵していると思います。検索用のパソコンもありますので、読みたい本を探してください。もし、自分の読みたい本がなければ購入希望図書として申し込んでください。これは図書館閲覧室に受付箱が設置してありますし、上に書いたウェブページからも申し込むことができます。予算などの関係もありますので全ての希望図書が購入できるとは限りませんが、なるべく希望には添うようにしたいと思っています。知識の森を大きくすることに協力ください。

最近の貸出傾向を見てみると右のグラフのようになっています。平成 17 年度以降減少傾向が続いていましたが、平成 20 年度以降は回復傾向にあり、特に 22 年度は大きく伸びています。その要因としては、英語多読用図書コーナーなどの設置、資格試験用参考書やブックハンティングなどを通じての希望図書の購入、夜間・休日開館の実施による利用の促進などがあげられます。この 3 年間の図書館利用の伸長は図書館関係者の努力によるところが大きいと思われる。

一冊の本が、その人の人生を決めてしまうようなターニングポイントにおいて、とても大きな意味を持ったり、役割を果たしたりすることがあります。私も小学生の頃に読んだ科学雑誌の記事に導かれて、

「電気」に興味を持ったような気がします。その本を読んだことが、今の自分につながっているのだなあと感じています。私の恩師から「専門書を学生時代に 1 冊読み切ることは難しい」と聞いたことがあります。私もそれを実現できたのは鈴鹿高専を卒業してから 4 年目のことでした。自分 1 人で読み切ってみて、その領域のことが今までとは違っただけははっきり見えた、という気持ちになったことを覚えています。皆さんもチャレンジしてみてください。分からない部分があっても読み進んでいくとその先にヒントや答が書いてあることがあります。今はインターネットで分からない用語などはすぐに調べることができますから、読み進めるのは以前より容易かもしれません。今後も大いに図書館を利用していただき、教養を高めたり、専門性を磨いてください。



近藤図書館長（真ん中）と図書館スタッフ

図書館利用状況

利用者	年度	19 年度	20 年度	21 年度	22 年度	23 年度
	貸出 (冊) 学生 機械工学科		1,365	1,393	1,720	2,904
電気電子工学科		1,178	1,451	1,720	3,882	2,681
電子情報工学科		1,293	1,230	1,421	2,290	2,147
生物応用化学科		2,422	2,144	2,505	3,221	2,624
材料工学科		1,366	1,441	1,685	3,706	2,277
電子機械工学専攻		240	294	471	701	699
応用物質工学専攻		89	336	583	346	277
学生貸出冊数		7,953	8,289	10,105	17,050	13,015
一人当たりの貸出冊数		6.9	7.3	8.9	14.9	11.3
貸出 (冊) 教職員		596	747	801	980	870
貸出 (冊) 一般利用者		476	637	736	526	385
総貸出冊数		9,025	9,673	11,642	18,556	14,270
入館者数 (人)		79,559	72,338	78,270	93,392	83,814
年間開館日数 (日)		276	280	275	277	278

(出典 学生課資料)

## 図書館の利用案内（学生便覧）（抜粋）

## 3.1 図書館

## 概要

図書館には、授業に関連のある学習の本を中心に、教養図書や学術雑誌などの研究資料が分類別に約10万冊整備され、一部を除き自由に手にとって読むことができます。また、音楽CD、DVDなどの視聴覚資料もあり、視聴覚機器と共に利用できます。

図書館の本を探すには、情報検索用パソコンを利用して配架の場所を知ることができます。

また、本校図書館は、一般市民の方も利用されますので、みんなが気持ちよく利用できるように一人ひとりがマナーを守ってください。

学生時代に読んだ本は、豊かな人間性を育てるとともに、みなさんが社会へ出て高度な判断をする時などの基礎になり、将来きっと役に立つと思います。在学中に本をたくさん読んで豊かな知識と教養を身につけてください。

## 開館日と時間

平日 9:00～22:00

土曜日 9:00～17:00

（春季／夏季／冬季／学年末／臨時休業の平日 9:00～17:00）

\* 試験期間中は、日曜日も開館します。行事等で休館になる場合もあります。詳しくは、図書館カレンダーや掲示板で確認してください。

## 貸出と返却

図書や資料の貸出・返却は、バーコードシステムによって行われていますので、図書館を利用する時は、必ず学生証を持参してください。

1) 貸出：カウンターで、学生証と貸出を希望する図書を係員に渡してください。

貸出できる冊（点）数と期限は、5冊以内・14日以内です。

2) 返却：カウンターで返却する図書を係員に渡してください。

開館時間外に返却する場合はマルチメディア棟入口横（右奥）の返却箱を利用してください。

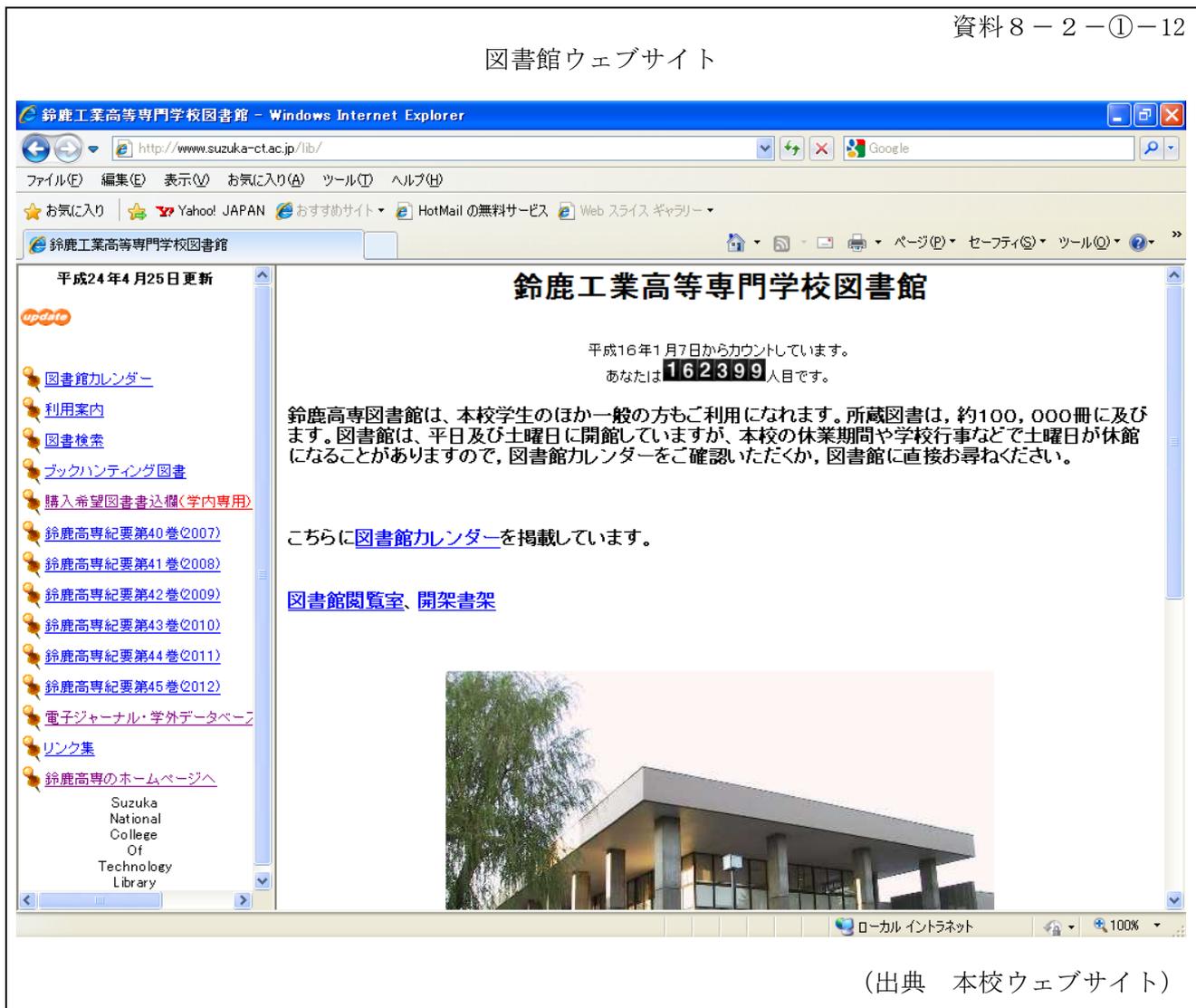
3) 継続：貸出期限を超えてさらに貸出を希望するときは、期限内に継続の手続きをしてください。さらに14日間まで貸出が延長されます。カウンターで、学生証と継続希望の図書を係員に渡してください。継続貸出は原則1回限りとします。

4) 督促：もし返却期限を過ぎたときには、学生個人宛に返却督促がなされますので、返却督促を受けたら、直ちに図書・資料を返却してください。

5) その他：借りた図書などを、他の人に転貸してはいけません。借りた図書などを紛失または著しく汚損したときには、係員に申し出てください。この場合は原則として同一の図書・資料を弁償しなければなりません。また、返却期限の過ぎた図書などがある場合は、新たな貸出は、制限されますので注意してください。

（出典 平成24年度学生便覧 p.12-14）

図書館ウェブサイト



(出典 本校ウェブサイト)

(分析結果とその根拠理由)

本校は図書及び視聴覚資料を、全学における講義及び学科・専攻科の専門分野等を考慮しつつ、学生の要望も取り入れて系統的に整備し、十分に活用している。また、図書館のウェブサイトから電子ジャーナルを活用できるよう整備している。

以上のことから、本校では、図書、学術雑誌、視聴覚資料その他の教育研究上必要な資料を、系統的に収集・整理するとともに有効に活用している。

## (2) 優れた点及び改善を要する点

(優れた点)

該当なし。

(改善を要する点)

厳しい予算の状況下ではあるが、教育課程の充実を図るため、残された老朽化施設の改修等に加えて、創造教育の充実等を推進するための施設・設備等の整備に努力する必要がある。

## (3) 基準 8 の自己評価の概要

本校の教育課程を実現するための施設・設備の現状、問題点及び改善方策について定期的に公表するとともに、その整備計画の実現を図っている。

校舎の施設においては、全教室への「教室内・画像掲示装置」、液晶プロジェクター及びスクリーン、大実験室や50名近い教室への放送設備等を配備したことにより、講義の多様化や受講する学生の教育環境が向上している。他方、改修が残されている老朽化した校舎（機械工学科棟，材料工学科棟）の整備は、今後の課題である。

学内共同利用施設として、図書館、情報処理センター、共同研究推進センター及び実習センターを設置している。①図書館は、学科・専攻科の専門分野等を考慮しつつ、学生の希望を取り入れて図書資料等を収集し、現在約11万冊の図書資料に加えて視聴覚資料や学術雑誌を所蔵している。閲覧室のほかに電子閲覧・検索ができる進学就職コーナーを設け、平日22時、土曜日は17時まで利用できる。②情報処理センターは、2つの演習室とビデオ編集、ポスター作成などを行う演習室を有している。また、演習室のパソコンには、充実したソフトウェアがインストールされており、授業外でも利用できるように平日20時まで開放している。教育研究、教育内容・方法や学生のニーズを満たすICT環境を、本校のセキュリティポリシーに基づいて適切に維持管理・運用している。③共同研究推進センターは、産学官・学内共同研究の拠点として整備しており、学科の学生実験、卒業研究及び専攻科特別研究等にも利用している。④実習センターは、実験・実習のほかに卒業研究等の授業、創造工学の一環であるロボコンやソーラーカー製作等に活用しているが、建物の老朽化が著しかった。しかしながら、平成23年度3号補正において、本格的な創造教育を展開するための「クリエーション工房（現 実習センター）」としての改修が採択され、来年度に向けての教育環境の大きな改善につながっている。このように、各施設の整備された設備は本校の教育課程を実現するために、教育研究に対する安全面及び環境面に配慮しつつ有効に活用しているが、時代にマッチした先端設備のさらなる整備は必要であると考えている。なお、これらの施設・設備の管理・運営は適切に実施されており、安全衛生管理体制の整備・充実にも取り組んでいる。また、環境保全対策については、本校の環境マネジメントシステム運用体制をもとに、環境との調和と環境負荷の低減に努め、成果をあげている。